



東北大学

2024 年度 東北大学会計大学院シラバス

(PDF 版)

2024 年 4 月 1 日 現在

注意

- ・本会計大学院のシラバスは学務情報システムで掲載されております。本 PDF 版はシステムからプリントアウトしたものであるため、一部、体裁が乱れている箇所がございます。
- ・本 PDF 版のシラバスは 2024 年 4 月 1 日現在のものとなります。最新版は学務情報システムでご確認ください。
- ・授業方法, Google Classroom のコード、オフィスアワーなどのシラバスの追加情報はシラバス補遺で掲載しております (Google スプレッドシート、学内生のみ閲覧可能・要東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jtOdk

目次

財務会計 1 / Financial Accounting 1	1
財務会計 2 / Financial Accounting 2	3
財務会計 3 / Financial Accounting 3	5
財務諸表分析 / Financial Statements Analysis	7
企業評価 / Firm Valuation	9
簿記 1 / Bookkeeping 1	11
簿記 2 / Bookkeeping 2	13
簿記 3 / Bookkeeping 3	15
公会計 1 / Public Accounting 1	17
公会計 2 / Public Accounting 2	19
I F R S 1 / International Financial Reporting Standards 1	21
I F R S 2 / International Financial Reporting Standards 2	23
財務会計の理論と実証 / Financial Accounting Theory and Analysis	25
事例研究 (I F R S) / Case Study (International Financial Reporting Standards)	27
管理会計 1 / Management Accounting 1	29
管理会計 2 / Management Accounting 2	31
管理会計 3 / Management Accounting 3	33
原価計算 1 / Cost Accounting 1	35
原価計算 2 / Cost Accounting 2	37
事例研究 (管理会計) / Case Study (Management Accounting)	39
事例研究 (原価計算) / Case Study (Cost Accounting)	41
監査 1 / Auditing 1	43
監査 2 / Auditing 2	45
監査 3 / Auditing 3	47
監査実務 I / Audit Practice I	49
監査実務 II / Audit Practice II	51
事例研究 (監査制度) / Case Study (Auditing System)	53
監査計画の編成法 1 / Audit Planning 1	55
監査計画の編成法 2 / Audit Planning 2	57
内部統制の実務 / Internal Control Practice	59
ミクロ経済学 / Micro Economics	61
経営管理 / Business Management	63
マーケティング / Marketing	65
コーポレートファイナンス 1 / Corporate Finance 1	67
コーポレートファイナンス 2 / Corporate Finance 2	69

企業情報システム／Enterprise Information System.....	71
情報システム設計／Information System Design.....	73
戦略情報システム導入／Introduce Strategic Information System.....	75
事例研究（情報システム設計）／Case Study（Information System Design）.....	77
統計学／Statistics.....	79
計量経済分析 1／Econometric Analysis 1.....	81
計量経済分析 2／Econometric Analysis 2.....	83
金融行政 I／Financial Administration I.....	85
金融行政 II／Financial Administration II.....	87
財務行政／Treasury Administration.....	89
企業法 1／Corporate Law 1.....	91
企業法 2／Corporate Law 2.....	93
法人税法 1／Corporate Tax Law 1.....	95
法人税法 2／Corporate Tax Law 2.....	97
消費税法／Consumption Tax 1.....	99
所得税法／Individual Income Tax.....	101
企業開示制度と実務／Corporate Disclosure System.....	103
事例研究（金融行政）／Case Study（Financial Administration）.....	105
事例研究（企業法）／Case Study（Corporate Law）.....	107
事例研究（法人税法）／Case Study（Corporate Tax Law）.....	109
会計職業倫理／Accounting Profession Ethics.....	111
事例研究（会計職業倫理）／Case Study（Accounting Profession Ethics）.....	113
ビジネス・コミュニケーション 1／Business Communication 1.....	115
ビジネス・プレゼンテーション 1／Business Presentation 1.....	117
ビジネス・コミュニケーション 2／Business Communication 2.....	119
ビジネス・プレゼンテーション 2／Business Presentation 2.....	121
英文外書講読 b／Academic Reading b.....	123
ワークショップ a／Workshop a.....	125
ワークショップ b／Workshop b.....	126
プロジェクト調査（財務諸表） a／Project Research（Financial Statements）a.....	128
プロジェクト調査（財務諸表） b／Project Research（Financial Statements）b.....	130
プロジェクト研究（財務諸表） a／Project Study（Financial Statements）a.....	132
プロジェクト研究（財務諸表） b／Project Study（Financial Statements）b.....	134
プロジェクト調査（財務会計） a／Project Research（Financial Accounting）a.....	136
プロジェクト調査（財務会計） b／Project Research（Financial Accounting）b.....	137
プロジェクト研究（財務会計） a／Project Study（Financial Accounting）a.....	138
プロジェクト研究（財務会計） b／Project Study（Financial Accounting）b.....	140
プロジェクト調査（財務諸表分析） a／Project Research（Financial Statements Analysis）a.....	142

プロジェクト調査 (財務諸表分析) b/Project Research (Financial Statements Analysis)b.....	143
プロジェクト研究 (財務諸表分析) a/Project Study(Financial Statements Analysis)a.....	144
プロジェクト研究 (財務諸表分析) b/Project Study (Financial Statements Analysis)b.....	145
プロジェクト調査 (管理会計) a/Project Research (Management Accounting)a	146
プロジェクト調査 (管理会計) b/Project Research (Management Accounting)b	147
プロジェクト調査 (コストマネジメント) a/Project Research (Cost Management)a.....	148
プロジェクト調査 (コストマネジメント) b/Project Research (Cost Management)b.....	150
プロジェクト研究 (コストマネジメント) a/Project Study (Cost Management)a.....	152
プロジェクト研究 (コストマネジメント) b/Project Study (Cost Management)b.....	154
プロジェクト調査 (コーポレートファイナンス) a/Project Research (Corporate Finance)a.....	156
プロジェクト調査 (コーポレートファイナンス) b/Project Research (Corporate Finance)b.....	158
プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) a/Project Study (Corporate Finance)a.....	160
プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) b/Project Study (Corporate Finance)b.....	162
プロジェクト調査 (監査) a/Project Research (Audit)a.....	164
プロジェクト調査 (監査) b/Project Research (Audit)b.....	165
プロジェクト研究 (監査) a/Project Study (Audit)a.....	166
プロジェクト研究 (監査) b/Project Study (Audit)b.....	167
プロジェクト調査 (法人税法) a/Project Research (Corporate Tax Law)a	168
プロジェクト調査 (法人税法) b/Project Research (Corporate Tax Law)b	170
プロジェクト研究 (法人税法) a/Project Study (Corporate Tax Law) a	172
プロジェクト研究 (法人税法) b/Project Study (Corporate Tax Law) b	173
会計・監査実務/Accounting and auditing practice.....	174

財務会計1 / Financial Accounting 1

担当教員 [Instructor] : 吉永 裕登 / YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義の目的は、財務会計の基礎概念を理解することです。
The purpose of this lecture is to understand the basic concepts of financial accounting.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

財務会計の基礎概念や概念フレームワーク、企業会計原則のような日本の会計基準の背後にある全体的な考え方を理解すること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第 14 回以外の通常の講義日には講義資料と講義動画をアップロードするので、都合の良い時間や場所で動画を視聴して、学習していただきます。同時に講義内容を復習するために正誤問題を出題し、成績評価に反映させます（提出期限あり）。復習のための練習問題も、合わせて配布する予定です。その他、授業に関連する論点を提示して、自分の頭で考える機会や、様々な背景を持つ周囲の学生の考えを理解することで多面的な視点を養う機会を設けます。
理解度確認セッションの日には、講義室で時間割の時間内で理解度確認セッションを実施する予定です。

第 1 回：オリエンテーション / Orientation

オリエンテーションとして、講義の概要や対象範囲、進め方、成績評価などについて説明します。

第 2 回：財務会計の基礎概念 / Basic Concept of Financial Accounting

財務会計の基礎概念について学びます。

第 3 回：概念フレームワーク / Conceptual Framework for Financial Reporting

概念フレームワークについて学びます。

第 4 回：企業会計制度と会計基準 / Financial Accounting System and Financial Accounting Standards

企業会計制度と会計基準について学びます。

第 5 回：資産会計総論 / Assets

資産会計総論について学びます。

第 6 回：流動資産 / Current Assets

流動資産について学びます。

第 7 回：棚卸資産 / Inventories

棚卸資産について学びます。

第 8 回：有形固定資産 / Tangible Fixed Assets

固定資産の定義と分類、有形固定資産について学びます。

第 9 回：無形固定資産と投資その他の資産、繰延資産 / Intangible Assets, Investments and Other Assets, and Deferred Assets

無形固定資産と投資その他の資産、繰延資産について学びます。

第 10 回：負債 / Liabilities

負債について学びます。

第 11 回：純資産 / Net Assets

純資産について学びます。

第 12 回：収益と費用・財務諸表の体系 / Revenue and Expenses. The System of Financial Statements.

財務諸表の体系、収益と費用について学びます。

第 13 回：収益認識 / Revenue Recognition

収益認識に関する会計基準について学びます。

第 14 回：理解度確認セッション / Examination

理解度確認セッションを実施します。

第 15 回：理解度確認セッションのフィードバック / Feedback of Examination

理解度確認セッションのフィードバックを行います。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義後の確認問題（20%）、論点に関する議論（レポート）（20%）、理解度確認セッション（60%）で機械的に評価します。

・理解度確認セッションでは、主に論述問題を出題します。半分以上を論述問題が占めるので、ご注意ください。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

論理が伝わる 世界標準の「書く 倉島 保美 技術」	講談社	2012	987-	参考書
			4062577939	

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習は不要ですが、授業後の確認問題への回答や配布する練習問題を通じて復習するようお願いいたします。また、論点に対するレポートを要求しています。

授業で使用した開示資料（会計基準や概念フレームワークなど）は、講義資料の末尾に URL を貼っておきますので、特に会計士試験受験者は最低一読することを推奨します。

10. その他 [In addition] :

【この講義を受講するために必要となる知識】

- ・大学院修士学生として要求される水準の論理的思考力と文章表現の技術。
- ・基本的な部分から行う予定ですが、簿記検定や公認会計士試験の財務会計論の知識を持っておくとう理解が深まると思います。

【その他注意点】

- ・財務会計 1・2・3 は財務会計論（理論）の内容を 3 分割したもので、必ずしも「1→2→3」の順番で受ける必要はありません。財務会計 1 は会計理論全般に関わる概念を主に扱い、財務会計 2・3 は個別の会計基準を扱っています。そのため、財務会計の概念について理解したい方は財務会計 1 を、個別の基準の理解を深めたい方はシラバスからご自身の関心に合う内容を確認した上で、財務会計 2 ないし 3 を選択すると良いと思います。
- ・主に、公認会計士試験・財務会計論の理論分野を扱います。そのため、公認会計士コースの方を主な対象とします。
- ・この講義は、財務会計論の「理論分野」を対象とします。簿記等の「計算分野」は本講義では基本的に取り扱いません。本講義の内容を深く理解するためには、簿記の講義を受講することをオススメします。
- ・資料や受講者へのアナウンスは Google Classroom を通じて行います（クラスコードは別資料で公開予定）。パソコンなどのデバイスを持ってくるか、印刷して学習するようにお願いします。
- ・聴講（履修者以外の Google Classroom への登録）は原則として認めておりません。履修登録確認期間後に履修者以外の登録を削除していく予定です。もし何かの事情があつて聴講を希望する場合には、予めご連絡ください。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

財務会計 2 / Financial Accounting 2

担当教員 [Instructor] : 吉永 裕登 / YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC502J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義の目的は、財務会計の基礎概念を理解することです。
The purpose of this lecture is to understand the basic concepts of financial accounting.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

授業で取り上げた会計基準を理解すること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第 14 回以外の通常の講義日には講義資料と講義動画をアップロードするので、都合の良い時間や場所で動画を視聴して、学習していただきます。同時に講義内容を復習するために正誤問題を出題し、成績評価に反映させます（提出期限あり）。復習のための練習問題も、合わせて配布する予定です。

理解度確認セッションの日には、講義室で時間割の時間内で理解度確認セッションを実施する予定です。

第 1 回 : オリエンテーション / Orientation

オリエンテーションとして、講義の概要や対象範囲、進め方、成績評価などについて説明します。

第 2 回 : キャッシュ・フロー / Cash Flow

キャッシュ・フローについて学びます。

第 3 回 : 財務諸表の過年度修正 / Retrospective Application

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準について学びます。

第 4 回 : リース / Lease

リースについて学びます。

第 5 回 : 金融商品 / Financial Instruments

金融商品について学びます。

第 6 回 : デリバティブ / Derivative

主にデリバティブを説明します。

第 7 回 : デリバティブ (ヘッジ会計) / Derivative (Hedge Accounting)

デリバティブを用いたヘッジ会計について学びます。

第 8 回 : ストック・オプション / Stock Option

ストック・オプションについて学びます。

第 9 回 : 研究開発費とソフトウェア / R&D Expenses and Software

研究開発費とソフトウェアについて学びます。

第 10 回 : 固定資産の減損 / Impairment of Fixed Assets

固定資産の減損会計について学びます。

第 11 回 : 資産除去債務 / Asset Retirement Obligations

資産除去債務について学びます。

第 12 回 : 退職給付 1 / Retirement Allowance Reserves 1

退職給付の基礎 (数理計算上の差異、過去勤務費用がない場合) について学びます。

第 13 回 : 退職給付 2 / Retirement Allowance Reserves 2

退職給付 (数理計算上の差異、過去勤務費用がある場合) について学びます。

第 14 回 : 理解度確認セッション / Examination

理解度確認セッションを実施します。

第 15 回 : 理解度確認セッションのフィードバック / Feedback of Examination

理解度確認セッションのフィードバックを行います。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義後の確認問題 (20%)、論点に関する議論 (レポート) (20%)、理解度確認セッション (60%) で機械的に評価します。

・理解度確認セッションでは、主に論述問題を出題します。半分以上を論述問題が占めるので、ご注意ください。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

論理が伝わる 世界標準の「書く 倉島 保美 講談社 2012 987- 参考書
技術」 4062577939

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習は不要ですが、授業後の確認問題への回答や配布する練習問題を通じて復習するようお願いいたします。また、論点に対するレポートを要求しています。
授業で使用了開示資料（会計基準や概念フレームワークなど）は、講義資料の末尾に URL を貼っておきますので、特に会計士試験受験者は最低一読することを推奨します。

10. その他 [In addition] :

【この講義を受講するために必要となる知識】

- ・大学院修士学生として要求される水準の論理的思考力と文章表現の技術。
- ・基本的な部分から行う予定ですが、簿記検定や公認会計士試験の財務会計論の知識を持っていくと理解が深まると思います。

【その他注意点】

- ・財務会計 1・2・3 は財務会計論（理論）の内容を 3 分割したもので、必ずしも「1→2→3」の順番で受ける必要はありません。財務会計 1 は会計理論全般に関わる概念を主に扱い、財務会計 2・3 は個別の会計基準を扱っています。そのため、財務会計の概念について理解したい方は財務会計 1 を、個別の基準の理解を深めたい方はシラバスからご自身の関心に合う内容を確認した上で、財務会計 2 ないし 3 を選択すると良いと思います。
- ・主に、公認会計士試験・財務会計論の理論分野を扱います。そのため、公認会計士コースの方を主な対象とします。
- ・この講義は、財務会計論の「理論分野」を対象とします。簿記等の「計算分野」は本講義では基本的に取り扱いません。本講義の内容を深く理解するためには、簿記の講義を受講することをオススメします。
- ・資料や受講者へのアナウンスは Google Classroom を通じて行います（クラスコードは別資料で公開予定）。パソコンなどのデバイスを持っていくか、印刷して学習するようにお願いします。
- ・聴講（履修者以外の Google Classroom への登録）は原則として認めておりません。履修登録確認期間後に履修者以外の登録を削除していく予定です。もし何かの事情があつて聴講を希望する場合には、予めご連絡ください。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

財務会計3 / Financial Accounting 3

担当教員 [Instructor] : 尾関 規正 / NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC601J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、財務会計における発展的な論点である法人税等、企業結合と事業分離、外貨換算、連結財務諸表、その他の開示情報に関する会計基準等の内容、および、その背景にある考え方を理解することを目的とします。

The purpose of this course is to learn accounting standards and the background of standard setting in financial accounting. This course covers accounting standards (Japanese Generally Accepted Accounting Principle) for income taxes, business combinations, business divestitures, foreign currency translation, consolidated financial statements, and other corporate disclosure.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

財務会計における法人税等、企業結合と事業分離、外貨換算、連結財務諸表、その他の開示情報に関する会計基準等の内容を理解すること、および、それらの会計基準設定の背景にある考え方を理解し、論述できることを学修の目標とします。

The goal of the study is to understand the content of accounting standards for income taxes, business combinations and divestitures, foreign currency translation, consolidated financial statements, and other financial accounting disclosures, and to understand and argue the reasoning behind the setting of these accounting standards.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義室での対面で講義を行います。クラスルームを通じて講義資料を配付して講義形式で行います。また、講義で扱う範囲の会計基準や適用指針などの規定を随時参照します。講義内容の理解を促すために毎回の講義で課題（レポート）を出します。

Lectures are given face-to-face in the lecture hall. Lectures will be delivered using lecture materials distributed through Google Classroom. In addition, we will refer to accounting standards, guidelines, and other regulations as necessary for the subject matter covered in the lectures. Assignments (reports) will be given in each lecture to promote understanding of the lecture content.

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の概要、講義計画、講義の進め方、成績評価に関する説明を行います。

第2回：法人税等 (1) / Income taxes and Tax effect accounting (1)

法人税等の計算の仕組みを解説したうえで、会計と税務の差異を認識する税効果会計における考え方や、税効果会計が対象とする差異の範囲を議論します。

第3回：法人税等 (2) / Income taxes and tax effect accounting (2)

税効果会計で適用される税率の考え方や算定される税効果額について説明します。また、財務諸表上の表示方法や繰延税金資産の回収可能性について解説します。

第4回：企業結合 (1) / Business combinations (1)

企業結合におけるパーチェス法や持分プーリング法を適用する基本的な考え方を説明します。また、のれんの処理について議論します。

第5回：企業結合 (2) / Business combinations (2)

企業結合に関する会計基準における合併、株式交換、株式移転での具体的な会計処理について説明します。

第6回：事業分離 / Business divestitures

事業分離に関する会計の基本的な考え方、分離元企業の会計処理、結合当事企業の株主に係る会計処理について説明します。

第7回：外貨換算 / Translation of foreign currency transactions

外貨換算の会計の目的や会計処理を取り扱い、換算方法の背景にある考え方を議論したうえで、外貨建取引や外貨建資産・負債の換算における会計処理や在外支店・在外子会社の財務諸表の換算の考え方を解説します。

第8回：四半期財務諸表 / Quarterly financial statements

四半期財務諸表の導入経緯や制度を整理し、年度の財務諸表と比較した場合の作成や表示方法について議論します。

第9回：理解度確認セッション1 / Examination 1

範囲や実施方法は講義において事前にアナウンスします。

第10回：連結財務諸表 (1) / Consolidated financial statements (1)

連結財務諸表を作成する意義と目的を理解し、連結財務諸表の作成手続の概要を連結会計主体論と関連付けながら説明します。連結財務諸表における一般原則を説明し、連結の範囲について議論します。

第11回：連結財務諸表 (2) / Consolidated financial statements (2)

連結貸借対照表を作成するために必要な投資と資本の相殺消去の方法を理解し、支配獲得時の子会社の資産および負債の時価評価や支配獲得後における子会社の持分を変化させる取引の会計処理における考え方を議論します。

第12回：連結財務諸表 (3) / Consolidated financial statements (3)

連結損益計算書を作成するために必要な連結決算手続について説明し、未実現利益の消去や連結財務諸表における税効果会計について説明します。

第13回：連結財務諸表 (4) / Consolidated financial statements (4)

持分法について説明し、持分法適用手続について連結手続と比較しながら議論します。また、連結包括利益計算書における考え方を議論します。

第14回：連結財務諸表 (5) / Consolidated financial statements (5)

連結財務諸表において開示される情報として、連結キャッシュ・フロー計算書、関連当事者との取引に関する注記、セグメント情報等の注記について解説します。

第15回：理解度確認セッション2 / Examination 2

範囲や実施方法は講義において事前にアナウンスします。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

課題 (20%)、理解度確認セッション1 (40%)、理解度確認セッション2 (40%) により評価します。また、理解度確認セッション1、理解度確認セッション2の両方に出席して解答を提出しない場合は、単位評価の対象としません。なお、講義に対するコメントや課題の取り組みに基づいて成績評価に加点する可能性があります。

AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満 ; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

スタンダードテキスト 財務会計論Ⅱ 応用論点編 [最新版]	佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史編著	中央経済社	※	978-4502462016	教科書
財務会計講義 [最新版]	桜井久勝	中央経済社	※	978-4502460616	参考書
会計監査六法 [最新版]	日本公認会計士協会・企業会計基準委員会編	日本公認会計士協会出版局	※	978-4910136240	参考書

8. 関連 URL [URL] :

Google クラスルームのクラスコードは「3z.jaj6b」です。
<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgwMzgMzM3>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習> 講義で扱う範囲のテキストの内容や会計基準または適用指針などの内容を一読し、要点を把握しましょう。

<復習> 講義内容を踏まえて、再度テキストを通読すると共に、各回の範囲の規定を参照しながら課題や設例に取り組み、理解を深めましょう。

10. その他 [In addition] :

教科書および参考書に関する注意事項 (※) です。教科書および参考書に指定している文献は、これまで毎年3月から5月の間に版が更新されています。このため、講義では2024年に更新された最新版を使います。講義開始から経過しても更新がされる予定がない場合は2024年4月授業開始時期の最新版をそのまま利用します。使用するテキストの版についての詳細は講義内でアナウンスします。また、「会計監査六法」は会計基準などが掲載されている規則集です。同様の会計基準などが収録されている他の規則集でも構いませんので、いずれかの規則集を入手して講義の予習・復習で会計基準を参照するようにしてください。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

財務諸表分析/Financial Statements Analysis

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 月曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC503J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

企業が公表する財務諸表に基づき当該企業の現状と課題を把握するための財務諸表分析について、基本的な比率分析の手法を中心に講義する。本講義で取り扱う手法は、企業評価、倒産分析、証券投資分析、監査など幅広く適用可能なものである。

I will lecture on the basic framework of financial statement analysis, focusing on the basic method of ratio analysis. The techniques that can be acquired from this lecture are widely applicable to corporate evaluation, bankruptcy analysis, securities investment analysis, and auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

大学院中級レベルの財務諸表分析手法を身につけ、実際に企業分析を自身で実施できるようになること。自身で財務諸表を入手して、安全性、収益性、成長性を分析できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本科目の目的、受講方法、成績評価方法を説明する。さらに、財務諸表分析の学習領域について概説する

第2回: 財務諸表分析と財務データの特性/Characteristics of Financial Data

財務諸表分析の前提となる財務諸表の入手方法、財務データの特性について講義する

第3回: 財務諸表の構造/Structure of Financial Statements

財務諸表分析において必要となる、財務3表の構造について講義する

第4回: 貸借対照表と損益計算書の基本分析/Basic analysis of balance sheet and income statement

貸借対照表と損益計算書に記載されている実数データを用いた財務諸表分析手法について講義する

第5回: 収益性/効率性分析 (1) /Profitability Analysis and Efficiency Analysis (1)

ROA (総資産利益率) の意義とその分解手法について講義する

第6回: 収益性/効率性分析 (2) /Profitability Analysis and Efficiency Analysis (2)

ROA の分解の2要素である売上高利益率と総資産回転率について、さらに詳細に分析する手法を概説する

第7回: 安全性分析 (1) 短期安全性/Safety Analysis (1)

企業の短期的な安全性を測定する尺度について概説する

第8回: 安全性分析 (2) 長期安全性/Safety Analysis (2)

中・長期的な企業の財務的安全性の分析指標について講義する

第9回: ROE の分解とその理解/ROE and Its Decomposition

ROE (自己資本利益率) の意義と、それをバレッジに分解する分析について概説する

第10回: 株式評価指標による企業価値評価/Equity valuation

株式評価指標の算定方法と解釈について講義する

第11回: 成長性分析・付加価値分析/Growth potential analysis and value-added analysis

成長性ならびに付加価値 (生産性) 分析の手法について講義する

第12回: キャッシュ・フロー分析/Cash flow Analysis

キャッシュ・フロー計算書の構造ならびにキャッシュ・フロー・データを利用した比率分析について講義する

第13回: グループ経営の分析/Analysis of Business Group Management

グループ経営を分析する手法として、連単倍率とセグメント情報の分析について講義する

第14回: 利益操作と財務諸表分析/Earnings Management

経営者による利益操作の背景とその検出方法について講義する

第15回: 理解度確認セッション/Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

レポート (20%) および理解度確認セッション (80%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

財務諸表分析 (第3版)	乙政正太	同文館出版	2019	4495193031	参考書
財務諸表分析 (第8版)	桜井久勝	中央経済社	2020	4502342416	参考書

8. 関連 URL [URL]:

Classroom
<https://classroom.google.com/c/NjYxNjc5NjY5NDk1?cjc=54wifkx>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

講義までにレクチャーノートおよび関連資料の指定された箇所を読み, 疑問点を明らかにしておくこと.

復習:

各回の講義で課題を課す.

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

株式会社に関する基本的な会計処理について理解していること

その他:

教科書については指定しないが, 講義は参考書として指定した乙政 (2019) と関連づけて構成する。同書は, 自習課題 (解答付き) も豊富にあり, 手許にあると有用である。講義の連絡, 講義資料の配付は全て Classroom (上記関連 URL 参照) を通じて実施する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

企業評価/Firm Valuation

担当教員 [Instructor] : 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 火曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC602J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、企業の特定の事業あるいは企業自体の価値を評価する枠組みを習得することを目的とする。講義では、様々な企業評価手法について理論的・実践的に解説する。さらに M&A, MBO 等に関わる事例を分析することで、企業評価に対する理解を深める。

The objective of this lecture is to acquire a framework for evaluating the value of a specific business of a company or the company itself. In the lecture, various corporate valuation methods will be explained theoretically and practically. In addition, students will deepen their understanding of corporate valuation by analyzing case of M&A and MBO.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

DCF 法を中心とした企業評価手法を修得し、企業評価に関連する事例を把握することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション/Orientation

コースの目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回：DCF法(1)財務諸表の組み替え/Discounted cash flow method (1)

貸借対照表のデータから、企業価値評価において必要となる投下資本表の作成手法を概説する。

第3回：DCF法(2)現状分析/Discounted cash flow method (2) Analysis of the existing situation

企業の現状を予測するための財務諸表分析の評価について講義する。

第4回：DCF法(3)資本コストの推計/Discounted cash flow method (3) Cost of Capital

資本コストの推計方法について講義する

第5回：DCF法(4)将来予測/Discounted cash flow method(4)Future forecast

将来予測の基本的なフレームワークについて検討する。

第6回：DCF法(5)継続価値の測定と理論株価の推計/Discounted cash flow method(5)Terminal value

継続価値の測定方法および理論株価の推計方法を講義する。

第7回：残余利益法/Residual Income Method

残余利益法およびその前提となる配当割引法について講義する。

第8回：倍率法と時価法/Multiple method and mark-to-market method

倍率法および時価法について講義する

第9回：その他の企業評価手法/Other Firm Valuation Methods

簿価純資産法や類似取引法等のアプローチについて講義する

第10回：企業評価に係る事例の分析 1/Case Study (1)

MBOにおける企業評価の事例について概説する。

第11回：企業評価に係る事例の分析 2/Case Study (2)

これまでに裁判等ではなかった企業評価の事例について概説する

第12回：企業評価に係る事例の分析 3/Case Study (3)

合併時における企業評価の事例について概説する

第13回：企業評価に関する諸論点/Issues Related to firm Valuation

企業評価の「仮定」ないし「前提」に係る諸問題について概説する

第14回：講義のまとめ/Summary of Lecture

これまでの講義をふりかえるとともに、今後の企業評価における検討課題について説明する

第15回：理解度確認セッション/Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

レポート (50%) および理解度確認セッション (50%) で評価する。レポートには講義内で提示した課題に回答頂くミニレポートと、テーマに沿って取り組んでいただく期末レポートが含まれる。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

企業価値評価【入門編】	鈴木一功	ダイヤモンド社	2018	4478028629	参考書
企業価値経営	伊藤邦雄	日本経済新聞社	2021	4532135140	参考書

8. 関連 URL [URL] :

Classroom

<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgwMjk3MTk1?cjc=bqveg3o>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

講義までにレクチャーノートおよびテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習:

各回の講義で課題を課す。数回は提出を求める

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

財務諸表分析の単位を修得していること。あるいは、財務諸表分析の基礎的な知識を有していること。

その他

(1) 教科書について指定しないが、無償で入手できる資料について準備頂く。詳細は開講時に指定する。

(2) 2024年度については本講義は対面を中心に一部講義をオンデマンドとする予定である。

(本講義は、西暦の奇数年はオンデマンド中心、偶数年は対面中心で実施予定である)

(3) ゲストレクチャーについて可能であれば実施する(シラバス作成時点では未定)

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

簿記1 / Bookkeeping 1

担当教員 [Instructor] : 成田 由加里 / YUKARI NARITA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC504J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ。対象とするのは個別財務諸表であり、個別財務諸表作成レベルの簿記の理解をその目的とする。経済環境に新たな変化に対し、販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより、どのような場面でも柔軟に対応できる基礎力が養われることが本講義の目的である。

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on individual financial statements. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方や背景を理解し、個々の取引を会計の表現方法に変換し財務諸表作成に至る会計処理を修得することを到達目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション・簿記勘定体系とビジネスプロセス / Orientation・Bookkeeping Chart and Business Process

講義の概要、講義の進め方、成績評価、学習方法（予習・復習）などについてシラバスを用いて確認する。

第2回：【損益計算】一般商品販売 / General product sales

損益計算の基本に関する会計処理を学ぶ。

第3回：【損益計算】一般商品販売・消費税 / General product sales and consumption tax

損益計算の基本と消費税に関する会計処理を学ぶ。

第4回：【損益計算】棚卸資産 / Inventories

売上原価を算定するうえで重要なファクターである棚卸資産の算定方法を学ぶ。

第5回：【損益計算】商品売買～委託販売 / Product Sales-Consignment Sales

委託売買について、ビジネスプロセスを理解し商品・資金の流れと勘定科目の仕組みを学ぶ。

第6回：【損益計算】商品売買～試用販売 / Product Sales-Trial Sales

試用売買について、ビジネスプロセスを理解し商品・資金の流れと勘定科目の仕組みを学ぶ。

第7回：【損益計算】商品売買～その他 / Product Sales- Others

その他売買について、ビジネスプロセスを理解し商品・資金の流れと収益認識基準に基づく勘定科目の仕組みを学ぶ。

第8回：【損益計算】工事契約に関する会計処理（建設業会計） / Accounting for construction contracts

請負工事収益の認識基準に基づく会計処理を学ぶ。

第9回：【金融商品】現預金・金銭債権 / Cash and deposits, monetary receivables

貸借対照表の構造を理解し、現預金・金銭債権の評価に基づく会計処理を学ぶ。

第10回：【金融商品】貸倒引当金 / Allowance for doubtful accounts

キャッシュ・フロー見積法等貸倒引当金の会計処理及び貸倒引当金に関する BS・PL 表示を学ぶ。

第11回：【金融商品】有価証券 / Securities

有価証券の4分類及び有価証券の期末評価に関し、評価方法・評価差額の処理とその理由について学ぶ。

第12回：【固定資産】有形固定資産 / Tangible fixed assets

①取得②費用化③減少④資産性に関する評価の4つのフェーズから①②の会計処理を学ぶ。

第13回：【固定資産】有形固定資産 / Tangible fixed assets

①取得②費用化③減少④資産性に関する評価の4つのフェーズから③④の会計処理を学ぶ。

第14回：理解度確認セッション / Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

第15回：総括 / Review

理解度確認セッションの確認のほか、講義全体を通じた総括を行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・理解度確認 セッション (60%)・予習復習理解度確認セッション (小テスト) + 課題 (40%) で評価する。

・ AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満; 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

必要に応じて講義で紹介する。

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習範囲に関して、疑問点を整理して講義に臨むこと。
予習・復習確認セッション（小テスト）を予定している。

10. その他 [In addition] :

履修条件：日商簿記2級程度の知識を有することが望ましい。
PC 及び電卓持参のこと。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

簿記2 / Bookkeeping 2

担当教員 [Instructor] : 成田 由加里 / YUKARI NARITA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC505J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ。対象とするのは個別財務諸表であり、個別財務諸表作成レベルの簿記の理解をその目的とする。経済環境に新たな変化に対し、販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより、どのような場面でも柔軟に対応できる基礎力が養われることが本講義の目的である。

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on individual financial statements. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方や背景を理解し、個々の取引を会計の表現方法に変換し財務諸表作成に至る会計処理を修得することを到達目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

- 第 1 回 : オリエンテーション・研究開発費とソフトウェア / Orientation, R & D expenses and software
講義の概要, 成績評価, 学習方法などについて説明を行い, 市場販売目的ソフトウェア等の会計を学ぶ。
- 第 2 回 : 資産除去債務 / Asset retirement obligations
会計基準の基本的考え方を理解した上で資産除去債務の基本型及び債務見積りの変更の会計処理を学ぶ。
- 第 3 回 : 減損 / Impairment
減損の重みを理解した上で認識・測定の基本形を学び, のれん・共用資産がある場合の減損会計を学ぶ。
- 第 4 回 : リース / Lease
リース取引 = 「固定資産取引」 + 「金融取引」と理解した上で, 取得・費用化の観点から会計を理解する。
- 第 5 回 : 引当金・退職給付引当金 / Provisions and Provision for retirement benefits
引当金及び引当金に加えて特有の事象を有する退職給付会計 (個別) について理解しその会計処理を学ぶ。
- 第 6 回 : 退職給付引当金 / Provision for retirement benefits
①基本 : 企業会計原則 + ②特有の事象 (1) 年金資産～控除 (2) 数理計算上の差異等～遅延認識を学ぶ。
- 第 7 回 : 純資産 / Net assets
純資産の部, 株主資本の変動を理解し, 欠損填補, 自己株式の取得, 処分, 消却時等の会計処理を学ぶ。
- 第 8 回 : 純資産・ストック・オプション / Net assets, Stock option
新株予約権の発行時, 権利行使時等の会計処理を理解した上で, スtock・オプションの基本を学ぶ。
- 第 9 回 : スtock・オプション / Stock option
適正な期間損益計算のため株式報酬費用の適切配分及び条件変更時の会計処理を学ぶ。
- 第 10 回 : 金融商品～デリバティブ / Financial Instruments-Derivative
先物取引, オプション取引等デリバティブに関する会計処理を理解する。
- 第 11 回 : 金融商品～デリバティブ・ヘッジ / Financial Instruments-Derivative Hedging
デリバティブを基礎にヘッジ会計が果たす有用な役割を理解した上でヘッジ会計の会計処理を学ぶ。
- 第 12 回 : 外貨換算 / Foreign currency conversion
外貨建取引の換算, 外貨建金銭債権債務の換算, 外貨建有価証券の換算, 為替予約について学ぶ。
- 第 13 回 : 税効果会計 / Tax effect accounting
法人税, 地方税, 特に事業税の課税特質, 繰越欠損金制度を理解し資産負債法による計算方法を学ぶ。
- 第 14 回 : 理解度確認セッション / Examination
これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。
- 第 15 回 : 総括 / Review
理解度確認セッションの確認のほか, 講義全体を通じた総括を行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- 理解度確認 セッション (60%) ・ 予習復習理解度確認セッション (小テスト) + 課題 (40%) で評価する。
- AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満; 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

必要に応じて講義で紹介する。

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習範囲に関して、疑問点を整理して講義に臨むこと。
予習・復習確認セッション（小テスト）を予定している。

10. その他 [In addition] :

履修条件：日商簿記2級程度の知識を有することが望ましい。
PC 及び電卓持参のこと。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

簿記3 / Bookkeeping 3

担当教員 [Instructor] : 成田 由加里 / YUKARI NARITA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC603J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ。対象とするのは連結財務諸表であり、連結財務諸表作成レベルの簿記の理解をその目的とする。経済環境に新たな変化に対し、販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより、どのような場面でも柔軟に対応できる基礎力が養われることが本講義の目的である。

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on consolidated financial statements. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept, while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

連結の考え方や背景を理解したうえで、個々の仕訳の意味と仕訳による利益剰余金等財務諸表への構造的な影響を理解し、連結財務諸表全体を理解すること及び企業結合・分離の会計処理を修得することを到達目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション、連結会計の基本的考え方 / Orientation, Basic Approach to Consolidated Accounting

講義の概要、成績評価、学習方法などについて説明を行い、連結会計の基本的考え方を学ぶ。

第2回：資本取引に関する会計処理と財務諸表・基礎 / Basis for capital transactions

あるべき連結上の金額は何かという観点から資本連結の基本を学ぶ。

第3回：資本取引に関する会計処理と財務諸表・基礎 / Basis for capital transactions

連結利益剰余金の増減要因とあるべき残高金額へのアプローチを学ぶ。

第4回：資本取引に関する会計処理と財務諸表・追加取得等 / Acquisition of capital transactions

子会社株式の追加、売却処理の基本的考え方について学ぶ。

第5回：販売等取引に関する会計処理・税効果会計 / Accounting and tax effect accounting for sales

連結会社間取引、連結会社間債権債務、連結修正仕訳に伴う税効果会計を学ぶ。

第6回：販売等取引に関する会計処理・税効果会計 / Accounting and tax effect accounting for sales

ダウンストリーム、アップストリームの未実現利益消去及び各修正仕訳の連結財務諸表への影響を学ぶ。

第7回：持分法 / Consolidation-equity method

持分法適用会社の投資結果、持分法の考え方について理解し、一行連結と言われる会計処理について学ぶ。

第8回：包括利益、退職給付会計 / Comprehensive Income, Retirement Benefit Accounting

包括利益と退職給付会計は個別財務諸表と考え方が異なり、その相違について学ぶ。

第9回：キャッシュ・フロー計算書、連結キャッシュ・フロー計算書 / Cash Flow Statement

キャッシュ・フロー計算書の目的、構造について理解しその作成方法について学ぶ。

第10回：在外支店と在外子会社の換算 / Conversion of Overseas Branches and Overseas Subsidiaries

在外支店と在外子会社の換算に関する異同点を理解し在外子会社の換算について学ぶ。

第11回：企業結合～総論・取得 / Business Combination -General and Acquisition

企業結合と事業分離の経済的実態の基づく分類について理解し、パーチェス法による会計処理を学ぶ。

第12回：企業結合～総論・取得 / Business Combination -General and Acquisition

取得原価の算定、取得原価の配分、のれんの算定を基礎にし合併、株式交換、株式移転等の会計処理を学ぶ。

第13回：共同支配・共通支配下・分離元企業 / Joint Control, Common Control, Separation Source Company

個別・連結上における共同支配企業の形成、子会社吸収合併時の共通支配下の取引等の会計処理を学ぶ。

第14回：理解度確認セッション / Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

第15回：総括 / Review

理解度確認セッションの確認のほか、講義全体を通じた総括を行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・理解度確認 セッション (60%)・予習復習理解度確認セッション (小テスト) + 課題 (40%) で評価する。

・ AA (90点以上)、A (80点以上90点未満)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満; 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

必要に応じて講義で紹介する。

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習範囲に関して、疑問点を整理して講義に臨むこと。
予習・復習確認セッション (小テスト) を予定している。

10. その他 [In addition] :

履修条件：個別財務諸表に関し日商簿記1級程度の知識を有することが望ましい。
PC 及び電卓持参のこと。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

公会計1 / Public Accounting 1

担当教員 [Instructor] : 加藤 暢一 / NOBUKAZU KATOU

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 木曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC604J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

日本における国、地方自治体など公会計、独立行政法人、公益法人など各種の非法人会計、行政マネジメント、公監査の基本知識を確実に理解する。

そして、職業専門家になってから、他の専門家に対して大きく差別化ができ、公会計、公監査、行政コンサルティングで活躍できることを目指す。

We study the basic knowledge of Japanese public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations.

We differentiate ourselves in the professional, and we will be excellent public accountant, public auditor, public consultant.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

日本における国、地方自治体など公会計、独立行政法人、公益法人など各種の非法人会計、行政マネジメント、公監査の基本知識を理解する。

We study the basic knowledge of Japanese public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

・授業内容・方法 : 図解、イラストも多用して分かりやすい講義をおこなう。中間、期末レポートの作成、総合解説を行う。

・目次

第1回 : オリエンテーション / Orientation

国、地方公共団体、独立行政法人、公益法人、NPO 法人などの公会計、行政経営、公監査、講義の方法、成績評価などについて説明する。

第2回 国、地方公共団体の組織、運営、予算、決算制度 / The organization, management, budget, settlement of the government and the local government

国、地方公共団体における課題、予算、会計・決算（現金主義）、監査等について学ぶ。

第3回 一般会計、特別会計における新地方公会計の導入 / The new accounting in the general account and special account.

地方公共団体における計画策定、実態把握のための新地方公会計（発生主義）を学ぶ。

第4回 一般会計、特別会計における新地方公会計の活用、行政マネジメント / The utilization of new public accounting, public management in the general account and special account

地方公共団体における課題、行政マネジメント、新地方公会計の活用について学ぶ。

第5回 地方公営企業（水道、下水道、交通、病院など）の経営と会計 / The accounting of local public enterprise (water, sewerage, transportation, hospital)

地方公営企業（水道、下水道、病院、交通等）の行政マネジメント、公会計の改革について学ぶ。

第6回 地方3公社、一部事務組合、広域連合の経営と会計 / The accounting of local 3 public corporation, partial-affairs-association, regional union

地方3公社（土地開発、住宅供給、道路）と広域連合等の経営と会計について学ぶ。

第7回 第3セクター、指定管理者の経営と会計 / The accounting of third sector, designated administrator

民間の活力を使った第三セクターや指定管理者の経営と会計について学ぶ。

第8回 独立行政法人、国立大学法人の運営と会計 / The accounting of independent administrative agency, national university corporation

独立行政法人（国立研究所、美術館、病院等）、国立大学法人の経営と会計について学ぶ。

第9回 公益法人、NPO法人の経営と会計 / The accounting of public service corporation, nonprofit organization

公益法人（公益財団・社団、一般財団・社団）、NPO法人の経営と会計について学ぶ。

第10回 社会福祉法人、医療法人の経営と会計 / The accounting of social welfare corporation, medical corporation.

社会福祉法人、医療法人（高齢者等の福祉、医療）にかんする経営と会計について学ぶ。

第11回 中間レポートに関する総合解説 / The interim report and synthetic explanation.

ここまでの講義で、重要テーマにかんする中間レポートの作成、総合解説をおこなう。

第12回 地方公共団体の内部統制 / The internal control of local government

地方公共団体における内部統制の必要性、仕組み、民間との比較等について学ぶ。

第13回 地方公共団体の監査 / The audit of local government.

国、地方公共団体、非営利法人における監査の種類、監査手法を学ぶ。

第14回 地方公共団体の監査・事例（監査委員監査、包括外部監査等） / The audit of local government, by the lecture and case study discussion.

地方公共団体の監査内容（テーマ選定、監査手法等）、監査事例について学ぶ。

第15回 期末レポートに関する総合解説 / The final report and synthetic explanation.

1回から14回講義にもとづき、期末レポートの作成、総合解説をおこなう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義への参加、貢献と中間レポートの作成提出（50%）、期末レポートの作成提出（50%）で評価する。

AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満：不合格)

なお、レポートの評価基準は、①理解の正確性、②論点の適格性と網羅性、③論文の適格性とする。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

新統一地方公会計基準	鈴木豊編著	税務経理協会	平成 28年
公会計原則の解説	筆谷勇	中央経済社	平成 13年

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習：講義までにレジメを事前に通読して、概要を理解しておく。

復習：講義における講義メモとレジメを復習し、理解を深める。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：会計の基本知識があることが望ましい。

この講義を受講するために必要となる知識：会計に関する基本知識があることが望ましい。

監査業務等の都合によりオンラインデマンドとの併用になることもある。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

公会計2 / Public Accounting 2

担当教員 [Instructor] : 加藤 暢一 / NOBUKAZU KATOU

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC605J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

日本における国、地方自治体など公会計、独立行政法人、学校法人、社会福祉法人、医療法人など各種の非法人会計、行政マネジメント、公監査の現状と課題を確実に理解する。

そして、職業専門家になってから、他の専門家に対して大きく差別化ができ、公会計、公監査、行政コンサルティングで活躍できることを目指す。

We study the Japanese Public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations (including school).

We differentiate ourselves in the professional, and we will be excellent public accountant, public auditor, public consultant.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

日本における国、地方自治体など公会計、独立行政法人、学校法人、社会福祉法人、医療法人など各種の非法人会計、行政マネジメント、公監査の現状と課題を確実に理解する。

具体例や事例にもとづきグループ別ディスカッション、ミニレポート作成を行い、より深く具体的に理解を深める。

We study the Japanese Public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations (including school).

We can understand more deeply and concretely by the case study report.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

・講義の進め方 :

講義では、できる限り分かりやすく解説をして、毎回 (第3回から) の内容、具体例、事例にたいするグループ・ディスカッション、ミニレポート作成等をして、より具体的に理解する。

・目次

第1回 : オリエンテーション / Orientation

国、地方公共団体、独立行政法人、学校法人、社会福祉法人、医療法人などの公会計、行政経営、公監査、講義の方法、成績評価などについて説明する。

第2回 : 国、地方公共団体の組織、予算、決算、事例等 / The organization, management, Budget, settlement of the government and the local government, by the lecture and case study mini report.

国、地方公共団体における課題、予算、会計・決算、監査の説明、具体例、事例について学ぶ。

第3回 : 一般会計等における新地方公会計の導入、事例等 / The new accounting in the general account and special account, by the lecture and case study mini report.

地方公共団体の一般会計等における新地方公会計の必要性、固定資産台帳、仕訳、財務4表、会計システムにかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第4回 : 新地方公会計の活用と行政マネジメント、行政評価の事例等 / The utilization of new public accounting, public management, public evaluation, by the lecture and case study mini report.

地方公共団体の一般会計等における新地方公会計の活用と行政マネジメントとくに行政評価の事例等にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第5回 : 新地方公会計の活用と行政マネジメント、公共施設の維持更新事例等 / The utilization of new public accounting, public management, public asset management, by the lecture and case study mini report.

地方公共団体の一般会計等における新地方公会計の活用と行政マネジメントとくに公共施設の維持更新事例等にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第6回 : 地方公営企業の経営と会計、事例等 / The accounting of local public enterprise (water, sewerage, transportation, hospital), by the lecture and case study mini report.

地方公営企業 (水道、下水道、病院、交通等) の行政マネジメント、公会計の改革にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第7回 : 社会福祉法人、医療法人の経営と会計、事例等 / The accounting of social welfare corporation, medical corporation, by the lecture and case study mini report.

社会福祉法人、医療法人 (高齢者等の福祉、医療) の経営と会計にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第8回 : 中間レポートの提出と解説 / The interim report and synthetic explanation.

ここまでの講義で、重要テーマにかんする中間レポートの作成、総合解説をおこなう。

第9回 : 学校法人の経営と会計、事例等 / The accounting of School, by the lecture and case study mini report.

学校法人 (私立で教育を行っている) にかんする経営と会計にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第10回 : 独立行政法人、国立大学法人の運営と会計、事例等 / The accounting of independent administrative agency, national university corporation, by the lecture and case study mini report.

独立行政法人 (国立研究所、美術館、病院等)、国立大学法人の経営と会計にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第11回 : 地方公共団体の内部統制、事例等 / The internal control of local government, by the lecture and case study mini report.

地方公共団体における内部統制の必要性、仕組み、民間との比較等にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第12回 : 地方公共団体の監査、事例等 / The audit of local government, by the lecture and case study mini report.

地方公共団体の監査 (監査委員監査、包括外部監査、個別外部監査) にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第13回 : 地方公共団体の監査委員監査・事例 / The audit committee audit of local government, by the lecture and case study mini report.

地方公共団体の監査委員による東京都等の監査にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第14回 : 地方公共団体の外部監査・事例 (包括外部監査、個別外部監査) / The external audit of local government, by the lecture and case study mini report.

地方公共団体の外部監査、とくに東京都等の包括外部監査、個別外部監査にかんする説明、具体例、事例を学ぶ。

第15回 : 期末レポートの提出、総合的な解説 / The final report and synthetic explanation.

第1回から14回講義にもとづき、期末レポートの作成、総合解説をおこなう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義への参加、貢献、グループディスカッション、ミニレポート(50%)、中間と期末のレポート作成(50%)で評価する。AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満:不合格)
なお、レポートの評価基準は、①理解の正確性、②論点的確性と網羅性、③論文の的確性とする。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

新統一地方公会計基準	鈴木豊編著	税務経理協会	平成 28年
公会計原則の解説	筆谷勇	中央経済社	平成 13年

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習、復習について:予習をできるだけ行い、グループ別ディスカッション、ミニレポート作成を通じて理解をより深めることが期待される。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:会計に関する基本知識があることが望ましい。
監査業務等の都合によりオンラインデマンドとの併用になることもある。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

IFRS1/International Financial Reporting Standards 1

担当教員 [Instructor] : 樋口 尚文/NAOFUMI HIGUCHI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 土曜日 3 講時. 後期 土曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC606J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

IFRS (International Financial Reporting Standards) の基礎を学習する。IFRS の基本的な事項を冒頭で学習するとともに、財務諸表作成のための基礎的な基準を一通り学習し、実務家に必要な知識を習得し考え方を理解することを目標とする。

Learn the basics of IFRS. It is planned that students learn the basic matters of IFRS at the beginning. Then, students study the basic accounting standards so that they learn and understand the knowledge necessary for practitioners.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

IFRS 基準の中でも、概念フレームワークや基礎的な基準を検索し、理解し、実務家として利用できるようになる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーションとIFRSの概要/Orientation and overview of IFRS

講義の全体像、講義の進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う。

第2回：財務報告の利用者/Users of financial statements

財務報告の利用者の企業価値評価の基礎的な事項と、IFRS 財務諸表の使い方について、概要を理解する。

第3回：IASBの概念フレームワーク/“Conceptual Framework for Financial Reporting” issued by the IASB
IASBの概念フレームワークの概要を理解する。

第4回：ASBJの概念フレームワーク/Conceptual Framework issued by the ASBJ

ASBJの概念フレームワークを学習し、IASBの概念フレームワークとの違いを理解する。

第5回：財務諸表の表示(1)/Presentation of financial statements (FS) (1)

表示の基本的な基準であるIAS1号財務諸表の表示と今後の改訂内容を学習する。

第6回財務諸表の表示(2)、IAS7号、IFRS8号、IAS34号/Presentation of FS(2), IAS7, IFRS8, IAS34

IAS7号キャッシュ・フロー計算書、IFRS8号事業セグメント、IAS34号期中財務報告を学習する。

第7回：IAS8号、IAS10号、IFRS5号/IAS8, IAS10, IFRS5

IAS8号会計方針等、IAS10号後発事象、IFRS5号売却目的保有非流動資産等について学習する。

第8回：IAS2号、IAS23号、IAS16号/IFRS2, IAS23, IAS16

IAS2号棚卸資産、IAS23号借入コスト、IAS16号有形固定資産について学習する。

第9回：IAS36号、IAS38号/IAS36, IAS38

IAS36号無形資産及びIAS38号資産の減損について学習する。

第10回：IFRS16号/IFRS16

IFRS16号リースについて学習する。

第11回：IFRS15号/IFRS15

IFRS15号顧客との契約から生じる収益について学習する。

第12回：IAS19号/IAS19

IAS19号従業員給付について学習する。

第13回：IAS37号、IAS12号とIAS21号/IAS37, IAS12 and IAS21

IAS37号引当金等、IAS12号法人所得税とIAS21号外貨換算について学習する。

第14回：最近の企業報告制度改革/Recent Corporate Reporting reforms

近時改革の著しい、企業情報開示や非財務情報開示の進展について学習する。

第15回：理解度確認セッション/Examination

これまで学習してきた事項の理解を確認するため、理解度確認セッションを実施する。範囲は適宜指定する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (25%) および理解度確認セッション (75%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

IFRS 会計学基本テキスト(第7 橋本尚/山田善隆 中央経済社 2022 97804502426117 教科書版)

8. 関連 URL [URL] :

<https://www.ifrs.org/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習：時間の余裕があれば参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

復習：参考文献や講義を基に基準書原文（英語）を読んでみる。図書室に置いてある基準書原文（英語/日本語）の結論の根拠を読んでみる。

10. その他 [In addition] :

企業会計に関する基礎的知識を有していることが必要である。ただし、IFRS である必要はなく、会計学の基本的な科目を履修していることが望ましい。

準書原文は英語であるが、講義の言語と資料は基本的に日本語となる。ただし、配布資料に英文が含まれることもあるので、頑張って英文を読む意欲も必要と考えられる。

一般財団法人会計教育研修機構の「実務補習」の一部免除科目となっている。免除の要件は、IFRS1 及び IFRS2 ともに全回数出席し、単位を取得することである。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

IFRS2/International Financial Reporting Standards 2

担当教員 [Instructor]: 樋口 尚文/NAOFUMI HIGUCHI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 土曜日 1 講時. 前期 土曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC607J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

金融商品、連結財務諸表などの企業グループの会計基準及び企業結合を中心に IFRS を学習する。「IFRS1」で学んだ項目以外の重要な会計基準を一通り学習し、実務家に必要な知識を習得し考え方を理解することを目標とする。

Learn IFRS standards mainly covering financial instruments, and group accounting standards, such as consolidated financial statements and business combinations. The goal of this course is to study all the significant accounting standards other than those learned in "IFRS 1", and understand the knowledge necessary for practitioners.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

金融商品の会計基準及びM&A やグループ会計の基準を理解し、IFRS 財務諸表を読み解くことが出来る。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/ Orientation

講義の目的: 講義の概要, 講義の進め方, 成績評価, 学習方法などについて説明を行う。

第2回: 金融商品 (1) / Financial instruments (1)

金融商品会計のうち又は分類と測定に関する基準について学習する。

第3回: 金融商品 (2) / Financial Instruments (2)

金融商品会計のうち認識の中止に関する基準について学習する。

第4回: 金融商品 (3) / Financial Instruments (3)

金融商品会計のうち減損及びヘッジ会計を学習する。

第5回: 金融商品 (4) / Financial Instruments (4)

金融商品の表示および開示を学習する。

第6回: IFRS13 号/ IFRS13

IFRS13 号公正価値測定を学習する。

第7回: IFRS10 号、IAS27 号/ IFRS10, IAS27

IFRS10 号連結財務諸表、IAS27 号個別財務諸表を学習する。

第8回: IAS28 号、IFRS11 号/IAS28, IFRS11

IAS28 号関連会社に対する投資、IFRS11 号共同支配の取決めについて学習する。

第9回: IFRS12 号、IAS24 号 企業集団の開示/IFRS12, IAS24 Disclosures of group

IFRS12 号他の企業への関与の開示、IAS24 号関連当事者の開示について学習する。

第10回: IFRS3 号 (1) / IFRS3 (1)

IFRS3 号企業結合についての基準の基本構造を学習する。

第11回: IFRS3 号 (2) / IFRS3 (2)

IFRS3 号企業結合について、基準設定の背景、我が国基準との対比について学習する。

第12回: 報告とディスカッションその (1) / Report and discussion (1)

学生が指定されたテーマについて報告を行い、ディスカッションする。

第13回: 報告とディスカッションその (2) / Report and discussion (2)

学生が指定されたテーマについて報告を行い、ディスカッションする。

第14回: 報告とディスカッションその (3) / Report and discussion (3)

学生が指定されたテーマについて報告を行い、ディスカッションする。

第15回: 理解度確認セッション/ Examination

理解度確認セッションを実施する。範囲は適宜指示する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (50%) および理解度確認セッション (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

IFRS 会計学基本テキスト (第 7 橋本尚/山田善隆版)	中央経済社	2022	978-4502426117	教科書
--------------------------------	-------	------	----------------	-----

8. 関連 URL [URL]:

<https://www.ifrs.org/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習：時間の余裕があれば参考文献の該当箇所を読んでおくこと。

復習：参考文献や講義を基に基準書原文（英語）を読んでみる。図書室に置いてある基準書原文（英語/日本語）の結論の根拠を読んでみる。

10. その他 [In addition] :

・2年次の受講が望ましい。

一般財団法人会計教育研修機構の「実務補習」の一部免除科目となっている。免除の要件は、IFRS1及びIFRS2ともに全回数出席し、単位を取得することである。

・以下のいずれかがあることが極力望ましい。

・「IFRS1」を履修済であること

・簿記または財務会計の講義（両方とも特にIFRS2と重複する箇所）を履修済みで、日本の会計基準の知識があること

・公認会計士試験の勉強をしているか、既に短答式試験に合格していること

・IFRSの基準書等を英文で読むことに抵抗がないこと（講義は日本語であるが、配布資料の多くは英文を含む）。

・発表・議論・英文に抵抗がないこと。必ず1回は発表を行います。

・1回目の講義には必ず出席してください。やむを得ず2回目や3回目から出席する場合は、必ず1回目の講義開始前までに講師まで電子メールで連絡すること。連絡がない場合は、受講をお断りする。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomのコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

財務会計の理論と実証/Financial Accounting Theory and Analysis

担当教員 [Instructor]: 尾関 規正/NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC609J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義の目的は、財務会計が果たす役割に関する理論的な背景を学んだうえで、実証的に検証された知見を体系的にレビューすることです。会計学を勉強する学生は一般的に企業が会計基準に基づいて財務諸表を作成するプロセスを詳細に学習しますが、財務諸表が社会においてどのように利用され、どのような経済的影響をもたらすかといった知見を学ぶ機会は多くありません。しかしながら、そのような財務会計の機能や経済的帰結は、私たちが財務会計の意義を深く理解し、社会で扱うために有用となる知識です。財務会計の学術研究領域では、そのような知見を得るために経済学を用いた理論が展開され、それを実際の財務諸表や株価などのデータを用いて検証する研究が進められており、それらは財務会計の実証研究と呼ばれます。本講義では、財務会計やその関連領域における実証研究を中心として、現在までの多くの研究の基礎となった初期の研究をふりかえると共に、そこから発展して広がる様々な研究トピックスを取り扱います。講義においては、それぞれの研究の問題意識や理論的な背景に基づく仮説構築過程を理解し、実証的な分析結果が持つ意味や将来に向けた課題を議論します。

/ The purpose of this course is to provide a theoretical background on the function of financial accounting, reviewing systematically empirical research. While accounting students generally study the process by which companies disclose financial statements based on accounting standards, they do not have many opportunities to learn about how financial statements work and what consequence they have. Such knowledge of the functions and economic consequences of financial accounting will be significant for us to understand the usefulness of financial accounting and deal with accounting information on practice. The academic research of financial accounting has developed economic theories and examined these theories empirically based on data such as financial statements and stock prices, which are called archival research in financial accounting. In this course, we will review the early research that provided the basis for much of the research to date, with a focus on empirical research in financial accounting and related fields. And then, we will also cover various research topics that have developed and expanded from that research. In the lectures, students will understand the process of hypothesis development based on the research question and theoretical background of each study, and discuss the implications of the empirical analysis results and issues for the future.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

本講義の目標は、学生が財務会計に関する実証研究における理論的な背景やその研究成果を理解し、そこから学術的・実務的な知見を得ることです。/ The goal of this course is to understand the theoretical background and analytical results of empirical research in financial accounting and to gain academic and practical insights from it.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

担当教員が各回の課題とする論文を事前に指定し、受講者は指定された論文を事前に読んで報告準備をして授業に参加します。授業は受講者がその内容を報告することによって進行します。報告内容に関して、背景にある考え方を理解し、結果の含意や課題となることを議論します。このとき、担当教員が受講者の理解を促すために、必要に応じて補足的な説明をすることがあります。

/ I will assign the papers for each session, and students will attend class after reading the assigned papers and preparing their presentations. The class will proceed through student presentations of the assigned papers. We will then discuss the background ideas, the implications of the results, and the questions raised by the paper. I will sometimes add supplementary explanations to facilitate student understanding and discussion. Note that the course of this lecture may change depending on the number of students and their level of understanding.

講義初回のガイダンスで各回で取り扱う論文タイトルの一覧を示します。また、受講者の関心に応じて指定する論文を変更する場合があります。教科書は使用しません。参考書は授業の中で適宜紹介しますが代表的なものを下記で示しています。第1回は講義の概要、進め方、成績評価に関するオリエンテーションを行います。第2回以降は、各回で設定するテーマに関する論文を通じて、そのテーマやトピックスについて議論し、理解を深めます。第15回では受講者が各自の関心のあるテーマから論文を選択して発表します。論文の探し方については事前に解説します。

第1回: オリエンテーション/Orientation

講義内容の概要、講義の進め方、成績評価に関するオリエンテーションを行います。

第2回: 資本市場研究の概観と利益と株価の関連性/Overview of capital market research; Value relevance

財務会計の実証研究領域における、資本市場研究について概観し、財務会計の実証研究の先駆けとなった利益と株価の関連性に関する初期の研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第3回: 利益に対する投資家の反応/Event study

財務報告に対する投資家の反応を調査するイベント・スタディに関する先行研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第4回: 財務報告の情報内容/The information contents of financial reporting

財務報告の情報内容に関する先行研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第5回: 企業価値評価/Valuation

企業価値評価に関する先行研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第6回: 契約理論・エイジェンシー理論にもとづく研究の概観と利益マネジメント/Overview of contracting theory and agency theory research; Earnings management

財務会計の実証研究領域における契約理論またはエイジェンシー理論をベースとした研究について概観し、利益マネジメントに関する初期の論文を通じて、その含意や課題について議論します。

第7回: 財務報告における経営者の行動/Management behavior in financial reporting

経営者またはCFOに対して財務報告の品質に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第8回: 会計発生高/Accruals

経営者の見積りや判断に応じた会計処理を含む会計発生高に対する株式市場の評価に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第9回：利益の持続性／Earnings persistence

利益の持続性に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第10回：会計上の評価／Valuation application

企業価値評価に関する会計的な測定を扱う先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第11回：保守主義／Conservatism

会計利益における保守主義に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第12回：監査／Audit

財務報告における監査を取り扱う先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第13回：不正と誤謬／Fraud and errors (Misstatement)

財務報告における不正や誤謬に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第14回：近年の研究トピックス（1）／Recent research topics (1)

受講者の関心にもとづいて財務会計の実証研究領域における近年の研究を取り上げ、最新の研究動向をフォローすると共にその含意と将来に向けた課題について議論します。

第15回：近年の研究トピックス（2）／Recent research topics (2)

受講者の関心にもとづいて財務会計の実証研究領域における近年の研究を取り上げ、最新の研究動向をフォローすると共にその含意と将来に向けた課題について議論します。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

各回の報告とレポートによる評価（70%）と期末レポート（30%）で評価します。なお、各回で報告することと、期末レポートを提出することを成績評価の対象とする必須条件とします。レポートの詳細は初回の講義でアナウンスします。

AA (90点以上)、A (80点以上90点未満)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満；不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Financial Accounting Theory 8th edition	Scott, William Robert, and Patricia C O'Brien	Pearson Canada	2019		参考書
新版 財務会計の理論と実証 (Financial Accounting Theory 8th edition の訳書)	太田康広・椎葉淳・西 谷順平訳	中央経済社	2022	978- 4502427619	参考書
Positive accounting theory	Watts, Ross L, and Jerold L Zimmerman	Prentice-Hall	1986		参考書
実証理論としての会計学 (Positive accounting theory の訳書)	須田一幸訳	白桃書房	1991	978- 4561360346	参考書
財務会計の機能 理論と実証	須田一幸	白桃書房	2000	978- 4561360926	参考書
会計情報の有用性 (体系現代会 計学第3巻)	伊藤邦雄・桜井久勝編 著	中央経済社	2013	978- 4502484100	参考書

8. 関連 URL [URL] :

本講義のクラスルームのクラスコードは「homh3ut」です。
<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgxNTc5NTE2>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

受講者は指定された論文の内容について事前にひととおり読んでから講義に参加してください。また、報告担当となった受講者は、論文の内容を事前にまとめて発表する準備をしてください。

また、毎回の講義では受講者の全員に課題を出します。課題は対象となった論文について一定の様式を埋める形で内容を要約したレポートを提出するものです。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

<https://docs.google.com/>

10. その他 [In addition] :

財務会計に関する基本的な知識を既に修得していることを前提とします。また、統計学、経済学、ファイナンスの知識があれば、より理解がしやすくなります。また、指定する論文を読むための英語の読解力が必要です。

事例研究 (I F R S) / Case Study (International Financial Reporting Standards)

担当教員 [Instructor] : 樋口 尚文 / NAOFUMI HIGUCHI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 土曜日 3 講時. 後期 土曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC610J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

IASB (国際会計基準審議会) や米国 FASB (財務会計審議会) 等における会計基準のコンバージェンスのトピックスに加え、IFRS を適用している企業の事例や我が国における検討課題等について前半 (1 回目~7 回目) で一通り講義する。後半 (8 回目以降) は、ディスカッションや受講者による発表により、IFRS についての会計政策や個々の基準の設定理解を深め、将来財務諸表作成者・監査人・利用者等の実務家になった場合でも、対応できるような考えを身に付けることを目標にする。

The topics of convergence about the accounting standards issued by both the IASB (International Accounting Standards Board) and the US FASB (Financial Accounting Standards Board) will be discussed in the first half of the course, including case studies of companies applying IFRS and practical issues in Japan. In the latter half of the course (from the 8th session), it is planned that students discuss and prepare presentations. It would enhance an in-depth understanding of accounting policies and individual standards of IFRS so that students could respond to the practical issues when they become practitioners as preparers, auditors, and users of financial statements in the future.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

会計政策とその背景、会計基準等の国際的な共通化について理解する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション / First session: Orientation

講義の内容、進め方、成績評価の方法について説明する。

第2回: 日本のコンバージェンス (1) / Convergence in Japan (1)

いわゆる会計ビッグバンとその背景について学習する。

第3回: 日本のコンバージェンス (2) / Convergence in Japan (2)

IFRS 導入の背景と制度的な枠組みについて学習する。

第4回: IASB と FASB の間のコンバージェンス / Convergence between the IASB and the FASB

IFRS と米国会計基準のコンバージェンスの歴史と背景について学習する。

第5回: SEC による会計政策 / Policies on accounting by the SEC

アメリカの証券取引委員会 (SEC) による会計政策を学習する。

第6回: 会計プロフェッション / Accountancy Profession

会計プロフェッションの歴史と国際化について学習する。

第7回: 国際会計士連盟 / International Federation of Accountants

国際会計士連盟とモニタリンググループによる監査・倫理基準設定主体の改革について学習する。

第8回~第15回 / From 8th to 15th session

会計基準または会計政策など何らかのトピックに関連する IFRS、米国会計基準及び日本基準について、報告と報告資料に基づいたディスカッション。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点のみで評価する。報告が必須となる。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

<https://www.ifrs.org/>

<https://www.asb.or.jp/jp/>

<https://www.fasb.org/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

講義後の復習は必要になる。また、プレゼンテーションを行う者は割り当てられた検討内容を報告するため、事前準備が必要となる。おおよそ発表時間よりも多くの時間を費やすことが想定される。ただし、参加者が少数の場合は、負担を考慮して講読などに切り替える場合がある。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識: 以下を考えている。

- ・どちらかというとも2年次の受講が望ましい
- ・要件として以下のいずれかがあることが極力望ましい
- ・「IFRS1」及び「IFRS2」を履修済又は同時に受講すること
- ・簿記又は財務会計の講義を履修済みであること
- ・日本の会計基準について一通りの基礎的な知識があること
- ・IFRSの基準書等を英文で読むことにも抵抗がないこと（講義や会話の言語は日本語）。
- ・発表および議論に抵抗がないこと
- ・1回目の講義には必ず出席すること。やむを得ず2回目から出席する場合は、必ず1回目の講義前までに講師まで電子メールで連絡すること。連絡がない場合は、受講をお断りする。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

管理会計 1 / Management Accounting 1

担当教員 [Instructor] : 松田 康弘 / YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC506J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

講義の目的 / Course Objective :

- ・管理会計の基礎を身につけること
- ・ストックとフローの概念及び扱いについて、管理会計の観点から理解すること
- ・会計情報が企業における意思決定や業績評価においてどのように利用されるかを理解すること

The purposes of this lecture are:

- To learn the basic knowledge of management accounting,
- To understand the notion of stock and flow from the perspective of management accounting, and
- To understand the role of non-financial information in decision making and performance evaluation.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

本講義では、意思決定や業績評価の根拠となる原価情報の推定方法から、その適切な扱い方に至るまでを学習する。

講義の前半では、伝統的原価計算を前提に、原価の発生の態様から予算の作成、事後の業績評価手続の方法を学習する。

講義の後半では、部門の業績評価方法を理解し、短期的意思決定において関連情報と無関連情報を適切に分類することができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の概要、進め方、成績評価方法等について説明する

第2回：管理会計の概要及び原価計算用語の確認 / Foundation of management accounting

管理会計の果たす役割とその担い手について説明し、基本的な原価計算用語について確認する

第3回：CVP分析 / CVP analysis

所謂 CVP 分析と関連する分析方法について説明し、営業レバレッジ等の関連する概念について説明する

第4回：個別原価計算 / Job costing

個別原価計算について説明する

第5回：活動基準原価計算 / Activity-based costing

製造間接費の配賦に関する諸問題に関連して、活動基準原価計算について説明する

第6回：総合予算と責任会計 / Master budget and responsibility accounting

総合予算の編成手順について概観し、責任会計と関連する諸概念について説明する

第7回：変動予算と直接費 / Flexible budget and direct costs

マネジメント・コントロールの観点から、変動予算の作成方法及び直接費の予実差異の分析方法を説明する

第8回：変動予算と製造間接費 / Flexible budget and overhead costs

マネジメント・コントロールの観点から、変動予算の作成方法及び製造間接費の予実差異の分析方法を説明する

第9回：直接原価計算と全部原価計算 / direct costing and absorption costing

直接原価計算と全部原価計算による損益計算の方法を及びそれぞれの優劣を説明する

第10回：意思決定と関連情報 1 / Decision making and relevant information 1

意思決定と関連・無関連情報の分類について説明し、業務意思決定について説明する

第11回：意思決定と関連情報 2 / Decision making and relevant information 2

埋没原価や機会原価の概念を説明し、顧客の選別や部門の閉鎖といった問題の分析方法を説明する

第12回：意思決定と関連情報 3 / Decision making and relevant information 3

その他様々な業務的意思決定に関する問題を説明する

第13回：原価の推定 1 / Determining how costs behave 1

原価の推定方法、主に高低点法と回帰分析について説明する

第14回：原価の推定 2 / Determining how costs behave 2

回帰分析についてより深く理解した後、学習曲線や経験曲線について説明する

第15回：理解度確認セッション / Examination

講義内容の理解を確認するために筆答審査をおこなう

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- ・平常点 (指定する章末問題) (40%), 理解度確認セッション (60%) で評価する。
- ・理解度確認セッションを 1 回実施する予定。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Cost Accounting: A Managerial Emphasis, the 16th ed.	Datar S. M., and M. Rajan	Pearson Education Limited	2017	978- 1292211541	教科書
---	------------------------------	---------------------------------	------	--------------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習について>

- ・講義はテキストの内容に沿って行うので、事前にテキストの内容を把握しておくこと.
- ・講義スライド等の資料は Google classroom に掲示するので、テキストを含め予習を行っておくこと.

<復習について>

- ・宿題を解き、テキスト中の重要語句の意味を確認すること.
- ・毎回の宿題については、講義の中や Google classroom 上で指定する.

10. その他 [In addition] :

会計や原価計算に関する基礎的な知識を持っていること. たとえば, 学部で会計学関連の科目や原価計算・管理会計の科目を履修していることが望ましい.

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

管理会計 2 / Management Accounting 2

担当教員 [Instructor] : 松田 康弘 / YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 金曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC507J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

管理会計の基礎的な考え方や計算方法を身につけること。その際、非財務情報も含む会計情報が企業における意思決定や業績評価においてどのように利用されるのかを具体的に理解すること。

This course provides fundamental perspectives and techniques in management accounting. Students will learn how we should refer accounting information, whether they are financial or nonfinancial, for the purpose of decision making and performance measurement.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

いわゆる戦略的管理会計と呼ばれる各種技法を理解し、様々な分析や計画策定をおこなえるようになること。

また、管理会計上重要な諸々のテーマについて、各テーマの抱える論点、トレードオフ、目指すべき目標、それを阻む障壁を理解した上で、テーマごとの基礎的な分析方法を身につけること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の概要、進め方、成績評価方法等について説明する

第2回：戦略と収益性分析 / Strategy and profitability analysis

戦略と戦略に立脚した収益性分析の方法について講義する

第3回：価格設定 / Pricing decisions

短期・長期の価格設定と原価企画について講義する

第4回：費用配賦及び関連する問題 / Cost allocation and related issues

費用配賦全般と顧客収益性や販売量差異の分析について講義する

第5回：補助部門費と共通費の配賦 / Allocation of support-department costs and common costs

補助部門費と共通費の配賦方法について講義する

第6回：連結原価と副産物の処理 / Joint costs and byproducts

連結原価と副産物の処理について講義する

第7回：品質原価 / Costs of quality

品質原価を機会費用を交えつつ講義する

第8回：管理会計とスピード / Time related issues

スピードや時間に関連する管理会計上の問題について講義する

第9回：生産管理と管理会計 / Production management and management accounting

生産管理に関連する諸問題について講義する

第10回：統計的品質管理 / Statistical quality control

統計的品質管理について講義する

第11回：経済的発注量 / Economic Order Quantity

在庫管理の計画方法である経済的発注量と在庫保有量について講義する

第12回：資本予算と税引後キャッシュフロー / Capital budgeting

資本予算における投資案件の評価方法について講義する

第13回：業績評価と報酬 / Performance evaluation

部門業績の評価方法とそれに関連する諸問題について講義する

第14回：分権制組織 / Decentralized organizations

分権化した組織における様々な問題について講義する

第15回：理解度確認セッション / Examination

講義内容の理解を確認するために筆答考査をおこなう

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- ・平常点 (指定する章末問題) (40%), 理解度確認セッション (60%) で評価する。
- ・理解度確認セッションは1回実施する予定。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Horngren's Cost Accounting:	Datar S. M., and M.	Pearson	2017	978-	教科書
A Managerial Emphasis 16th	Rajan	Education		1292211541	
ed.		Limited			

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習について>

- ・講義はテキストの内容に沿って行うので、事前にテキストの内容を把握しておくこと.
- ・講義スライド等の資料は Google classroom に掲示するので、テキストを含め予習を行っておくこと.

<復習について>

- ・宿題を解き、テキスト中の重要語句の意味を確認すること.
- ・毎回の宿題については、講義の中や Google classroom 上で指定する.

10. その他 [In addition] :

会計や原価計算に関する基礎的な知識を持っていること. たとえば, 学部で会計学関連の科目や原価計算・管理会計の科目を履修していることが望ましい. また, 後期に開講されている管理会計1を受講済みであることが望ましい.

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

管理会計 3 / Management Accounting 3

担当教員 [Instructor] : 荻原 啓佑 / KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC611J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、企業における業績目標（例えば、財務目標、非財務目標）の設定に関する、管理会計領域の主要な研究結果を理解することを目的とする。これらの知見は、業績目標の設定に関わる企業のマネジャーや役員にとって有用なものである。

The objective of this lecture is to understand the main research findings in the area of management accounting regarding the setting of performance targets (e.g., financial and nonfinancial targets) in firms. These findings are useful for managers and executives of firms involved in setting performance targets.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

業績目標の設定をする際に注意すべき点を理解すること。

業績目標の設定に関する管理会計研究において、すでに明らかになっていることと明らかになっていないことを整理できるようにすること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション/Orientation

本科目の目的、受講方法、成績評価方法を説明する。

第2回：業績目標を設定する/Setting performance targets

企業における業績目標の設定に関わる論点を講義する。

第3回：予算管理における業績目標の設定(1)/Budget targets(1)

業績目標としての予算とその役割について講義する。

第4回：予算管理における業績目標の設定(2)/Budget targets(2)

予算と他のシステムとの関係性や予算がマネジャーの行動に与える影響について講義する。

第5回：環境変化と業績目標の設定(1)/Target setting in changing conditions(1)

固定的な予算目標と柔軟な予算目標、ローリング予測について講義する。

第6回：環境変化と業績目標の設定(2)/Target setting in changing conditions(2)

管理可能性原則と主観的業績評価について講義する。

第7回：業績目標の多様性(1)/Performance targets(1)

外的な目標と内的な業績目標、トップダウン型と参加型の業績目標の設定について講義する。

第8回：業績目標の多様性(2)/Performance targets(2)

ラチェットリング、予測、ゼロベースの業績目標の設定について講義する。

第9回：業績目標の困難度に関する問題(1)/Target difficulty(1)

目標設定理論、超然とした業績目標、高い達成可能性の業績目標について講義する。

第10回：業績目標の困難度に関する問題(2)/Target difficulty(2)

上限・下限のある業績目標の設定、目的に応じた業績目標の困難度について講義する。

第11回：複数の業績目標を設定する(1)/Multiple performance targets(1)

設定される業績目標の数、業績目標への重みづけについて講義する。

第12回：複数の業績目標を設定する(2)/Multiple performance targets(2)

業績目標間の関係性、顧客に関する業績目標の設定について講義する。

第13回：業績目標の設定におけるイノベーション(1)/Innovations in target setting(1)

活動基準予算管理について講義する。

第14回：業績目標の設定におけるイノベーション(2)/Innovations in target setting(2)

脱予算経営と予算管理システムの変更について講義する。

第15回：まとめ/Reflection

これまでの授業のまとめを行い、業績目標の設定に関する研究・実務上の課題について議論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (60%)、最終課題 (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Setting Performance Targets (The Managerial Accounting Collection)	Carolyn Stringer, Paul Shantapriyan	Business Expert Press	2011	978- 1606491379	教科書
New Developments in Goal Setting and Task Performance	Edwin A. Locke, Gary P. Latham	Routledge	2013	978- 0815390879	参考書
実務に活かす管理会計のエビデ ンス	加登豊・吉田栄介・新 井康平 (編著)	中央経済社	2022	978- 4502420016	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

教科書の指定した箇所を講義前に読んでおくこと。授業前あるいは授業後に小レポートの提出を求める回がある。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

学部レベルの管理会計に関する知識を持っている、あるいは管理会計 1/2 を履修済みであることが望ましい。教科書を読むために一定の英語力が必要になる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

原価計算 1 / Cost Accounting 1

担当教員 [Instructor]: 鈴木 翔太 / SYOTA SUZUKI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 金曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC508J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

工業簿記及び原価計算の基礎を身につけることを目的としている。

講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していく。

/The aim is to teach the basics of industrial bookkeeping and cost accounting.

In the lectures, students will study the theory and calculation systems that support cost accounting while incorporating practice problems.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

1. 原価計算の目的と諸概念について説明できる。
2. 原価計算システムの理論構造を理解し、説明できる。
3. 原価計算の計算問題を解くことができる。

1. Explain the purpose and various concepts of cost accounting.
2. Understand and explain the theoretical structure of the cost accounting system.
3. Can solve calculation problems of cost accounting.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

講義の進め方:

・1回目の講義で講義の概要、進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う/In the first lecture, we will explain the outline of the lecture, how to proceed, grade evaluation, learning method, etc.

・テキストをベースとして、各講義で概ね一つのテーマについて講義する/Based on the textbook, each lecture will give a lecture on almost one theme.

・各セクションには練習問題を設けており、それを中心に復習する/Each section has exercises, and we will review them mainly.

・原則として毎回講義の冒頭に小テストを実施する./In principle, a quiz will be given at the beginning of each lecture.

・練習問題の一部はショートレポートとして提出を求める/Some exercises are required to be submitted as a short report

第1回: オリエンテーション、工業簿記・原価計算の基礎 1 / Orientation・Basic of industrial bookkeeping and cost accounting 1

講義の目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。その上で、原価計算の目的と原価概念について講義する。

第2回: 工業簿記・原価計算の基礎 2 / Basic of industrial bookkeeping and cost accounting 2

原価計算の手続きと勘定連絡及び財務諸表との関係について講義する。

第3回: 費目別原価計算 (材料費) / Item cost accounting I (Material cost)

材料費の分類及び会計処理方法について講義する。

第4回: 費目別計算 (労務費計算) / Item cost accounting (Labor cost)

労務費の分類及び会計処理方法について講義する。

第5回: 費目別計算 (経費計算) / Manufacturing overhead

経費の分類及び会計処理方法について講義する。

第6回: 製造間接費 / Manufacturing overhead

製造間接費の配賦方法について講義する。

第7回: 演習問題 (費目別計算) / Exercises

原価計算 1 の第6回までで学習した基礎知識を元にして、さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより、これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく。

第8回: 個別原価計算 / Single process costing

個別原価計算の計算手続について講義する。

第9回: 個別原価計算における仕損 / Spoilage expenses Shrinkage loss in Job order costing

個別原価計算における仕損及び作業屑の計算手続について講義する。

第10回: 演習問題 (個別原価計算) / Exercises

原価計算 1 の第9回までで学習した基礎知識を元にして、さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより、これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく。

第11回: 部門別計算 / Departmental cost accounting

部門別計算の計算手続について講義する。

第12回: 部門別計算 / Departmental cost accounting

部門個別費と部門共通費の集計 (第1次集計) について講義する。

第13回: 部門別計算 / Departmental cost accounting

補助部門費の配賦 (第2次集計) について講義する。

第14回: 演習問題 (部門別原価計算) / Exercises

原価計算 1 の第13回までで学習した基礎知識を元にして、さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより、これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく。

第15回: 演習問題 (理解度確認セッション) / Exercises

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語
Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

成績評価法 :

理解度確認セッション (50%)、レポート・小テスト (50%)

・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満 : 不合格)

Evaluation method:

Understanding level confirmation session (50%), report/quiz (50%)

・AA (90 points or more), A (80 points or more and 1

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

みんなが欲しかった! 簿記の 鈴木 隆文 著 TAC 出版 2019 9784813285779 教科書
教科書 日商 1 級 工業簿記・原
価計算 1 費目別計算 個別原価
計算編 第 2 版(旧:TAC 簿記の教
室シリーズ)

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習・復習について :

・予習 : 次回講義分について必ず予習すること

・復習 : 各回の講義で課題を課す。事例について今回以前の分までを反復継続的に復習し、いつ小テストがあっても大丈夫なようにしておく必要がある。宿題以外の問題についても自主的に学習することを期待する。

About preparation and review:

・Preparation: Be sure to prepare for the next lecture

・Review: Tasks are assigned in ea

10. その他 [In addition] :

・オフィスアワー/office hour : 講義終了後/After the lecture

連絡先/contact address : shota.suzuki.e5@tohoku.ac.jp

その他/others :

・簿記 2 級程度の知識を有していることが望ましい。 / It is desirable to have knowledge of bookkeeping level 2.

・電卓を用意しておくこと./Prepare a calculator.

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

原価計算 2 / Cost Accounting 2

担当教員 [Instructor] : 鈴木 翔太 / SYOTA SUZUKI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC509J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

工業簿記及び原価計算の基礎を身につけることを目的としている。

講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していく。

/The aim is to teach the basics of industrial bookkeeping and cost accounting.

In the lectures, students will study the theory and calculation systems that support cost accounting while incorporating practice problems.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

1. 原価計算の目的と諸概念について説明できる。
2. 原価計算システムの理論構造を理解し、説明できる。
3. 原価計算の計算問題を解くことができる。

1. Explain the purpose and various concepts of cost accounting.
2. Understand and explain the theoretical structure of the cost accounting system.
3. Can solve calculation problems of cost accounting.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義の進め方 :

・1回目の講義で講義の概要、進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う / In the first lecture, we will explain the outline of the lecture, how to proceed, grade evaluation, learning method, etc.

・テキストをベースとして、各講義で概ね一つのテーマについて講義する / Based on the textbook, each lecture will give a lecture on almost one theme.

・各セクションには練習問題を設けており、それを中心に復習する / Each section has exercises, and we will review them mainly.

・練習問題の一部はショートレポートとして提出を求める / Some exercises are required to be submitted as a short report

・Google Classroom : vp21td7

第1回 : 単純総合原価計算 / Single process costing

単純総合原価計算について概説する

第2回 : 総合原価計算における仕損費・減損 I / Spoilage expenses Shrinkage loss in process cost system

総合原価計算における仕損費・減損について概説する

第3回 : 総合原価計算における仕損費・減損 II / Spoilage expenses Shrinkage loss in process cost system

総合原価計算における仕損費・減損について概説する

第4回 : 工程別総合原価計算 I / Sequential cost system I

工程別総合原価計算について概説する

第5回 : 工程別総合原価計算 II / Sequential cost system II

工程別総合原価計算について概説する

第6回 : 組別・等級別総合原価計算 / Class cost system ・ Group cost system

組別・等級別総合原価計算について概説する

第7回 : 連産品の原価計算 / CO-product

連産品の原価計算について概説する

第8回 : 演習問題 (総合原価計算) / Exercises

総合原価計算の演習を実施する。

第9回 : 標準原価計算 I / Standard cost system I

標準原価計算について概説する

第10回 : 標準原価計算 II / Standard cost system II

標準原価計算について概説する

第11回 : 標準原価計算 III / Standard cost system III

について概説する

第12回 : 標準原価計算 IV / Standard cost system IV

標準原価計算について概説する

第13回 : 標準原価計算 V / Standard cost system V

標準原価計算について概説する

第14回 : 演習問題 2 (標準原価計算) / Exercises 2

標準原価計算に係る問題演習を通じて理解を深める

第15回 : 演習問題 (理解度確認セッション) / Exercises

理解度確認セッションを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

成績評価法：

理解度確認セッション (50%)、レポート・小テスト (50%)

・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

Grading method:

Understanding level confirmation session (50%), report/quiz (50%)

・AA (90 points or more), A (80 points or more and less

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

みんなが欲しかった! 簿記の 鈴木 隆文 著 TAC 出版 2019 9784813285786 教科書
教科書 日商 1 級 工業簿記・原
価計算 2 総合原価計算・標準原
価計算編 第 2 版(旧:TAC 簿記の
教室シリーズ)

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習・復習について：

・予習：次回講義分について必ず予習すること

・復習：各回の講義で課題を課す。事例について今回以前の分までを反復継続的に復習し、いつ小テストがあっても大丈夫なようにしておく必要がある。宿題以外の問題についても自主的に学習することを期待する。

About preparation and review:

・Preparation: Be sure to prepare for the next lecture

・Review: Tasks are assigned in ea

10. その他 [In addition] :

オフィスアワー：講義終了後

連絡先：shota.suzuki.e5@tohoku.ac.jp

その他講義を受講する際注意すべき点/others :

・簿記 2 級程度の知識を有していることが望ましい。 / It is desirable to have knowledge of bookkeeping level 2.

・前期に開講される原価計算 1 を履修していることが望ましい。 /It is desirable to have taken Cost Accounting 1, which is offered in the first semester.

・電卓を用意しておくこと/Prepare a calculator.

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (管理会計) / Case Study (Management Accounting)

担当教員 [Instructor]: 荻原 啓佑/KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 水曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC613J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、コストリテラシー (原価情報を意思決定に活用し、価値を生み出すための知識と能力) を高めることを目的とする。講義では、戦略的コストマネジメントに関連する管理会計・原価計算のトピックを学ぶ。そして、学んだ内容をふまえ、仮想の企業に関するケースを分析し、議論する。

The objective of this course is to enhance cost literacy (knowledge and ability to use cost information for decision making and to create value). In the lecture, students will learn management accounting and cost accounting topics related to strategic cost management. Based on what they have learned, students will analyze and discuss cases related to hypothetical companies.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

実務で求められるコストリテラシーを身に着けること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本科目の目的, 受講方法, 成績評価方法を説明する。さらに, 戦略的コストマネジメントの学習領域について概説する。

第2回: 戦略的コストマネジメントの基礎/Fundamentals of Strategic Cost Management

原価に関わる基本概念や用語について講義する。

第3回: 個別原価計算/Job order costing

個別原価計算の方法を学び, ケースについて議論する。

第4回: 総合原価計算/Process costing

総合原価計算の方法を学び, ケースについて議論する。

第5回: ABC/Activity-based costing

新しい原価計算システムとしてのABCの方法を学び, ケースについて講義する。

第6回: 原価配分/Cost allocation

原価を部門に配分する方法を学び, ケースについて議論する。

第7回: コストビヘイビアと原価関数の推定/Cost behavior and cost function estimation

原価関数の推定方法を学び, ケースについて議論する。

第8回: 意思決定と原価分析/Decision makings and cost analysis

意思決定プロセスおよび意思決定で用いられる分析方法を学び, ケースについて議論する。

第9回: 長期的意思決定と資本予算/Long term decision making and capital budgeting

長期的意思決定で用いられる分析方法を学び, ケースについて議論する。

第10回: CVP分析とコスト構造/Cost-Volume-Profit analysis and cost structure

CVP分析の方法を学び, ケースについて議論する。

第11回: 標準原価計算と原価差異分析/Standard Costing and cost variance analysis

標準原価計算の概要と原価に差異が生じた時の分析方法を学び, ケースについて議論する。

第12回: 原価改善/Kaizen costing

原価を継続的に低減しようとする企業の取り組みを学び, ケースについて議論する。

第13回: 原価企画/Target costing

製品の企画・開発・設計段階における原価の低減方法を学び, ケースについて議論する。

第14回: ABM/Activity-based management

ABCを用いたコストマネジメント方法を学び, ケースについて議論する。

第15回: まとめ/Reflection

現時点でのコストリテラシーを確認し, 今後何をしていくべきかを議論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

報告と小レポートによる平常点 (70%), 最終課題 (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

戦略的コストマネジメント	梶原武久	中央経済社	2022	978-4502421518	教科書
現場で使える原価計算	清水孝	中央経済社	2014	978-4502097904	参考書
異論・正論 管理会計	伊藤嘉博・目時壮浩	中央経済社	2021	978-4502394515	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

テキストの指定された箇所を読み, 期限までに小レポートを提出する。

復習:

各回の講義で扱った内容を再確認する。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

原価計算 1/2, 管理会計 1/2 を履修済みであることが望ましい。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (原価計算) / Case Study (Cost Accounting)

担当教員 [Instructor]: 鈴木 翔太 / SYOTA SUZUKI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 金曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC622J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

原価計算は、ある処理方法のデメリットを補うために別の処理方法が考案されてきたケースが多いので、単に各処理方法を理解するのではなく、事例をふまえて、発展の過程をも理解していくことを目的とする。講義内では、工業簿記及び原価計算の基礎的な知識をベースに実務での対応について取り扱う。

/In cost accounting, there are many cases in which another processing method has been devised to compensate for the disadvantages of a certain processing method, so the purpose is not simply to understand each processing method, but also to understand the process of development. In the lectures, the basic knowledge of industrial bookkeeping and cost accounting will be dealt with in practice.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

1. 原価計算基準に基づき、製品原価の計算ができる。
2. 原価計算の理論的背景について説明できる。
3. 原価計算結果を分析し、その結果を説明できる。

1. Able to calculate product costs based on cost accounting standards.
2. Explain the theoretical background of cost accounting.
3. Analyze the cost accounting results and explain the results.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

- ・ 1 回目の講義で講義の概要、進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う。
- ・ テキストをベースとして、各講義で概ね一つのテーマについて講義する
- ・ 各セクションには練習問題を設けており、それを中心に復習する
- ・ 練習問題の一部はショートレポートとして提出を求める

講義の予定 / Class Plan:

- 第1回: 原価計算の目的と原価計算基準 / Purpose of costing and costing basis
目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。さらに、原価計算が達成すべき主な目的及び原価計算の諸概念と基本的な用語について講義する。
- 第2回: 費目別計算 (材料費・労務費) / Calculation by item (material cost, labor cost)
費目別計算 (材料費・労務費) について、基本的な用語の説明をするとともに、業務フローと会計処理の関係性について講義する。
- 第3回: 費目別計算 (経費・製造間接費) / Calculation by expense item (expenses/manufacturing indirect costs)
費目別計算 (経費・製造間接費) について、基本的な用語の説明をするとともに、業務フローと会計処理の関係性について講義する。
- 第4回: 部門別原価計算 (第1次集計) / Departmental cost accounting (first tabulation)
部門別計算の意義及び部門別原価計算のプロセスについて、第1次集計・第2次集計の順に実務での業務フローと合わせて講義する。
- 第5回: 部門別原価計算 (第2次集計) / Departmental cost accounting (secondary tabulation)
部門別原価計算について、補助部門費を配賦する際の計算方法とその考え方について講義する。
- 第6回: 個別原価計算 / Individual costing
個別原価計算の基本的な用語と計算方法について説明し、個別原価計算と総合原価計算の違いについて講義する。
- 第7回: 単純総合原価計算 / simple total costing
総合原価計算の製品と期末仕掛品の評価方法の特徴について、先入先出法・後入先出法・平均法の基本的な用語と考え方を説明し、数値例を用いて計算について講義する。
- 第8回: 組別・等級別総合原価計算 / Comprehensive cost calculation by group/grade
・ 等級別総合原価計算・組別原価計算について、基本的な用語と計算方法について取り扱うとともに、個別原価計算と組別総合原価計算の類似点と相違点について講義する。
- 第9回: 工程別総合原価計算 / Comprehensive cost accounting by process
工程別総合原価計算について、基本的な用語と計算方法について説明を行った上で、累加法による工程別総合原価計算のデメリットについて講義する。
- 第10回: 予定価格の設定と原価差異 / Scheduled pricing and cost variances
予定価格の設定における実務での導入と原価差異の分析手法について講義する。
- 第11回: 標準原価計算 1 / Standard cost system1
標準原価計算の基本的な内容と目的について説明を行った上で、標準原価計算プロセスの全体像について実務での運用を交えて講義する。
- 第12回: 標準原価計算 2 / Standard cost system2
標準原価計算における勘定記入法 (シングルプラン・パーシャルプラン・修正パーシャルプラン) の説明を行った上で、原価差異の具体的な処理方法についての概要を説明し、実務的な観点から法人税法上の規定との関連について講義する。
- 第13回: ABC (活動基準原価計算) / Activity Based Costing
伝統的な原価計算の問題点とABCの必要性について講義する。
- 第14回: キャッシュフローの視点による原価計算 / Cost accounting from a cash flow perspective
伝統的な原価計算と比較して、キャッシュフローの視点による原価計算について、費用計上と資金移動 (キャッシュフロー) との間で生じるギャップについて講義する。
- 第15回: 理解度確認セッション / Exercises
これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答審査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・理解度確認セッション (50%), レポート・小テスト (50%) で評価する。
AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満:不合格)

・Evaluation will be based on a comprehension confirmation session (50%) and a report/quiz (50%).

AA (90 points or more), A (80 po

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

図解&設例 原価計算の本質と 関浩一郎・菅野貴弘 中央経済社 2013 9784502489907 教科書
実務がわかる本

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習>

・次回講義分について必ず予習すること

<復習>

・各回の講義で課題を課す。事例について今回以前の分までを反復継続的に復習し、いつ小テストがあっても大丈夫なようにしておく必要がある。宿題以外の問題についても自主的に学習することを期待する。

About preparation and review:

・Preparation: Be sure to prepare for the next lecture

・Review: Tasks are assigned in each lec

10. その他 [In addition] :

オフィスアワー: 講義終了後

連絡先: shota.suzuki.e5@tohoku.ac.jp

その他講義を受講する際注意すべき点/others :

・前期に開講される原価計算 1 及び後期に開講される原価計算 2 も履修することが望ましい。/It is desirable to take Cost Accounting 1, which is offered in the first semester, and Cost Accounting 2, which is offered in the latter semester.

・簿記 2 級程度の知識を有していることが望ましい。/It is desirable to have knowledge of bookkeeping level 2.

・電卓を用意しておくこと/Prepare a calculator.

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

監査1/Auditing 1

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKO KAMBOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 月曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC510J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、監査の最も基本的な概念および理論、日本を中心とする諸制度を説明する。本講義を通じて、学生は、(1) 企業社会における多層的なモニタリングの仕組み、(2) 監査の歴史的発展の経緯、(3) 関連する法律、基準・規則、(4) 監査の重要概念、および(5) GAAS に反映されている現代の監査アプローチを理解することができる。講義内容は、公認会計士および監査法人が実施する外部監査に焦点をあてるが、内部監査人による内部監査と監査役による監査役監査の概要も講義内容としてカバーする。

The course provides fundamental knowledge on auditing. Through the course, students will understand as follows: (1) the multidimensional monitoring system in business society, (2) the historical development of auditing, (3) the applicable laws, standards, and rules, (4) the key concepts in auditing, and (5) the contemporary auditing approach reflected in current GAAS. The focus is basically on a financial statement audit conducted by CPAs and audit firms, but the course also covers audits within the companies conducted by internal auditors and Audit & Supervisory Board Members (Kansayaku).

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

監査の基礎知識を長期記憶に残るよう身につける。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

- 第1回 オリエンテーション/Orientation
講義の目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行います
- 第2回 誤謬、不正、違法行為/Error, fraud, illegal acts
誤謬と不正、違法行為について学びます (テキスト第5章)
- 第3回 内部統制とコーポレートガバナンス/Internal control and corporate governance
内部統制とコーポレートガバナンスについて学びます (テキスト第20章、第21章 [一部])
- 第4回 会社法監査/Audits under the Companies Act
監査制度 (会社法監査) について学びます (テキスト第3章、第21章 [一部])
- 第5回 金融商品取引法監査/Audit under the Financial Instruments and Exchange Act
監査制度 (金融商品取引法監査) について学びます (テキスト第6章)
- 第6回 監査プロフェッションと規制・監査基準の形成と意義/Auditing profession and regulation, Generally accepted auditing standards (GAAS)
監査プロフェッションと規制、監査規範、監査基準の形成と意義について学びます (テキスト第4章、第7章)
- 第7回 監査人の独立性/Auditor independence
監査人の独立性について学びます (テキスト第8章)
- 第8回 監査人の注意の標準/Due professional care
監査人の注意の標準について学びます (テキスト第9章)
- 第9回 監査プロセス/Audit process
監査プロセスについて学びます (テキスト第11章)
- 第10回 監査認識—アサーションとその構造—/Assertion-oriented audit cognition
監査証明において重要な機能をもつアサーションとその構造について学びます (テキスト第2章、第12章、第19章)
- 第11回 監査認識—監査証拠と監査技術—
監査人が入手する監査証拠とそのための監査技術について学びます (テキスト第13章)
- 第12回 監査リスク・アプローチ/Audit risk approach
監査リスク・アプローチについて学びます (テキスト第14章、第15章)
- 第13回 監査上の重要性/Materiality in audit
監査上の重要性概念について学びます (テキスト第14章、第15章)
- 第14回 監査結果の伝達/Communication of audit results
監査結果の伝達について学びます (テキスト第16章、17章)
- 第15回 理解度確認セッション/Examination
第1回から第14回までの講義内容について、理解度確認セッションを実施します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

課題およびグループワーク (40%)、理解度確認セッション (60%) によって評価します。
AA(90 点以上)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満: 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

財務諸表監査 改訂版	亀岡恵理子・福川裕 徳・永見尊・鳥羽至英	國元書房	2021	4765805743	教科書
------------	-------------------------	------	------	------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

各講義で学ぶ予定のテキストの章を事前に読んでおいてください。
また講義期間中、課題を数回出しますので、指定期日までに取り組んでください。

10. その他 [In addition] :

講義方法はシラバス補遺または Classroom でのお知らせを参照してください。講義中はグループワークとそれに基づく発言を求めることがありますので、講義に参加できる環境で受講してください。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

監査 2 / Auditing 2

担当教員 [Instructor] : 亀岡 恵理子 / ERIKO KAMBOKA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 月曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC511J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、受講生が監査の基本的知識を有していることを前提に、公認会計士・監査法人が遂行する財務諸表監査に特化して講義を行います。日本公認会計士協会が公表する監査基準委員会報告書、事例、監査研究を通じて、財務諸表監査について理解を深めます。講義では、テキスト（監査 1）や監査基準で学んだ内容がどのようにケースの中で生きているのか、また自身であればどのように判断・行動するのかを考えてもらうため、現実で起きたケースをいくつか用意して配布します。

The course focuses on a financial statement audit conducted by CPAs and audit firms. Students are expected to extend their basic auditing knowledge to deeper knowledge and skill through the standards (Auditing Standards Board Report issued by JICPA), case materials, and audit research findings. I will distribute actual fraud case material so that students can think about how learned knowledge is applied in the real world and how you would make judgments and decision-making if you were auditors.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

監査の知識を深め、知識が現実世界でどう適用されるのか、適用されるべきかを思考できるようになる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 オリエンテーション / Orientation

講義の目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行います

第2回 監査の失敗と期待ギャップ問題 / Audit failure and expectation gap

監査の失敗と期待ギャップ問題について学びます

第3回 監査品質フレームワーク / IAASB's (2014) framework for audit quality

財務諸表監査の質（監査品質）について学びます

第4回 不正の種類と対応 / Types of fraud and responses

不正の種類と対応について学びます

第5回 プレゼンテーション / Group presentation

グループごとにプレゼンテーションを行なってもらいます

第6回 企業及び企業環境の理解 / Understanding the entity and its environment

企業及び企業環境の理解について学びます

第7回 リスク評価とその対応 (1) / Identifying and assessing the risks of material misstatement (1)

リスク評価（不正リスク、財務諸表全体レベル）と評価したリスクへの対応について学びます

第8回 リスク評価とその対応 (2) / Identifying and assessing the risks of material misstatement (2)

リスク評価（アサーションレベル）と評価したリスクへの対応について学びます

第9回 監査証拠の収集、評価、統合 (1) / Gathering, evaluation, integration of audit evidence (1)

監査証拠の収集、評価、統合の内的プロセスについて学びます

第10回 監査証拠の収集、評価、統合 (2) / Gathering, evaluation, integration of audit evidence (2)

監査証拠の収集、評価、統合の内的プロセスについて学びます

第11回 会計上の見積りの監査 / Auditing complex accounting estimates

会計上の見積りの監査について学びます

第12回 他の専門家の利用 / Using expert/specialist in audit

他の専門家の利用について学びます

第13回 監査上の主要な検討事項 (KAM) / Key Audit Matters (KAM)

監査上の主要な検討事項 (KAM) について学びます

第14回 ゴーイングコンサーン / Going Concern

ゴーイングコンサーンについて学びます

第15回 理解度確認セッション / Examination

第1回から第14回までの講義内容について、理解度確認セッションを実施します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

課題またはグループワーク (30%)、理解度確認セッション (70%) によって評価します。

AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満：不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

財務諸表監査 改訂版	亀岡恵理子, 福川裕 徳, 永見尊, 鳥羽至 英	国元書房	2021	4765805743	参考書
こんなときどうする? 「会計上の 見積り」の実務(第2版)	あずさ監査法人	中央経済社	2020	4502342815	参考書
実践 不正リスク対応ハンドブ ック: 内部統制の強化、不正会 計の予防・発見・事後対応	EY 新日本有限責任監 査法人	中央経済社	2022	4502438014	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

講義期間中、課題が出された場合には、指定期日までに取り組んでください。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識として、監査1を受講済であることが望ましい。

講義方法はシラバス補遺またはClassroomのお知らせより確認してください。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

監査3/Auditing 3

担当教員 [Instructor]: 細尾 忠敬/TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 木曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC614J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

財務諸表監査論は「総論」と「手続論（実施・報告論）」の2つに分けることができる。この講義では、主として「総論」に関する実務的な論点について扱うこととし、各テーマについて論点整理とディスカッションを行う。本講義では、受講者の自習を通じた検討事項の発表及びグループディスカッションを通じて、基本的な概念および制度の趣旨を効果的に達成することを目的とする。

The audit of financial statements can be divided into two categories: "General remarks" and "Procedure methodology" (Audit Procedure Methodology / Reporting). In this lecture, I will mainly deal with practical issues related to the general "General remarks", and will organize and discuss issues on each theme. The purpose of this lecture is to effectively achieve understanding the basic concept and understanding the purpose of the system through the presentation of items to be considered through self-learning and group discussion.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

「総論」では主に、①基本的な概念を理解すること、②制度の趣旨を理解すること、③制度の詳細を把握すること、の3点が必要となる。

"General remarks" mainly require three points: (1) understanding the basic concept, (2) understanding the purpose of the system, and (3) understanding the details of the system.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

講義の進め方, 成績評価, 学習方法などについて説明する。

第2~3回: 監査の意義, 歴史, 目的/Audit Significance, History, Purpose

監査のフレームワークのうち, 基礎的な論点を整理する。

第4回: ディスカッション1 監査の枠組みと「期待ギャップ」/Discussion 1: Audit framework and "Expectation gap"

下記について議論する「社会やマーケットが期待する監査人の役割と, 監査に対するニーズの変化」、「監査人が引き受けている役割と, 期待ギャップへの対応」、「監査上の主要な事項(Key Audit Matters: KAM) 報告制度導入の要否」

第5~6回: 監査基準, 監査主体/Audit standard, Auditor

監査の基準論及び監査主体に関する論点を整理する。

第7回: ディスカッション2 独立性と職業的懐疑心/Discussion 2: Independence and professional skepticism

「監査責任者の定期的交代(ローテーション)と独立性との関係」、「外観的独立性と監査人の報酬, 非監査証明業務について」、「職業的専門家としての正当な注意と職業的懐疑心について」についてディスカッションする。

第8回: 不正・誤謬, 違法行為/Fraud, Errors and Illegal Acts

監査のフレームワークの中で重要な論点である「不正・誤謬」について学ぶ。

第9回: ディスカッション3 監査人と不正への対応/Discussion 3: Recognize Fraud for Auditor

「財務諸表の重要な虚偽表示と, 監査人が発見すべき不正」、「経営者不正への対応」、「不正リスク対応基準の有効性」についてディスカッションする。

第10回: 法定監査(金融商品取引法・会社法)/Statutory audit (Financial Instruments and Exchange Act / Companies Act)

日本における法定監査についての論点を整理する。金融商品取引法に基づく財務諸表監査及び内部統制報告書監査と, 会社法監査についての主要な論点を検討する。

第11回: 継続企業の前提/Going Concern

監査のフレームワークの中で重要な論点である「継続企業の前提(ゴーイング・コンサーン)」について学ぶ。

第12回: ディスカッション4 継続企業の前提/Discussion 4: Going Concern

「継続企業の前提に関する経営者の責任と監査人の対応」、「継続企業の前提に関する監査意見」、「企業リスク評価主義の是非」についてディスカッションする。

第13回: 会計プロフェッションと自己規制/Accounting profession and self-regulation

監査主体論の各論である「会計プロフェッションとその職業倫理」「監査の品質管理と監査調書」、さらに監査主体を直接に律する法律である「公認会計士法」に関する論点を整理する。

第14回: ディスカッション5 会計プロフェッションと自己規制/Discussion 5: Accounting profession and self-regulation

「会計プロフェッションの社会的な役割と使命」、「品質管理の重要性と自己規制システムのあり方」、「日本の監査制度と行政との関係」についてディスカッションする。

第15回: 理解度確認セッション/Examination

理解度確認セッションを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

・講義への参加度(60%), 理解度確認セッション(40%)で評価する。

・AA(90点以上), A(80点以上90点未満), B(70点以上80点未満), C(60点以上70点未満), D(60点未満: 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

財務諸表監査(改訂版)	亀岡恵理子, 福川裕徳, 永見尊, 鳥羽至英	国本書房	2021	4765805743	参考書
スタンダードテキスト監査論(第6版)	蟹江章, 井上善弘, 栗濱竜一郎	中央経済社	2022	4502430412	参考書
監査法規集(第5版)	中央経済社	中央経済社	2021	450234351X	法規集
監査実務指針集 [五訂版]	日本公認会計士協会	日本公認会計士協会	2021	4910136088	法規集

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習・復習について :

<予習>

・論点整理とディスカッションのために相応の事前準備が必要となるため、予習の時間を十分に確保すること。

<復習>

・グループディスカッションを通じて理解が深まった部分を教科書や参考書を通じて再確認するとともに、理解が足りなかったと感じた部分について各自で学習すること。

10. その他 [In addition] :

・「講義の目的」にも記載したように、本講義では財務諸表監査論のうち主として「総論」に関する実務的な論点を取り扱い、「手続論(実施・報告論)」は「監査実務1」で取り扱います。どちらも単独で履修可能ですが、学習効果の観点からは、「監査3」と「監査実務I」両方の履修を推奨します。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

監査実務 I / Audit Practice I

担当教員 [Instructor] : 細尾 忠敬 / TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 木曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC615J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

財務諸表監査論は「総論」と「手続論（実施・報告論）」の2つに分けることができる。この講義では、主として国際監査基準をベースとした監査基準報告書（監基報）に基づく「手続論」を学習する。

The audit of financial statements can be divided into two categories: "General remarks" and "Procedure methodology" (Audit Procedure Methodology / Reporting). In this lecture, I will mainly deal with practical issues related to the general "Procedure methodology", and will organize and discuss issues on each theme.

In this lecture, you will learn "Procedure methodology" based on the report of the Auditing Standards Committee, which is based on the International Auditing Standards.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

「手続論」では主に、①基本的な概念を理解すること、②手続の趣旨を理解すること、③手続の詳細を把握すること、の3点が必要となる。本講義では、講義スライドの説明を通じてこれらを効果的に達成することを目的とする。なお、③については講義ですべてを解説することはできないので、各自、必要に応じて、自習すること。

"Procedure methodology" mainly requires three points: (1) understanding the basic concept, (2) understanding the purpose of the procedure, and (3) understanding the details of the procedure. The purpose of this lecture is to achieve these effectively through the explanation of lecture slides. Since (3) cannot be fully explained in a lecture, you need to learn by yourself as necessary.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

- 第1回：オリエンテーション / Orientation
講義の進め方、成績評価、学習方法などについて説明する。
- 第2回：監査プロセス、アサーション、監査要点 / Audit process, assertions
第2回から第4回にかけて、手続論における基本的な概念を学ぶ。
- 第3回：監査リスク・アプローチ、重要性 / Audit Risk Approach, Materiality
手続論におけるもう一つの重要な柱である「監査リスク・アプローチ」(audit risk approach) の概念と、監査上の重要性の概念について学ぶ。
- 第4回：監査証拠、監査技術 / Audit Evidence, Audit techniques
監査証拠、監査技術について概説する
- 第5回：監査計画、分析的手続 / Planning of Audit of Financial Statements, Analytical Procedures
手続論のうち実施論（認識論とも呼ばれる。）について学ぶ。
- 第6回：リスク評価手続 (1) / Risk assessment (1)
リスク評価手続について学ぶ。
- 第7回：リスク評価手続 (2) / Risk assessment (2)
リスク評価手続について学ぶ。
- 第8回：リスク対応手続 / The Auditor's responses to assessed risks
リスク対応手続の概念について学習する。
- 第9回：試査 / Audit Sampling
試査について概観する。
- 第10回：会計上の見積りの監査 / Auditing Accounting Estimates
会計上の見積りの監査に関するこれまでの監査実務を概観する
- 第11回：他者の作業の利用 / Using the Work of an Auditor's Expert
監査基準における他者の作業の利用（他の監査人等の利用）の取り扱いについて学習する。
- 第12回：一般的な手続 / General Procedures
監査報告書の提出前に一般的な手続について概説する
- 第13回：監査報告 / Audit Report
手続論のうち報告論について学ぶ。
- 第14回：追記情報、特別目的 / Emphasis of Matter Paragraphs, Special Purpose
監査報告書において記載される追記情報の意義および追記情報の種類と内容について学習する。
- 第15回：理解度確認セッション / Examination
理解度確認セッションを行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- ・授業へのフィードバックの提出 (60%)、理解度確認セッション (40%) で評価する。
- ・AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満 : 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

財務諸表監査(改訂版)	亀岡恵理子, 福川裕	国本書房	2021	4765805743	参考書
	徳, 永見尊, 鳥羽至英				

スタンダードテキスト監査論 (第6版)	蟹江章, 井上善弘, 栗 濱竜一郎	中央経済社	2022	4502430412	参考書
監査法規集(第5版)	中央経済社	中央経済社	2021	450234351X	法規集
監査実務指針集 [五訂版]	日本公認会計士協会	日本公認会計士協 会	2021	4910136088	法規集

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習>

・講義前に, スライド等の配布資料に目を通しておくこと.

<復習>

・各回で具体的に指定している監査基準や監基報のほか, 次ページに掲げる参考文献から講義のテーマに沿った内容を合わせて読むこと.

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

財務諸表監査論のうち「総論」の基本事項を習得済みであることが望ましい. 財務諸表監査論を学んだことがない場合には, 教科書および参考書で挙げた参考書のうち1冊を事前に読んでおくこと.

その他講義を受講する際注意すべき点 :

「講義の目的」にも記載したように, 本講義では財務諸表監査論のうち, 主として国際監査基準をベースとした監査基準報告書(監基報)に基づく「手続論」を取り扱い, 「総論」に関する実務的な論点は「監査3」で取り扱います. どちらも単独で履修可能ですが, 学習効果の観点からは, 「監査実務I」と「監査3」の両方の履修を推奨します.

各回の授業方法の詳細, オフィスアワー, Classroom のコードなどの補足情報は, 下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

監査実務Ⅱ/Audit Practice II

担当教員 [Instructor] : 細尾 忠敬/TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC619J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

現代の企業活動において IT (情報技術) の利用は一般的となっている。このような環境における監査人の業務も必然的に IT に密接に関連することになる。現在では、財務諸表監査の対象が IT 化されているケースや、財務諸表監査で利用する情報 (データ) が電子化されているケースがほとんどである。

本講義では IT を活用した監査について概説する。

The use of IT (information technology) has become commonplace in modern corporate activities. The work of auditors in such an environment will inevitably be closely related to IT. Currently, in most cases, the subject of financial statement audits is IT-enabled, and the information (data) used in financial statement audits is computerized. This lecture will provide an overview of auditing using IT.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

本講義では、以下の3点について実践的な理解することが必要となる。

- ① 財務諸表監査における、監査人による IT の評価
- ② 財務諸表監査における、監査人による IT の利用
- ③ 会計・監査環境を取り巻く IT の最新動向

In this lecture, it is necessary to have a practical understanding of the following three points.

- (1) Evaluation of IT by auditors in financial statement audits
- (2) Use of IT by auditors in financial statement audits
- (3) Latest trends in IT surrounding the accounting and auditing environment

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション/Orientation

講義の内容の概括的な説明を行う。

第2回: 監査人と IT/IT for auditors

IT 監査の内容を説明するに当たり、監査人にとっての IT との関わり全般について説明する。

第3回: IT を利用した内部統制の経営者による構築/Designed by management of internal control using IT

IT に関する企業の戦略や IT を利用した管理手法にどのようなものがあるか、また、それらはどのような理論のもとに成り立っているのかについて学ぶ。

第4回: IT を利用した内部統制の監査人による評価/Auditor's assessment of internal control using IT

監査人による IT の評価は、企業の内部統制を理解する際に当該内部統制の構築に利用されている IT をいかに評価するかについて検討する。

第5回: 電子媒体による監査証拠の評価/Assessment of electronic audit evidence

監査証拠が電子媒体による場合にその証明力をいかに評価するかについて検討する。

第6回: ケーススタディ 1/Case study 1

第4回と第5回の内容と関連する実務的なケースを用いて、PC を使った実習を実施する。

第7回: ケーススタディ 2/Case study 2

ケーススタディを実施する。

第8回: C A A T の概念と方法. サンプルング基礎知識/CAAT concept and method, basic knowledge of sampling

「財務諸表監査における監査人による IT の利用」について取り上げる。

第9回: C A A T 演習 (基礎 1)/CAAT Exercise (Basic 1)

現在の監査において不可欠である CAAT について、専用教材を用いて実習 (基礎および応用) を行う。実習は、オンラインで各自の PC を利用して行う。

第10回: C A A T 演習 (基礎 2)/CAAT Exercise (Basic 2)

C A A T 演習で利用する専用教材について、一般的な説明を行う。

第11回: C A A T 演習 (応用 1)/CAAT Exercise (Practical 1)

C A A T の応用的な演習を行う

第12回: C A A T 演習 (応用 2)/CAAT Exercise (Practical 2)

前回に引き続き、C A A T の応用的な演習を行う。

第13回: 最新の CAAT

会計・監査環境を取り巻く CAAT の最新動向について扱う。

第14回: 未来の監査/Audit of Future

会計・監査環境を取り巻く IT の最新動向について扱う。

第15回: 理解度確認セッション/Check the degree of understanding.

理解度確認セッションを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

実習への参加、貢献 (80%) および理解度確認セッション (20%) で評価する。

AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満: 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

財務諸表監査(改訂版)	亀岡恵理子, 福川裕 徳, 永見尊, 鳥羽至英	国本書房	2021	4765805743	参考書
スタンダードテキスト監査論 (第6版)	蟹江章, 井上善弘, 栗 濱竜一郎	中央経済社	2022	4502430412	参考書
監査法規集(第5版)	中央経済社	中央経済社	2021	450234351X	法規集
監査実務指針集 [五訂版]	日本公認会計士協会	日本公認会計士協 会	2021	4910136088	法規集

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習・復習について:

講義前に, スライド等の配布資料に目を通しておくこと. 復習として, 各回で具体的に指定している監査基準や監基報の
ほか, 教科書および参考書に掲げる参考文献等から講義のテーマに沿った内容を合わせて読むこと.

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

監査論に関する基礎的な知識

Excel の簡単な操作知識

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大
ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (監査制度) / Case Study (Auditing System)

担当教員 [Instructor] : 細尾 忠敬 / TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 金曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC620J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業不正の事例を検討し、その後に実際に採られた対応策を概観することにより、財務諸表監査と社会のかかわりについて理解する。また、実務的な観点から、類似した内容の不正に直面した際に監査人としていかに対応すべきかについて検討する。

Understand the implications of financial statement auditing and society by reviewing cases of corporate fraud and then reviewing the actual measures taken. In addition, from a practical point of view, we will consider how we should respond as auditors when facing similar fraud.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

企業不正の類型とそれに対する監査の対応を理解することができる。

Understand the types of corporate fraud and how audits respond to them.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 総論1 / General remarks 1

企業不正の要因や手法についての一般論を講義形式で概観する。

第2回 総論2 / General remarks 2

企業不正の要因や手法についての一般論を講義形式で概観する。

第3回 総論3 / General remarks 3

企業不正の要因や手法についての一般論を講義形式で概観する。

第4回 不正事例の分析・報告1 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第5回 不正事例の分析・報告2 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第6回 不正事例の分析・報告3 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第7回 不正事例の分析・報告4 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第8回 不正事例の分析・報告5 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第9回 不正事例の分析・報告6 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第10回 不正事例の分析・報告7 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第11回 不正事例の分析・報告8 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第12回 不正事例の分析・報告9 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第13回 不正事例の分析・報告10 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第14回 不正事例の分析・報告11 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

第15回 不正事例の分析・報告12 / Analysis and reporting of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点、分析を報告する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

討論への参加 (70%) および担当箇所の発表 (30%) で評価する。

AA(90点以上), A(80点以上90点未満), B(70点以上80点未満), C(60点以上70点未満), D(60点未満:不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

業種別・不正パターンと実務対応	E Y 新日本有限責任監査法人	中央経済社	2019	4502304514	参考書
東芝事件総決算 会計と監査から解明する不正の実相	久保恵一	日本経済新聞出版社	2018	4532322219	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

割り当てられた個別の不正事例の調査・分析・報告

復習:

発表者の個別の不正事例の分析・報告の理解

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

財務会計および監査論に関する基礎的な知識

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

監査計画の編成法1 / Audit Planning 1

担当教員 [Instructor]: 小粥 純子 / JUNKO KOGAYU

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 水曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC616J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

監査手続として企業のリスクを評価し識別することは具体的にどのようなことなのかについての基本的な枠組みを、監査基準報告書 315 「重要な虚偽表示リスクの識別と評価」(監基報 315) を中心に講義する。監基報 315 は、内部統制を含む、企業及び企業環境の理解を通じて、財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し評価することに関する実務上の指針を提供するものである。

I will lecture on the basic framework of how assessing and identifying a corporate's risks as an audit procedure is exactly what it is, focusing on the ISA315 Identifying and Assessing the Risks of Material Misstatement. ISA315 deals with the auditor's responsibility to identify and assess the risks of material misstatement in the financial statements, through understanding the entity and its environment, including the entity's internal control.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

会計専門職に期待される企業のリスク評価の手法を習得することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

○オンライン(オンデマンド)による講義

○監査基準報告書をテーマごとに講義し、ケース・スタディにより基準の意味するところを理解する。

○進度予定

第1回: 事業上のリスクと監査リスク概念/Auditor's business risks

事業上のリスクがどのように監査上のリスク概念と関係するかについて理解する。

第2回: 企業と企業環境の理解/ Understanding the entity and its environment.

監査手続としての企業と企業環境の理解について概説する。

第3回: 重要性と分析的手続/ Materiality and analytical procedures

監査上の重要性と監査計画段階の分析的手続について概説する。

第4回: 会計上の見積りの監査/ Auditing accounting estimates

会計上の見積りを要する勘定科目等の監査について理解する。

第5回: 重要な虚偽表示リスクの評価/ Assessing risks of material misstatement

重要な虚偽表示リスク、特別な検討を必要とするリスクの識別の過程を理解する。

第6回: 小レポート/ Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について小レポートを実施し、理解度を確認する。

第7回: 財務諸表監査における不正/ Fraud in an audit of financial statements

財務諸表監査における不正を理解する。

第8回: 関連当事者の監査/ Related parties

関連当事者の取引の開示内容や非財務情報とそれに関する監査手続を理解する。

第9回: リスク対応手続/ The auditor's responses to assessed risks

財務諸表全体レベルとアサーションレベルのリスクに応じた監査手続について理解する。

第10回 小レポート/ Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について小レポートを実施する。

第11回 監査上の主要な検討事項/ Key Audit Matter

監査役等とのコミュニケーション、監査上の主要な検討事項の報告を理解する。

第12回 監査計画の編成法/ Planning an audit of financial statements

前回までに理解したリスク評価手続にもとづき、監査計画の作成について総括する。

第13回 事例研修(1) / Case Study(1)

企業の有価証券報告書等を使ってリスク評価手続の事例研究を行う。

第14回 事例研究(2) / Case Study(2)

企業の有価証券報告書等を使って会計上の見積りの監査の事例研究を行う。

第15回: 理解度確認セッション(レポート) / Examination (Report)

期末レポートを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

小レポート2回(60%) および理解度確認セッション(期末レポート)(40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・ 予習は講義で参照する基準等について熟読する。
- ・ 復習は、ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

10. その他 [In addition] :

テキスト・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する。

この講義を受講するために必要となる知識：

- ・ 監査論の科目を履修していることが望ましい。
- ・ 財務諸表監査における内部統制の評価については、「内部統制の実務」で取り扱うため、当講義と併せて履修することを推奨する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

監査計画の編成法 2 / Audit Planning 2

担当教員 [Instructor] : 小粥 純子 / JUNKO KOGAYU

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 火曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC617J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

リスク評価手続により識別したリスクにして、どのようなリスク対応手続を設計すべきかについての基本的な枠組みを、監査基準報告書 330 「評価したリスクに対応する監査人の手続」(監基報 330) を中心に講義する。監基報 330 は監基報 315 「重要な虚偽表示リスクの識別と評価」に従い識別し評価した重要な虚偽表示リスクに対応した、監査人の運用評価手続と実証手続の立案及び実施に関する実務上の指針を提供する。

I will lecture on the basic framework of what kind of procedures should be designed to the risks identified, focusing on the ISA 330 The Auditor's Responses to Assessed Risks.

ISA330 deals with the auditor's responsibility to design and implement responses (tests of controls, substantive procedures) to the risks of material misstatement identified and assessed by the auditor in accordance with ISA 315 Identifying and Assessing the Risks of Material Misstatement.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

評価した重要な虚偽表示リスクに対応した運用評価手続と実証手続が立案できることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

○オンライン (オンデマンド) による講義

○監査基準報告書をテーマごとに講義し、ケース・スタディにより基準の意味するところを理解する。

○進度予定

第1回: 評価したリスクに対応する監査人の手続/ The auditor's responses to assessed risks

財務諸表全体レベルとアサーションレベルのリスクに応じた監査手続について概説する。

第2回 監査証拠/ Audit evidence

十分かつ適切な監査証拠、特定項目に対する監査証拠について理解する。

第3回 分析的手続/Substantive analytical procedures

分析の実証手続、詳細テスト、最終段階の分析的手続について理解する。

第4回: 第1回小レポート/Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について、論述式の小レポートを実施する。

第5回: 確認/ External Confirmations

売掛金の確認手続について発送先の選定 (特定項目抽出、サンプリング) 等を理解する。

第6回: 試査/ Audit Sampling

監査サンプリングのテスト対象項目の抽出、結果をどのように評価するのかを理解する。

第7回: 第2回小レポート/Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について、論述式の小レポートを実施する。

第8回 後発事象と比較情報/Subsequent Events and Comparative Information

事例をもとに、後発事象及び比較情報の監査上の取扱いを理解する。

第9回 会計上の見積りの監査/Auditing accounting estimates

会計上の見積りのリスク対応手続における内部統制の運用評価手続について理解する。

第10回: 専門家の業務の利用/Using the work of an auditor's expert

専門家の業務の利用が必要な局面と適切性に係る評価について理解する。

第11回 虚偽表示の評価/Evaluation of misstatements

監査の過程で識別した虚偽表示の評価、経営者確認書等を理解する。

第12回 継続企業の前提/Going concern

継続企業を前提として財務諸表を作成することと監査手続について理解する。

第13回: グループ監査/Audits of group financial Statement

グループ監査人の責任、グループ財務諸表の重要な虚偽表示リスクの識別と評価等について理解する。

第14回 監査調書、監査報告/Audit documentation, Forming an opinion and reporting

監査調書、監査報告書の意見類型、監査上の主要な検討事項の報告を理解する。

第15回: 理解度確認セッション (レポート) / Examination (Report)

全体の理解に基づき、論述式の期末レポートを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

小レポート 2 回 (60%) および理解度確認セッション (期末レポート) (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・ 予習は講義で参照する基準等について熟読する。
- ・ 復習は、ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

10. その他 [In addition] :

テキスト・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する。

この講義を受講するために必要となる知識：

- ・ 監査論の科目を履修していることが望ましい。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

内部統制の実務/Internal Control Practice

担当教員 [Instructor]: 小粥 純子/JUNKO KOGAYU

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 火曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC618J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

企業の内部統制の評価は具体的にはどのように行われるのかについての基本的な枠組みを、金融庁企業会計審議会の財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに同実施基準を中心に講義する。同基準の枠組みは、経営者による財務報告に係る内部統制の評価及び報告の基準と監査人による財務報告に係る内部統制の監査の基準の前提となる内部統制の概念的な枠組みを示すものである。

I will lecture on the basic framework of how assessing and reporting a corporate's internal control, focusing on the Standards for Management Assessment and Audit concerning Internal Control Over Financial Reporting. This framework provides the conceptual framework for internal control that underlies the standards used by management to assess and report on internal control over financial reporting and the standards used by external auditors to audit internal control over financial reporting.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

会計専門職に期待される企業の内部統制の理解と評価手続の立案ができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

○オンライン (オンデマンド) による講義

○「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準及び実施基準」をテーマごとに講義し、ケース・スタディにより基準の意図するところを理解する。

○進捗予定

第1回: 内部統制報告制度の概要/Assessment and report on internal control over financial reporting

日本の法令要求事項、内部統制基準等、コーポレート・ガバナンスコードについて概説する。

第2回: 内部統制の基本的枠組み (1) /Basic framework of internal control (1)

事例を用いて「統制環境」とその7つの要素を理解する。

第3回: 内部統制の基本的枠組み (2) / Basic framework of internal control (2)

事例を用いて「リスクの評価と対応」、「情報と伝達」、「モニタリング」を理解する。

第4回: 財務報告に係る内部統制の評価 (1) / Assessment on Internal Control (1)

財務報告に係る内部統制の評価とその範囲、評価範囲の決定方法等を理解する。

第5回: 業務プロセスに係る内部統制の評価/Assessment of Process-Level Controls

「統制活動」と業務プロセスの有効性の評価について理解する。

第6回: 小レポート/ Quiz and Report

前回までの講義内容について小レポートを実施する。

第7回: IT (情報技術) への対応/ Response to IT

基本的要素である「IT への対応」、IT 全般統制、IT 業務処理統制について理解する。

第8回: 内部統制の有効性の評価 /Judgment of the Effectiveness of Controls

全社的な内部統制の有効性の評価、業務プロセスの有効性の評価について理解する。

第9回: 内部統制監査 (計画の策定) / Audit on Internal Control Over Financial Reporting

監査計画の策定、内部統制の監査の実施について理解する。

第10回: 内部統制監査 (有効性の評価) / Performance of the Internal Control Audit

内部統制の有効性の評価、内部統制の開示すべき重要な不備等について理解する。

第11回: 小レポート/ Quiz and Report

前回までの講義内容について小レポートを実施する。

第12回: 事例研究 (1) / Case Study(1)

企業の有価証券報告書等を使って、全社的な内部統制の事例研究を行う。

第13回: 事例研究 (2) / Case Study(2)

企業の有価証券報告書等を使って、業務プロセスの有効性の事例研究を行う。

第14回: 財務諸表監査との関係/Integration of internal control audit with audit of financial statements

財務報告に係る内部統制の監査そして財務諸表監査との関係について理解する。

第15回: 理解度確認セッション (レポート) / Examination (Report)

全体の理解に基づき、論述式の期末レポートを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

小レポート 2 回 (60%) および理解度確認セッション (期末レポート) (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・予習は講義で参照する基準等について熟読する。
- ・復習は、ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

10. その他 [In addition] :

テキスト・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する。主として以下の基準等を使用する。

※財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準及び実施基準

この講義を受講するために必要となる知識：企業のリスク評価の観点から、監査計画の編成法 I を併せて履修することを推奨する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

ミクロ経済学／Micro Economics

担当教員 [Instructor] : 吉田 惇/JUN YOSHIDA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-EC0501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

個々の消費者や生産者の行動を基礎とする「ミクロ経済学」について基礎理論と応用を学びます。現実の経済で起きているさまざまな経済事象を論理的に考え、理解できる力を身につけることを目的とします。前半は、消費者の行動と生産者の行動などのミクロ経済学の基礎理論について、後半は、基礎理論を応用して現実問題の分析や最適な政策とはどうあるべきかについて説明します。

In this course, we study the foundational theories and applications of "microeconomics," which are based on the behaviors of individual consumers and producers. The goal is to develop the ability to logically analyze and understand various economic phenomena occurring in the real economy. The first half covers the basic theories of microeconomics, such as consumer behavior and producer behavior. The second half explains the application of these foundational theories to address real-world problems and discuss the optimal policies to deal with them.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

ミクロ経済学に関する基礎知識を習得し、ニュース等で取り上げられるミクロ経済学に関連する現実問題の分析や実際の政策の良し悪しについて評価できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

- 第1回 需要曲線と供給曲線/ Demand curve and supply curve
市場取引を説明するうえで重要な役割を果たす需要曲線と供給曲線について説明する。
- 第2回 競争的市場/ Competitive market
市場の需要曲線と供給曲線を使って、競争的市場で価格や生産量（消費量）がどのように決定されるかについて説明する。
- 第3回 需要曲線と消費者の利益/ Demand curve and consumers' surplus
消費から得られる消費者の効用と需要曲線がどのような関係にあるのか及び経済活動がもたらす消費者の利益について説明する。
- 第4回 供給曲線と生産者の利益/ Supply curve and producers' surplus
生産者の財・サービスの生産費用と供給曲線がどのような関係にあるのか及び生産行動から生じる企業の利益について説明する。
- 第5回 市場均衡と社会の利益の導出/ Market equilibrium and social surplus
市場均衡において、社会的総余剰がどのように得られるのか、競争的な市場は社会的総余剰を最大にするのかについて説明する。
- 第6回 最低賃金法は望ましいか？/ Are minimum wage laws desirable?
第1～5回で学んだ理論を応用して、最低賃金法を例にとり、最低賃金法が社会的に望ましいかどうかについて解説する。
- 第7回 市場の失敗/ Market failure
生産活動に伴って外部不経済効果が生じる場合、自由な市場取引は社会全体の利益は最大とならないことについて解説する。
- 第8回 外部費用と最適な環境政策/ External costs and optimal environmental policy
環境問題を例にとり、社会的総余剰を最大にするためにどのような環境政策を実施すればよいかについて説明する。
- 第9回 規制か環境税か？～政府の失敗/ Choice of policy instruments: regulation or environmental tax?
政府の失敗の可能性がある場合、生産量規制と環境税のどちらが望ましい政策手段であるか解説する。
- 第10回 不確実性と政策手段の選択/ Uncertainty and the choice of policy instruments
政府が企業行動について完全な情報を得ることができない場合、どのような政策手段を選択するのが望ましいかについて説明する。
- 第11回 交通混雑/ Traffic congestion
交通混雑問題を例にとり、社会的総余剰を最大にするためにどのような政策を実施すればよいかについて説明する。
- 第12回 独占/ Monopoly
生産者が価格支配力を持っている場合に、どのような問題を引き起こすかについて解説する。
- 第13回 公共財の最適供給/ Optimal public goods provision
地方政府が供給する地方公共財が適切に供給されるための条件について説明する。
- 第14回 企業誘致と租税競争/ Attracting firms and tax competition
市民の効用最大化を目的として政策決定する地方政府でも、場合によっては失敗する（最大にならない）ことを説明する。
- 第15回 理解度確認セッション/ Examination
学習内容全体を確認するための試験を行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義中の数回実施する小テスト(30%)および理解度確認セッション(70%)で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

授業中に配布する講義ノートおよびスライド

入門環境経済学 新版-脱炭素時代の課題と最適解 (第一部)	日引聡・有村俊秀	中央公論新社	2023	ISBN978-4-12-102751-1	参考書
ミクロ経済学の力	神取道宏	日本評論社	2014	ISBN-10: 453555756X	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習：講義ノートの指定箇所を事前に読んでおくこと。

復習：小テストについて再度取組み、理解を深めておく。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

授業では、高校程度の数学（面積の公式、一次方程式、グラフ、関数の最大値、簡単な微分など）を用いる。数学は、物事を論理的に整理し、考えるための道具として使うだけなので、数学に対して、極度のアレルギーがない限り、数学自体が理解の妨げになることはないであろう。（授業では、同じことを繰り返して、説明するので、数学が錆びついていたとしても、やる気があれば、問題はない。）この授業は、暗記力よりは、むしろ論理的に物事を整理し、考える能力が必要とされる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

経営管理/Business Management

担当教員 [Instructor] : 一小路 武安/TAKEYASU ICHIKOHI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では経営学の基本分野であるミクロ・マクロ組織論、経営戦略論、マーケティングに加えて、近年注目が集まっている情報化や企業の社会的責任などの論点について学ぶと同時に、経営学について自発的に学習する際に必要な知識を習得する。

The aim of this course is to help students learn about the basic fields of business administration, such as micro/macro organization theory, management strategy, and marketing, as well as the recent focus on information technology and corporate social responsibility, and at the same time acquire the knowledge necessary for independent study of business administration.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

経営学に関する基本理論の意味を理解し、現実に対応する応用力を得ると同時に、基本的な理論にとどまらず、近年の研究を調べられるだけのリテラシーを身に着けること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション/Orientation

この授業の概要、進め方、成績評価について

第2回：近代企業の誕生と経営管理/ The Birth of the Modern Company

管理が学問として迫ってくるのか、学問としての経営管理の成立背景と初期の研究を概観する。

第3回：経営管理の領域と発展/Developments in Business Administration

経営管理の発展の歴史を理解することで、組織を管理する際の大枠を捉える。

第4回：モチベーション/Motivation

人がなぜ働くのかを検討することで、組織を管理する方法を考える。

第5回：リーダーシップ/Leadership

管理者としてどのような姿勢が人を管理するために優れているのか検討する。

第6回：現場の管理/Line management

開発、生産、販売などの活動が行われる現場の管理について、とくに製造業に焦点を当てて内容を確認する。

第7回：組織のデザインと変化/Organizational Design

組織デザインの基本枠組みである組織構造について学ぶ。

第8回：組織のパフォーマンスと組織文化/Organizational Culture

他の組織と異なる歴史や経験が作り出す組織文化がいかに組織パフォーマンスに影響するか考える。

第9回：経営戦略/Management Strategy

組織のとるべき行動や方向性の決定がどのようになされるのかを取り扱う経営戦略論について概観する。

第10回：市場戦略/Market Strategy

企業は製品を消費者に受け入れてもらうために、市場を通じて活動していく。

第11回：組織間関係と外部資源の管理/Inter-organizational Relations

組織が、外部の資源をいかに活用するか考える。

第12回：グローバル化と国際経営/International Business

グローバル企業が自国とは異なる環境下でいかに事業展開を行うために、どのような考え方が必要か紹介する。

第13回：情報技術とビジネスの進化/Information Technology

情報化の時代において、企業が情報技術の力を十分に引き出すために必要なマネジメントについて検討する。

第14回：企業の社会活動とソーシャルキャピタル/Corporate Social Responsibility

社会のなかに位置づけられる企業が、いかにその責任を果たすか企業の社会的責任について考える。

第15回：理解度確認セッション/Examination

これまでの講義内容に基づいて、各人の学習内容をまとめて提出してもらい、概観する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

事前課題 (20%)、事後課題 (20%)、発表 (20%)、平常点 (30%)、理解度確認セッション (10%)

AA(90点以上), A(80点以上90点未満), B(70点以上80点未満), C(60点以上70点未満), F(60点未満; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

「コアテキスト：経営管理」(第 高松朋史・具承恒 新世社 2019 4883842916 教科書
2版)

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習: 事前に指定した課題について自分なりの見解をまとめる。

復習: 該当回のテーマ・内容に基づいて、近年の研究内容について調べる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

経営学の論文を読むことをいとわない程度の英語力

講義の性質上、教科書を自費で購入したり、論文を自分で調べてみたり、もしくは授業内で発表を行ったりと他の講義とは異なる点があるので、理解したうえで受講してほしい。また、履修者数やその意向に応じて、内容を多少変更することがある。

本講義はオンラインにて行われる。事前に承知のうえ、参加いただきたい。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

マーケティング/Marketing

担当教員 [Instructor] : 和田 正春/MASAHARU WADA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 1 講時. 後期 水曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN502J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

The objective of this lecture is to understand basic theories of marketing. The essence of marketing is to realize CS, customer satisfaction, what is intangible and basically psychological. We have to control all the factors influencing CS and to realize the effective marketing system. In this lecture, we approach the real efforts of leading companies to win the CS excellence and nourish the marketing sense to analyze market phenomena.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

マーケティングの理論を応用して今日の企業の事例を分析することで、経営判断におけるマーケティングの視点を理解できるようにする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

- 第1回：講義のイントロダクションと市場の理解 Introduction and understanding of market
講義の説明と受講者のニーズとの調整を行う。市場の変化について概説する。
- 第2回：マーケティングの変遷 History of Marketing
マーケティングがどの様に変化してきたのかを概説する。
- 第3回：市場環境の理解 Understanding of marketing environments
市場をどの様になっているのか。その構造的理解を進めるための基本的な考え方を紹介する。
- 第4回：市場システムとビジネスの実例 Market system and competition
市場の中に現存している市場システムを理解する。実際のビジネスのケースと照らし合わせながら理解する。
- 第5回：市場の構成要因と市場観 The principle factors of market and Marketing view
市場の構成要因を理解し、市場を捉えていく視点を養っていく。
- 第6回：マーケティングとは-マーケティングという機能 The function of Marketing
マーケティングとはどの様なものかをその機能に注目して考えていく。
- 第7回：市場把握 Understanding of market: the starting point of proper marketing
市場の現状や将来像をどう捉えるかについて考える。
- 第8回：Customer Value の理解とそのデザイン What Customer Value is and its design
顧客に提供すべき価値である Customer Value とはどの様なものか。どうしてそうした考え方が必要になってくるかを考える。
- 第9回：Customer Satisfaction とサービス Customer Satisfaction and Service Management
顧客満足という考え方が重視される理由とその実現についてマーケティングが果たす役割を考える。
- 第10回：顧客の支持を得るために考えられていること（見えないものを扱うために） How to acquire Customers supports
顧客の支持を得ていくことの重要性が極めて大きくなっている。その理由や実際の取組について学ぶ。
- 第11回：マーケティング・ミックス（短期的要因） Marketing Mix (short-term factors)
マーケティングの実践において重要になる短期的要因について学ぶ。
- 第12回：マーケティング・ミックス（長期的要因） Marketing Mix (long-term factors)
マーケティングの基盤となる長期的要因について理解していく。
- 第13回：サービスの時代とサービスのマーケティング Service Marketing
サービス中心の時代になり、マーケティングはどの様に変化しているのかを考えていく。
- 第14回：ソーシャルマーケティング Social Marketing
ソーシャルマーケティングとは何か。それが重視される社会の背景はどの様なものかを理解する。
- 第15回：まとめと振り返り今日の社会とマーケティングの変容 The future of Marketing
未来の市場とマーケティングについて考える。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義での貢献度（70%）と課題の内容（30%）で評価する。課題は毎講義時に課し、提出してもらう。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

講義時に必要に応じて紹介する

8. 関連 URL [URL] :

特になし

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習: 講義資料を読むほかに、新聞などから関心事をピックアップしてくる

復習: 講義を踏まえて課題に取り組み、疑問点を明らかにする

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識: 特になし マーケティングの学習歴も問わない

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

コーポレートファイナンス 1 / Corporate Finance 1

担当教員 [Instructor] : 嘉本 慎介 / SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 月曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN503J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本授業は、コーポレートファイナンスの基礎理論を紹介する。本授業では、コーポレートファイナンスにおける投資プロジェクトの意思決定、資金調達と資本構成、ペイアウト政策に関する基本的な考え方について説明する。

This course introduces basic theory of corporate finance. This course demonstrates basic concepts on corporate investment decisions, financing and capital structure, dividend policy in corporate finance.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

コーポレートファイナンスにおける投資プロジェクトの意思決定、資金調達と資本構成、ペイアウト政策に関する基本的な考え方を理解する。

Students understand about basic concepts on corporate investment decisions, financing and capital structure, payout policy in corporate finance.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回：お金の時間価値 / The Time Value of Money

異なる時点で発生するキャッシュフローの価値評価、将来価値と現在価値、複利の効果について説明する。

第3回：キャッシュフロー系列の現在価値 / Present Value of a Cash Flow Stream

キャッシュフロー系列の現在価値の評価、投資の意思決定ルール、永久債と年金について説明する。

第4回：投資の意思決定法 / Investment Decision Rules

NPV法、内部収益率法、回収期間法、収益性指数法などの異なる投資の意思決定ルールを説明する。

第5回：債券評価 / Valuing Bonds

債券の内容、債券価格と最終利回りの関係、スポット金利について説明する。

第6回：金利の期間構造 / The Term Structure of Interest Rates

フォワードレートと金利の期間構造に関する仮説について説明する。

第7回：株式評価 / Valuing Stocks

配当割引モデル、総還元モデル、割引フリーキャッシュフロー評価モデル、類似企業評価法について説明する。

第8回：リターンとリスク / Return and Risk

個別の株式の期待収益率とリスクの評価、株式の収益率の相関、株式のポートフォリオの期待収益率とリスクの評価について説明する。

第9回：ポートフォリオ選択 / Portfolio Choice

安全資産と株式のポートフォリオの期待収益率とリスクの計算と効率的ポートフォリオについて説明する。

第10回：資本資産評価モデル / The Capital Asset Pricing Model

資本資産評価モデルにおいて、証券の期待収益率がどのように決定されるかを説明する。

第11回：資本コストの推定 / Estimating the Cost of Capital

資本資産評価モデルを応用して、投資プロジェクトの正味現在価値を算出する際に必要となる資本コストを推定する方法について説明する。

第12回：市場の効率性 / Market Efficiency

効率的市場仮説と企業財務の意思決定に効率的市場がもつ意味について説明する。

第13回：資本構成 / Capital Structure

完全市場における企業の資本構成と企業価値の関係と負債の税控除が資本構成と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第14回：ペイアウト政策 / Payout Policy

完全市場におけるペイアウト政策と企業価値の関係について説明する。

第15回：理解度確認セッション / Examination

これまでの講義内容の理解を確認するために課題テストを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッションで実施する課題テストによって評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

コーポレートファイナンス (入 門編) 第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066102	参考書
コーポレートファイナンス (応 用編) 第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066110	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

「教科書および参考書」に記載した図書を読み、章末問題に取り組むことを推奨する。

10. その他 [In addition] :

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

コーポレートファイナンス 2 / Corporate Finance 2

担当教員 [Instructor] : 嘉本 慎介 / SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN603J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本授業では、コーポレートファイナンス1の学習内容をもとに、企業財務の意思決定に関する発展的な話題を解説する。

In this course, the instructor explains advanced themes regarding corporate financial decisions on the basis of learning contents of corporate finance 1.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

資本構成、リスク管理、リアルオプション、合併・買収に関するコーポレートファイナンスの発展的な内容を理解する。

Students understand about advanced topics such as capital structure, risk management, real options and mergers and acquisitions in corporate finance.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回：資本構成と財務破綻 / Capital structure and financial distress

負債の保有がもたらす財務破綻の危機費用が資本構成の意思決定と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第3回：企業のエージェンシー問題（1） / Agency problems of corporations (1)

負債の保有がもたらす企業のエージェンシー問題が資本構成の意思決定と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第4回：企業のエージェンシー問題（2） / Agency problems of corporations (2)

所有と経営の分離がもたらす企業のエージェンシー問題が資本構成の意思決定と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第5回：情報の非対称性と企業の意思決定 / Asymmetric information and corporate financial decisions

企業と外部投資家の間に存在する情報の非対称性が企業財務の意思決定に及ぼす影響について説明する。

第6回：先渡契約 / Forward contracts

金融派生証券のひとつである先渡契約の内容と先渡契約を用いた為替リスクの管理について説明する。

第7回：先物契約 / Futures contracts

金融派生証券のひとつである先物契約の内容と機能について説明する。

第8回：金利リスク / Interest rate risk

金利リスクと債券のデュレーションについて説明する。

第9回：金融オプション / Financial options

金融派生証券のひとつであるオプションの契約内容と機能について説明する。

第10回：オプションの評価 / Valuation of Options

金融派生証券のひとつであるオプションの評価理論について説明する。

第11回：オプションの評価とリスク管理 / Valuation of Options and risk management

ブラック・ショールズのオプション価格評価モデルと通貨オプションを用いた企業のリスク管理について説明する。

第12回：リアルオプション（1） / Real options

オプションの考え方を応用した不確実性下における企業投資の価値評価と意思決定について説明する。

第13回：リアルオプション（2） / Real options

オプションの考え方を応用した不確実性下における企業投資の価値評価と意思決定について説明する。

第14回：企業の合併と買収 / Mergers and Acquisitions

企業の合併と買収に関する価値評価について説明する。

第15回：理解度確認セッション / Examination

これまでの講義内容の理解を確認するために課題テストを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッションで実施する課題テストによって評価する（100%）。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

コーポレートファイナンス（入 門編）第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066102	参考書
コーポレートファイナンス（応 用編）第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066110	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

「教科書および参考書」に記載した図書を読み、章末問題に取り組むことを推奨する。

10. その他 [In addition] :

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

企業情報システム/Enterprise Information System

担当教員 [Instructor]: 工藤 周平/SYUHEI KUDO

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 金曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM501J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、企業経営の視点から企業情報システムの戦略的価値を正しく理解できる能力を養成することを目的とする。講義では、戦略経営論における企業情報システムの沿革、経営システムに及ぼす企業情報システムの影響、最新の企業情報システムの現状と将来の展望について学習する。

The main objective of this course is to improve the ability to understand strategic value of enterprise information system correctly in terms of strategic management. The students in this course will understand the history of enterprise information system, the relationship between strategic management and the latest ICT, and its future prospects.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

企業経営における情報システムの役割とその重要性を理解し、最新の企業情報システムの現状と課題を把握することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

講義全体のフレームワーク, 進め方, 成績評価方法, 学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回: 企業活動と情報システム/Business System and Information System

情報化社会における企業経営, 企業の構造・活動と情報システムについて講義する。

第3回: 企業情報システム発展史/The History of Enterprise Information System

企業情報システムの発展経緯と最新動向について講義する。

第4回: 戦略的情報システム/Strategic Information System

情報システムが業界構造に及ぼす影響と戦略的情報システムの代表的事例について講義する。

第5回: 競争戦略と情報システム/Competitive Strategy and Information System

情報システムが価値連鎖や基本戦略に及ぼす影響について講義する。

第6回: ビジネスプロセスと情報システム/Business Process and Information System

ICT利活用によるプロセスイノベーションについて講義する。

第7回: サプライチェーンマネジメント(SCM)/Supply Chain Management

生産システムの発展, SCM戦略と生産・流通システムの類型化について講義する。

第8回: 統合基幹業務システム(ERP)/Enterprise Resource Planning

ERPアプリケーション・パッケージの導入方法について講義する。

第9回: 情報システム投資の効果/Effectiveness of ICT Investment

伝統的なICT投資評価法と限界, ポートフォリオとしての評価方法について講義する。

第10回: 情報システム投資と競争優位/Information System and Competitive Advantage

ICTカテゴリー, 企業間競争におけるICT投資の影響について講義する。

第11回: 事業とICTの整合/Business-ICT Alignment

整合の概念, 整合プロセス, 整合評価システムについて講義する。

第12回: クラウド・コンピューティング/Cloud Computing

クラウド・コンピューティング時代の情報システムの運営と管理について講義する。

第13回: 企業経営と人工知能(AI)/Business Management and AI

AIの仕組みとビジネスへの応用方法について講義する。

第14回: 企業経営とIoT/Business Management and IoT

IoTの仕組みとビッグデータのための情報システムについて講義する。

第15回: まとめ/Review

これまでの講義の総括を行うとともに, 企業情報システムの戦略的価値について討論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

課題レポート (50%) および講義でのプレゼンテーション (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

経営情報システム [第4版]	宮川公男・上田泰 (編著)	中央経済社	2014	978-	教科書
				4502091704	

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習: 毎回、講義資料の要旨と各自のコメントをまとめた課題レポートを提出することを課す。課題レポートの内容については各講義終了直前に指示する。

復習: 講義を受けて、企業情報システムに対する新しい気づきをまとめ、新たな疑問点について調査する

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：特に必要なし。

講義を受講する際注意すべき点：

世界的に評価の高いビジネス誌である『ハーバード・ビジネス・レビュー (HBR: Harvard Business Review)』誌に掲載された論文を中心に、企業情報システムに関する著名な論文を講義資料として用いる。講義では、課題レポートを毎回提出することを課す。課題レポートの書式および記載内容については本講義第1回に説明する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

情報システム設計/Information System Design

担当教員 [Instructor]: 樋地 正浩/MASAHIRO HIJI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 火曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM502J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、最初に情報技術の基本的用語や概念と情報システム産業の特徴を学び、組織活動の中で重要な位置を占める情報システムを理解するために必要な基礎知識を学ぶ。ついで、情報システムを構築するための全体的な工程の流れと各工程の中で用いられる手法、各工程で作成される設計書や仕様書といった文書の必要性と記述されるべき内容を学習する。

The lecture will lecture on the basic knowledge of information technology, the relationship between organizational activities and information systems, the overall process flow for developing an information system, the documents to be created in each process and the contents of these documents, and project management. In addition, the lecture will explain the characteristics of the information industry.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

情報システムや情報技術に関する書籍や資料の中で出てくる情報技術に関連した用語や概念を理解した上でこれらの書籍や資料の内容を正確に理解できる。

組織が構築、利用している情報システムの妥当性や適切な構築が行われたかを評価できる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

講義の全体概要と情報システム設計を学ぶ必要性、情報システムを構築していく全体の流れを説明する。

第2回: 情報技術の基礎 (1) /Foundation of Information Technology (1)

情報システムを理解する上で必要となる情報システムとソフトウェア、ハードウェアを説明する。

第3回: 情報技術の基礎 (2) /Foundation of Information Technology (2)

情報システムを理解する上で必要となる処理形態、構成形態、ネットワーク、セキュリティを説明する。

第4回: 情報産業とその特徴/Information Industry and its Characteristic

多種多様な企業からなる情報システム産業の特徴と事業構造、情報システムの投資傾向を概説する。

第5回: 企業活動と情報システム/Business Activity and Information system

情報システムを構築する目的や期待する効果、位置付けがどのように変化してきたのかを説明する。

第6回: 情報システムの導入形態と開発プロセス/Development Process of Information System

情報システムを導入する手法とシステム開発のさまざまな進め方について講義する。

第7回: 情報システム構築の契約/Contract related to Information System Development

情報システムの構築で外部組織と交わされるさまざまな契約の内容と目的を説明する。

第8回: 理解度確認セッション1/Examination I

第1回から第7回までの内容をどの程度理解し、身に付けているかを確認するための筆答考査を実施する。

第9回: プロジェクト管理/Project Management

情報システムの構築を円滑に進めるために重要なプロジェクト管理とは何かを講義する。

第10回: 情報化計画と投資対効果/Planning and Return On Investment for Informatization

情報システム構築に不可欠な情報化戦略と情報化計画、投資対効果の算出方法について概説する。

第11回: 要件定義と設計・開発 (1) /Requirement Definition, Design and Programming (1)

情報システム構築の最初の段階である要件定義と方式設計で何をを行い、何を作成するかを講義する。

第12回: 要件定義と設計・開発 (2) /Requirement Definition, Design and Programming (2)

情報システム構築の中のソフトウェア方式設計、詳細設計、プログラミングで何をするかを講義する。

第13回: テスト工程/Test Process

情報システム構築の最後になるテスト工程では何を行うか、どのように品質を見極めるかを講義する。

第14回: 運用と保守/Operation and Maintenance

構築した情報システムを日々安心して利用していく上で必要な運用と保守で何をするかを講義する。

第15回: 理解度確認セッション2/Examination II

第9回から第14回までの内容をどの程度理解し、身に付けているかを確認するための筆答考査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

理解度確認セッション1 (50%) と理解度確認セッション2 (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

いちばんやさしい IT パスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集	高橋京介	SBクリエイティブ	2023	978-4815624255	参考書
経営者が参画する要求品質の確保	独立行政法人 情報処理推進機構	オーム社	2006	4-274-50076-4	参考書
	ソフトウェア・エンジニアリング・センター				

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

講義の最後に次回の学習内容を述べるので、それに従い講義資料を事前に熟読し、その中で不明点があればその不明点を明確にしておくこと。

復習:

講義の中で簡単な問題，課題を示すので，復習の中でそれらの問題，課題の回答を各自考えること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

特になし

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

戦略情報システム導入／Introduce Strategic Information System

担当教員 [Instructor] : 樋地 正浩 / MASAHIRO HIJI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM602J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、新たに登場してきているクラウド・ソーシング、クラウド・ファンディング、FinTech、といった最新の情報通信技術を活かしたサービスが社会に与える影響を学ぶ。さらにクラウド・コンピューティング、IoT (Internet of Things)、ビッグデータとオープンデータといったデータが持つ価値を高める考え方やそれらのデータから価値を生み出す人工知能技術とは何かを学習する。

The lecture will lecture overview, the features, benefits, and problems of cutting-edge information technology. The lecture focuses the cloud computing, FinTech, crowdfunding, crowdsourcing, the Internet of Things, artificial intelligence, and big data/open data.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

新しい情報通信技術やデータの価値が社会にどのような影響を与えるのかを正しく理解したうえで導入の可否を判断できる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

講義で取り上げる最先端の情報通信技術の間の関係性、情報通信技術と社会との間の関係性を講義する。

第2回：クラウド・コンピューティング (1) / Cloud computing (1)

クラウド・コンピューティングの特徴、利点と懸念される点、利用する際の注意点を概説する。

第3回：クラウド・コンピューティング (2) / Cloud computing (2)

クラウド・コンピューティングの懸念事項とクラウド事業者のコスト構造や事業モデルを概説する。

第4回：クラウド・コンピューティングの課題 / Problems of cloud computing

実際に発生したデータの消失や流出、盗難の例を元にクラウド・コンピューティングのリスクを概説する。

第5回：クラウド・ファンディングとクラウド・ソーシング / Crowd funding and crowd sourcing

クラウド・ファンディングとクラウド・ソーシングの概要と特徴、懸念事項を講義する。

第6回：クラウド・コンピューティングの戦略的利用 / Discussion on the strategic use of cloud computing

与えられた検討事例に対し、ここまで学んできたさまざまな観点から考察を加え、議論する。

第7回：FinTech (Financial Technology) とは何か / FinTech (Financial Technology)

FinTechや電子通貨・暗号通貨の概要とそれが金融業界、社会全体に与える影響を概説する。

第8回：IoT (Internet of Things) とは何か / IoT (Internet of Things)

IoTの概要と社会に与える影響、“もの”がネットワークにつながる価値を実例を交え、概説する。

第9回：ビッグデータとは何か / Big data

ビッグデータの概要とそれが持つ価値、データの持つ価値が企業活動に与える影響を概説する。

第10回：オープンデータとは何か / Open data

オープンデータの概要と利用方法、省庁や自治体の取り組み状況、オープンデータ化の課題を概説する。

第11回：パーソナル情報と技術・制度 / Technologies and systems related to personal information

パーソナル情報を安全に管理、利用するための技術の概要と課題、法制度の状況について講義する。

第12回：データ社会とデータ流通 / Data driven society and data exchange

データの持つ価値を社会全体で享受するために不可欠な情報流通の現状と今後の展望を概説する。

第13回：人工知能と何か (1) / Artificial intelligence technologies (1)

人工知能の概要と技術水準、各技術が持つ長所と短所、利用分野について説明する。

第14回：人工知能と何か (2) / Artificial intelligence technologies (2)

最新の人工知能技術である深層学習の特徴、応用例と応用時の課題、将来起こり得る課題について講義する。

第15回：先端情報通信技術の利用 / Discussion on the use of advanced information technologies

与えられた検討事例に対し、収集したデータをサービスや事業に利用する方法と懸念事項を議論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

第6回と第15回で提示した検討事例について調査・検討した発表内容 (80%)、及び議論への参加度 (20%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

あの夏、サバ缶はなぜ売れたのか?	大木真吾	日経 BP	2014	978-4822277925	参考書
データ活用仮説量産ワーク DIVA	フレーム 鈴木良介	日経 BP	2015	978-4822279394	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

講義の最後に次回の学習内容を述べるので、それに従い講義資料を事前に熟読し、その中で不明点があればその不明点を明確にしておくこと。

復習:

講義の中で簡単な問題、課題を示すので、復習の中でそれらの問題、課題の回答を各自考えること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

授業科目「情報システム設計」もしくは「事例研究 (情報システム設計)」のどちらかを履修済みか、同等の知識を持っていることが望ましい。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (情報システム設計) / Case Study (Information System Design)

担当教員 [Instructor]: 樋地 正浩/MASAHIRO HIJI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM603J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

情報システム構築に関わる先進的な取り組みを行なっている事例や情報システムの構築に失敗した事例について各自が調査、検討、議論することにより、情報システム設計の講義で学んだ内容が実際の情報システム構築でどのように使用されているかを知り、情報システム設計の知識と現実の情報システム構築の関係を習得する。

In this course, each student investigates, examines, and discusses the case studies of advanced efforts to construct information systems and the case studies of failed attempts to construct information systems. Through these activities, students will learn how the contents learned in the lecture on information system design are used in the actual development of information systems, and learn the relationship between the knowledge of information system design and the actual development of information systems.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

情報システム設計で得た知識を実際の情報システム構築に応用できる。

情報システムを構築する工程のどこでどのような間違いを犯したことにより失敗したか、そのような失敗を回避するためにどのようにすべきか、を習得し、情報システムの構築を成功に導くことができる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

講義の進め方と事例の調査・検討に必要な典型的な失敗要因とそれを回避するための注意点を説明する。

第2回: システム開発における失敗事例と対処法/Examples of Failures in Information System Development

実際の情報システム構築の失敗事例から失敗した場合の影響の大きさ、失敗の原因は何かについて議論する。

第3回: 業務課題の抽出に関する事例/Case Study on Identifying Business Issues

業務上の課題の分析、抽出を行ない、情報システムで解決する範囲を決定する必要性について議論する。

第4回: 情報システム発注に関する事例/Case Study on Information System Ordering

問題のある発注形態の事例から発生原因とその理由、対応上の問題を考察し、議論する。

第5回: 納期遅延と品質上の問題に関する事例/Case Study on Delivery Delays and Quality Problems

納期の遅延や品質上の問題が発生した事例からどこにどのような問題があったか、どうすべきかを議論する。

第6回: プロジェクト管理に関する事例/Case Study on Project Management

プロジェクト管理に失敗した事例と成功した事例の各要因を考察し、プロジェクト管理の要点を議論する。

第7回: パッケージソフトウェアの導入事例/Case Study on Implementing Package Software

パッケージソフトウェアの選定方法とカスタマイズを行う場合の注意点について議論する。

第8回: リスクを抱えた情報システム構築の事例 (1) /Case Study of Development with Project Risks (1)

情報システム構築にはどのようなリスクがあり、それをどのように解決すべきかを検討し、議論する。

第9回: リスクを抱えた情報システム構築の事例 (2) /Case Study of Development with Project Risks (2)

リスクを抱えた情報システム構築プロジェクトを推進する際の注意点について議論する。

第10回: クラウド・コンピューティングへの移行の事例/Case Study of Migrating to Cloud Computing

クラウド・コンピューティングへの移行を成功させるためにはどのように進めるべきかを議論する。

第11回: 要件定義に関する事例/Case Study on Requirement Definition

組織文化や要件の確定と契約の関係等の要件定義を上手に進める要因は何かについて議論する。

第12回: 情報システムの構築プロセスに関する事例/Case Study on Information System Development Process

情報システムの構築は、顧客企業とシステム開発企業が協力して進める必要性と重要性について議論する。

第13回: 情報システムの非機能要件に関する事例/Case Study on Non-functional Requirements

情報システムの非機能要件の検討が不十分な場合に発生する問題の大きさを議論する。

第14回: データ統合に起因する問題が発生した事例/Example of Problems Caused by Data Integration

データ統合に起因する問題の発生原因と事前の回避策について検討し、議論する。

第15回: 情報システムの機能設計の実例/Example to Experience Information System Development Process

情報システムとして実現すべき機能の選定をどのように進めるかを議論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

提示した検討事例について調査・検討した発表内容 (70%), 及び議論への参加度 (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

なぜ、システム開発は必ずモメるのか?	細川義洋	日本実業出版社	2014	978-4534051158	参考書
IT 経営推進プロセスガイドライン Ver. 3.1	特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会	特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会	2018	978-4990904234	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

配布された事例と事前に示された調査, 議論の観点をふまえて自分自身で事例に関する調査, 検討を行ない, 発表資料にまとめること.

復習:

他の人の発表内容と自分自身の調査, 検討内容について復習し, 自分自身に欠けている知識, 課題発見能力を補っていくこと.

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

授業科目「情報システム設計」を履修済か, 同等の知識を持っていることが望ましい.

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

統計学/Statistics

担当教員 [Instructor] : 千木良 弘朗/HIROAKI CHIGIRA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM503J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

経済や経営の分野では、データを用いて経済の状況や経営の実情を的確に捉えることが重要である。そのためにはデータを適切に分析するための手法が必要となり、様々なデータ分析手法が考えられている。この講義では、それらデータ分析手法を理解し使いこなすための基礎となる統計学の理論を学ぶ。

In this course, students will understand basic ideas of statistics and learn about basic methodologies of statistics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

- ・基礎的な統計学の理論を理解する。
- ・データを適切に分析するために、統計学がどのようなアプローチをとるのか理解する。
- ・基礎的なデータ分析ができるようになる。なお、回帰分析については扱わないので、会計大学院の講義で回帰分析を学びたい学生は「計量経済分析1」や「計量経済分析2」を履修すること。

Students will develop basic ideas and methodologies of statistics.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義はオンライン(オンデマンド)で行う。本来の授業日(月曜日の1講時)までにGoogle classroom(クラスコード g35jstc)に講義資料と講義動画をアップロードするので、それを視聴すること。

- 第1回: ガイダンス/guidance
ガイダンスを実施する
- 第2回: データの整理と特性値.1 (度数分布表とヒストグラム)、データの整理と特性値.2 (中心の特性値) /Frequency distribution tables and histograms
データの整理と特性値について概説する
- 第3回: データの整理と特性値.3 (ばらつきの特性値) /Characteristic value of variability
ばらつきの特性値について概説する
- 第4回: データの整理と特性値.4 (関係性の特性値) /Characteristic value of relationship
関係性の特性値について概説する
- 第5回: 確率論の基礎.1 (確率・確率変数・確率分布) /Probability, Random variables, probability distributions
確率・確率変数・確率分布について概説する
- 第6回: 確率論の基礎.2 (確率変数の特性値) /Characteristic values of random variables
確率変数の特性値について概説する
- 第7回: 確率論の基礎.3 (多次元の確率・確率変数・確率分布) /Multidimensional probability, random variables, and probability distributions
多次元の確率・確率変数・確率分布について概説する
- 第8回: 確率論の基礎.4 (多次元確率変数の特性値) /Characteristic values of multidimensional random variables
多次元確率変数の特性値について概説する
- 第9回: 確率論の基礎.5 (代表的な母集団分布(離散))、確率論の基礎.6 (代表的な母集団分布(連続)) /Representative population distribution
代表的な母集団分布(離散)について概説する
- 第10回: 母集団分布と標本分布.1 (母集団、標本抽出、データ) /Population, sampling, data
母集団、標本抽出、データと標本分布について概説する
- 第11回: 母集団分布と標本分布.2 (統計量とその分布) /Statistics and their distribution
統計量とその分布と標本分布について概説する
- 第12回: 確率モデルと推定.1 (統計量とその分布) /Statistics and their distribution
統計量とその分布について概説する
- 第13回: 確率モデルと推定.2 (単純確率モデルの区間推定) /Interval estimation of simple stochastic models
単純確率モデルの区間推定について概説する
- 第14回: 検定.1 (単純確率モデルの検定) /Tests for simple probability models
単純確率モデルの検定について概説する
- 第15回: 検定.2 (比率の検定) /Ratio Tests
比率の検定について概説する
- *進捗状況に応じて、多少の変更をすることもある。

This is a lecture-centered course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

期末レポート90%と、毎回の講義動画に関する小レポート10%で成績評価する(理解度確認セッション、宿題、出席点は無い)。期末レポートと小レポートの詳細は第1回目の講義で説明する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

統計学 (第2版)	田中 勝人	新世社	2011	9784883841547	参考書
穴埋め式 統計数理らくらくワークブック	黒住 英司 (著), 藤田 岳彦 (監修)	講談社	2003	9784061539952	参考書
基本統計学 (第4版)	宮川 公男	有斐閣	2015	9784641164550	参考書
入門・演習 数理統計	野田 一雄, 宮岡 悦良	共立出版	1990	9784320014350	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

この講義は一回ごとに独立した内容を扱うのではなく、基本的に前の講義内容を後の講義で使うことになる。よって、講義内容はよく復習してもらいたい。その復習が、次の講義の予習にもなる。

10. その他 [In addition] :

数学の基礎的な知識 (高校レベル~大学の教養レベル) を持っていることが望ましい。講義資料の掲示や連絡事項等は google classroom (クラスコード g35jstc) で行う。E-mail: hiroaki.chigira.a5@tohoku.ac.jp

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

計量経済分析1 / Econometric Analysis 1

担当教員 [Instructor] : 千木良 弘朗 / HIROAKI CHIGIRA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 火曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM504J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

計量経済学の主な目的は、経済データを使って現実の経済がどのような状況にあるのかを探ることである。そのためには経済データを適切に分析するための手法が必要となるが、ここではその手法(計量手法)を講義する。一口に計量手法と言っても様々なものが存在するが、この講義は最も基礎的なものを扱う。また、実際の経済・金融・会計データを用いた実証分析の例も紹介する。

Lectures on basic econometric methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

- ・基礎的な計量経済学の理論を理解する。
- ・基礎的な計量手法を実際に使えるようになる。

Students will develop basic ideas and methodologies of econometrics.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義はオンライン(オンデマンド)で行う。本来の授業日(火曜日の1講時)までに google classroom(クラスコード r66mkoi)に講義資料と講義動画をアップロードするので、それを視聴すること。

- 第1回: ガイダンス / Guidance
ガイダンスを実施する
- 第2回: 統計学の復習.1 (1変数の確率変数と特性値) / Review of Statistics
統計学の復習を実施する
- 第3回: 統計学の復習.2 (多変数の確率変数と特性値) / Review of Statistics
統計学の復習を実施する
- 第4回: 単純回帰モデル.1 (モデルの導出) / Simple regression models
単純回帰モデルについて概説する
- 第5回: 単純回帰モデル.2 (回帰係数の推定) / Simple regression models
単純回帰モデルについて概説する
- 第6回: 単純回帰モデル.3 (回帰係数の検定) / Simple regression models
単純回帰モデルについて概説する
- 第7回: 多重回帰モデル.1 (多重回帰モデルのモチベーション) / Multiple Regression Models
多重回帰モデルについて概説する
- 第8回: 多重回帰モデル.2 (回帰係数の推定) / Multiple Regression Models
多重回帰モデルについて概説する
- 第9回: 多重回帰モデル.3 (回帰係数の検定) / Multiple Regression Models
多重回帰モデルについて概説する
- 第10回: 回帰モデルの関数型と特殊な説明変数(非線形モデルやダミー変数等) / Functional types and special explanatory variables in regression models
回帰モデルの関数型と特殊な説明変数について概説する
- 第11回: 構造変化の検定 (Chow 検定等) / Chow test
構造変化の検定について概説する
- 第12回: 回帰モデルの誤差項の不均一分散.1 (不均一分散が引き起こす問題の理論的な解説) / Heterogeneous dispersion
回帰モデルの誤差項の不均一分散について概説する
- 第13回: 回帰モデルの誤差項の不均一分散.2 (簡単な実験と実証分析) / Heterogeneous dispersion
回帰モデルの誤差項の不均一分散について概説する
- 第14回: 実証分析例.1 (株価の変動要因に関する実証分析) / Examples of Empirical Analysis1
実証分析の適用例を検討する
- 第15回: 実証分析例.2 (会計制度と株価の関連性に関する実証分析) / Examples of Empirical Analysis2
実証分析の適用例を検討する

*進捗状況に応じて、多少の変更をすることもある。

This is a lecture-centered course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

期末レポート 90%と、毎回の講義動画に関する小レポート 10%で成績評価する(理解度確認セッション、宿題、出席点は無い)。期末レポートと小レポートの詳細は第1回目の講義で説明する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

計量経済学 (第2版)	山本 拓	新世社	2022	978-	参考書
			年	4883843435	
計量経済学 (第2版)	浅野 哲, 中村 二郎	有斐閣	2009	978-	参考書

8. 関連 URL [URL] :**9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :**

この講義は一回ごとに独立した内容を扱うのではなく、基本的に前の講義内容を後の講義で使うことになる。よって、講義内容はよく復習してもらいたい。その復習が、次の講義の予習にもなる。

10. その他 [In addition] :

統計学の基礎的な知識（会計大学院の講義「統計学」に相当）を持っていることを前提として講義を進める。講義資料の掲示や連絡事項等は google classroom (クラスコード r66mkoi) で行う。E-mail: h i r o a k i . c h i g i r a . a 5 @ t o h o k u . a c . j p

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

計量経済分析2 / Econometric Analysis 2

担当教員 [Instructor] : 千木良 弘朗 / HIROAKI CHIGIRA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM606J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

計量経済学の主な目的は、経済データを使って現実の経済がどのような状況にあるのかを探ることである。そのためには経済データを適切に分析するための手法が必要となるが、ここではその手法(計量手法)を講義する。一口に計量手法と言っても様々なものが存在するが、この講義ではやや発展的なものを扱う。講義の流れとしては、基礎的な計量手法を用いる際にどのような問題が発生するかを示し、それを解決するために発展的な手法を導入するという形になるので、基礎的な計量手法の知識は前提とする。

Lectures on intermediate econometric methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

- ・発展的な計量手法の理論的背景を理解する。
- ・発展的な計量手法を実際に使えるようになる。

Students will develop intermediate ideas and methodologies of econometrics.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義はオンライン(オンデマンド)で行う。本来の授業日(火曜日の1講時)までに Google classroom(クラスコード 7usqxme) に講義資料と講義動画をアップロードするので、それを視聴すること。

- 第1回: オリエンテーション / Orientation
オリエンテーションを行う
- 第2回: 回帰分析の復習(クロスセクションデータでの回帰分析) / Review of Regression Analysis
回帰分析の復習を行う
- 第3回: 時系列データを使った回帰分析(時系列データで回帰分析をする際の注意点) / Regression analysis using time series data
時系列データで回帰分析をする際の注意点について概説する
- 第4回: 時系列モデル.1(時系列データを記述するためのアイデア) / Time-series model.1
時系列データを記述するためのアイデアについて概説する
- 第5回: 時系列モデル.2(具体的なモデルの紹介) / Time-series model.2
時系列モデルに係る具体的なモデルの紹介を紹介する
- 第6回: 分布ラグモデル.1(モデルのモチベーション) / Distributed lag models.1
分布ラグモデルについて概説する
- 第7回: 分布ラグモデル.2(具体的なモデルの紹介) / Distributed lag models.2
分布ラグモデルについて概説する
- 第8回: 誤差項の系列相関.1(系列相関が引き起こす問題の解説) / Sequential Correlation of Error Term.1
誤差項の系列相関の問題について解説する
- 第9回: 誤差項の系列相関.2(問題の解決法の解説) / Sequential Correlation of Error Term.2
系列相関問題の解決法について解説する
- 第10回: 誤差項の系列相関.3(問題の解決法の解説(続き)) / Sequential Correlation of Error Term.3
系列相関問題の解決法について解説する
- 第11回: 説明変数と誤差項の相関.1(相関が引き起こす問題の解説) / Correlation between explanatory variables and error terms.1
説明変数と誤差項の相関の問題について解説する
- 第12回: 説明変数と誤差項の相関.2(問題の解決法の解説) / Correlation between explanatory variables and error terms.2
説明変数と誤差項の相関の問題について解説する
- 第13回: 同時方程式モデル.1(モデルのモチベーション) / Simultaneous equations model.1
同時方程式モデルについて解説する
- 第14回: 同時方程式モデル.2(モデルの推定) / Simultaneous equations model.2
同時方程式モデルについて解説する
- 第15回: 同時方程式モデル.3(モデルを使ったシミュレーション) / Simultaneous equations model.3
同時方程式モデルについて解説する

*進捗状況に応じて、多少の変更をすることもある。

This is a lecture-centered course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

期末レポート 90%と、毎回の講義動画に関する小レポート 10%で成績評価する(理解度確認セッション、宿題、出席点は無い)。期末レポートと小レポートの詳細は第1回目の講義で説明する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

計量経済学 (第2版)	山本 拓	新世社	2022年	978-4883843435	参考書
計量経済学 (第2版)	浅野 哲, 中村 二郎	有斐閣	2009年	978-4641163362	参考書
計量経済学	末石 直也	日本評論社	2015年	978-4535558168	参考書
Econometric Analysis, 5th ed.	Greene, W.H.	Prentice-Hall	2002年	978-0131108493	参考書
Introductory Econometrics: A Modern Approach, 4th ed.	Wooldridge, J.	South-Western	2008年	978-0324660548	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

この講義は一回ごとに独立した内容を扱うのではなく、基本的に前の講義内容を後の講義で使うことになる。よって、講義内容はよく復習してもらいたい。その復習が、次の講義の予習にもなる。

10. その他 [In addition] :

計量経済学の基礎的な知識（会計大学院の講義「計量経済分析1」に相当）を持っていることを前提として講義を進める。講義資料の掲示や連絡事項等は Google classroom (クラスコード 7usqxme) で行う。E-mail: hiroaki.chigiraa5@tohoku.ac.jp

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

金融行政 I / Financial Administration I

担当教員 [Instructor] : 大西 敢二郎 / KANJIRO ONISHI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、企業や国などが、株式・公社債等を発行して、必要な資金を証券市場を通じ直接貸し手から調達する直接金融についての理解を深め、当該市場や市場参加者を規制・監督する金融庁等の役割についての知識を習得することを目的とする。特に、欧米に比して利益率が低いとされる家計の金融資産運用の課題や展望について考察していきたい。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of direct finance, in which companies and countries issue corporate bonds, stocks, and public bonds to raise necessary funds directly from lenders through securities markets, and to acquire knowledge of the roles of the Financial Services Agency and others that regulate and supervise such markets and market participants.

In particular, we would like to examine the challenges and prospects for households' financial asset management, which is less profitable than in the U.S. and Europe.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

①官公庁、金融機関、公認会計士等での実務において必要される知識・技能の習得

②金融機関や官公庁を効果的に活用するための商品・サービスや関連する制度等に関する知識の習得

③本大学院生が研究活動等を行う上で必要な知識等の習得

(1) Acquisition of knowledge and skills required in the practice of government and municipal offices, financial institutions, certified public accountants, etc.

(2) Acquire knowledge of products, services, and related systems to effectively utilize financial institutions and public offices

(3) Acquisition of knowledge necessary for graduate students to conduct research activities, etc.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション/Orientation

コースの目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回：証券市場と国民経済/The Securities Market and the National Economy

金融商品取引法の基本構造のほか、企業の資金調達方法としての証券市場の役割等について講義する。

第3回：株式市場/The Stock Market

株式の発行市場や流通市場の現状や課題について講義する。

第4回：公社債市場/The Bond Market

国債、地方債、民間債の発行市場や流通市場の現状や課題について講義する。

第5回：投資信託、資産運用業/Investment Trusts and Asset Management Service

投資信託の運用、販売等について概説するほか、投資運用業の役割や課題について講義する。

第6回：デリバティブ市場、証券化商品市場/ The Derivatives Market and The Securitized Products Market

デリバティブ取引や先物取引の役割や活用方法のほか、証券化商品の仕組み等について講義する。

第7回：金融商品取引所等/ Financial Instruments Exchange, etc.

金融商品取引所の機能のほか、新たな市場区分への変更等について講義する。

第8回：金融商品取引業/ Financial Instruments Business

金融商品取引業者の種別や、業務範囲等について概説するほか、投資者保護のための制度について講義する。

第9回：証券税制/ Securities Taxation

証券取引に関する税制について概説するほか、NISA等の優遇税制について講義する。

第10回：証券取引の行為規制/ Prohibited and Regulated Acts of Securities Trading

インサイダー取引等の証券取引における不正行為を禁止する規制について講義する。

第11回：金融商品取引法による企業内容等の開示/ The System of Disclosing Corporate Information under the Financial Instruments and Exchange Act

金融商品取引法による企業内容等の開示の意義や役割等について講義する。

第12回：金融商品取引法による企業支配に関する開示/Disclosure of Corporate Control by the Financial Instruments and Exchange Act

公開買い付け (TOB) や大量保有報告等の開示の意義や役割について講義する。

第13回：ゲストスピーカーによる講演 (金融機関関係者: 「金融機関の戦略的投資活動 (ベンチャーキャピタル/ベンチャー投資など) (仮))、中止の場合は、金融行政方針/Guest speaker, "strategic investment activities of financial institution, including venture capital investments, etc.", In case the guest speaker session will be canceled, instructor speaks on "priority measures of financial administration"

第14回：証券取引等監視委員会/Securities and Exchange Surveillance Commission

証券取引等監視委員会の行政組織の概要や証券モニタリング基本方針について講義する。

第15回：まとめ / Review

これまでの講義をふりかえるとともに、家計の金融資産運用のあり方等について考察する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点 (課題提出等) 60%、レポート 40%で評価する。

・AA (90点以上)、A (80点以上 90点未満)、B (70点以上 80点未満)、C (60点以上 70点未満)、D (60点未満; 不合格)

60%: assignment of each section etc, 40%: final report

AA:over 90 points, A:between 80-89 points, B:between 70-79 points, C:between 60-69 points, D:below 5

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

図説日本の証券市場 2022 年版	日本証券経済研究所	日本証券経済研究所	2022	978-4890325429	参考資料
基礎から学べる金融商品取引法 [第4版]	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂	2018	978-433535749	参考資料
金融商品取引法入門<第8版>	黒沼悦郎	日本経済新聞出版社	2021	978-4532114466	参考資料

8. 関連 URL [URL] :

上記参考書 No.1 参考書は、日本証券研究所のウェブサイトで全文公開されている。
https://www.jsri.or.jp/publish/market/pdf/market_33/33_all.pdf
金融庁ホームページ <https://www.fsa.go.jp/index.html>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・授業で紹介されたり、興味をもった分野の論文・書籍を読むこと。
- ・授業で課されたレポートや宿題は必ず提出すること。
- ・google classroom を使用予定であり、資料や課題はそこに掲載する。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them be

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：知的好奇心の旺盛な方の参加を歓迎する。
- ・講義は担当教官の講義スライドを使って行われるが、参考書は内容の理解に有用である。
- ・オフィスアワーを設定する予定である。詳細は授業初回に連絡する。
- ・対面授業であり、オンライン・オンデマンド配信は行わない。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

金融行政Ⅱ／Financial Administration II

担当教員 [Instructor] : 大西 敢二郎 / KANJIRO ONISHI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 月曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW601J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、資金を必要とする企業や国などが、銀行などの金融機関からの借り入れで調達する間接金融についての理解を深め、銀行を規制・監督する金融庁等の役割や、最近の金融行政の方向性についての知識を修得することを目的とする。特に、低金利や人口減少等の経営環境の変化に直面する銀行業の課題と今後の展望について考察していきたい。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of indirect finance, which is the borrowing of funds from banks and other financial institutions by companies and countries that need funds, and to acquire knowledge of the role of the Financial Services Agency, etc., which regulates and supervises banks, and the recent direction of financial administration. In particular, we would like to examine the challenges and future prospects for the banking industry as it faces low interest rates, a declining population, and other changes in its business environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

①官公庁、金融機関、公認会計士等の実務において必要される知識・技能の習得

②金融機関や官公庁を効果的に活用するための商品・サービスや関連する制度等に関する知識の習得

③本大学院生が研究活動等を行う上で必要な知識等の習得

(1) Acquisition of knowledge and skills required in the practice of government and municipal offices, financial institutions, certified public accountants, etc.

(2) Acquire knowledge of products, services, and related systems to effectively utilize financial institutions and public offices

(3) Acquisition of knowledge necessary for graduate students to conduct research activities, etc.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション / Orientation

講義の概要を説明する

第2回: わが国の金融構造と金融機関 / Japan's Financial Structure and Financial Institutions

わが国の金融構造と金融機関について概説する

第3回: 銀行の基本的機能及び固有業務その1 資金仲介機能・信用創造機能・決済機能と預金業務 / Basic functions and specific tasks of the bank part1. Financial intermediation function and credit-creating functions and funds settlement function and deposit business

銀行の基本的機能及び固有業務について概説する

第4回: 銀行の基本的機能及び固有業務その2 貸出業務と為替業務 / Basic functions and specific tasks of the bank part2 lending business and exchange business

銀行の基本的機能及び固有業務について概説する

第5回: 個人向けの銀行取引 / Banking for individuals

個人向けの銀行取引について概説する

第6回: 金融市場と金融政策 / Financial markets and monetary policy

金融市場と金融政策について概説する

第7回: 銀行の財務諸表・ディスクロージャー / Bank financial statements and disclosures

銀行の財務諸表・ディスクロージャーについて概説する

第8回: 銀行に対する規制 1. 自己資本比率規制等 / Regulations on banks 1. Regulatory capital Requirements, etc.

銀行に対する規制について概説する

第9回: 銀行に対する規制 2. 大口信用供与規制等 / Regulations on banks 2. Lending Limits, etc

銀行に対する規制について概説する

第10回: 預金保険機構 / Deposit Insurance Corporation of Japan

預金保険機構について概説する

第11回: 地域経済活性化支援機構と金融機関による事業再生等支援 / Regional Economy Vitalization Corporation of Japan and Business restructuring support by financial institutions

地域経済活性化支援機構と金融機関による事業再生等支援について概説する

第12回: 災害発生時の対応 / Response in the event of a disaster

災害発生時の対応について概説する

第13回: 金融検査・監督の考え方と進め方 / Supervisory approaches

金融検査・監督の考え方と進め方について概説する

第14回: ゲストスピーカーによる講演(金融関係者・議題未定(P))、中止の場合は、金融行政の重点施策 / Guest speaker (TBA),

In case the guest speaker session will be canceled, this session is on "Priority Measures of Financial Administration"

第15回: まとめ / Review

講義全体のまとめを行います

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点(課題提出等) 60%、レポート 40%で評価する。

・AA (90点以上), A (80点以上90点未満), B (70点以上80点未満), C (60点以上70点未満), D (60点未満; 不合格)

60%: assignment of each section etc, 40%: final report

AA:over 90 points, A:between 80-89 points, B:between 70-79 points, C:between 60-69 points, D:below 5

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

図説わが国の銀行 10 訂版	全国銀行協会企画部 金融調査室	財経詳報社	2017	978- 4881774434	参考資料
----------------	--------------------	-------	------	--------------------	------

8. 関連 URL [URL] :

金融庁ホームページ <https://www.fsa.go.jp/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・授業で紹介されたり、興味をもった分野の論文・書籍を読むこと。
- ・授業で課されたレポートや宿題は必ず提出すること。
- ・google classroom を使用予定であり、資料や課題はそこに掲載する。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them b

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：知的好奇心の旺盛な方の参加を歓迎する。
- ・講義は担当教官の講義スライドを使って行われるが、参考書は内容の理解に有用である。
- ・オフィスアワーを設定する予定である。詳細は授業初回に連絡する。
- ・対面授業であり、基本的にオンライン・オンデマンド配信は行わない。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

財務行政/Treasury Administration

担当教員 [Instructor]: 大西 敢二郎/KANJIRO ONISHI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW602J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、財務省行政の観察を通じて、公的分野におけるお金の流れ方について考察することを目的とする。特に、少子高齢化に伴い深刻さを増す我が国の財政状況や、財政健全化のための取組み等について理解したい。更に、今後、世界でも稀にみる財政赤字の国、かつ稀にみる低金利の国が、どうなっていくのか、皆さんと一緒に考察したい。

The purpose of this lecture is to examine how money flows in the public sector through observation of the administration conducted by the Ministry of Finance. In particular, we would like to understand the fiscal situation in Japan, which is becoming increasingly serious due to the declining birthrate and aging population, and the efforts being made to restore fiscal soundness. Furthermore, we would like to think about what will happen to a country with a budget deficit, which is rare in the world, and a low interest rate, which is also rare.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

①官公庁、金融機関、公認会計士等の実務において必要される知識・技能の修得

②金融機関や官公庁を効果的に活用するための商品・サービスや関連する制度等に関する知識の修得

③本大学院生が研究活動等を行う上で必要な知識等の修得

(1) Acquisition of knowledge and skills required in the practice of government and municipal offices, financial institutions, certified public accountants, etc.

(2) Acquire knowledge of products, services, and related systems to effectively utilize financial institutions and public agencies.

(3) Acquisition of knowledge necessary for graduate students to conduct research activities, etc.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

コースの目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回: 財政の役割 / Roles and functions of fiscal and tax systems

財政の3機能について概説するほか、税制の3原則や各個別税制について講義する。

第3回: 予算制度と予算の効率化/ Budget system and budget efficiency

予算の種類や編成手続き等について概説するほか、予算効率化の取り組みについて講義する。

第4回: 我が国の財政の状況 / Japan's financial situation

我が国の財政状況や財政健全化の目標等について講義する。

第5回: 社会保障1(総論・医療・介護) / Social security 1(General remarks, Medical and nursing care)

予算の最大費目である社会保障費について概説するとともに、医療・介護の予算について講義する。

第6回: 社会保障2(年金・子ども・子育て) / Social security 2(Pension and Child care)

年金・子ども・子育て・雇用・生活支援の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第7回: 文教・科学技術・防衛 / Education and science and Defence

文教・科学技術・防衛の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第8回: 地方財政 / Local finance

地方交付税交付金等の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第9回: 社会資本整備・中小企業 / Public works・Small and medium-sized enterprises

社会資本整備・中小企業の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第10回: 財政投融资 / Fiscal Investment and Loan Program

財政投融资の役割や財政投融资改革の意義等について講義する。

第11回: 国有財産 / Government Assets

国有財産の活用状況や、国有財産の管理処分の基本方針の変遷等について講義する。

第12回: 国債管理政策 / National debt management policy

国債管理政策の役割や関連する制度的枠組み等について講義する。

第13回: 国際金融・関税 / International Policy and Customs and Tariff

国際金融業務の役割について概説するほか、関税業務の概要や意義について講義する。

第14回: ゲストスピーカーによる講演(未定)、中止の場合は、2025年度予算等 / Guest speaker(TBA), In case the guest speaker session will be canceled, this session is on "FY2025 Budget".

第15回: まとめ / Review

これまでの講義をふりかえるとともに、我が国の財政状況の課題や今後の展望等について考察する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

・平常点(課題提出等)60%、レポート40%で評価する。

・AA(90点以上), A(80点以上90点未満), B(70点以上80点未満), C(60点以上70点未満), D(60点未満; 不合格)

60%: assignment of each section etc, 40%: final report

AA: over 90 points, A: between 80-89 points, B: between 70-79 points, C: between 60-69 points, D: below 5

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

図説日本の財政 令和5年度版 関口 祐司 編著 財経詳報社 2023 978-4- 参考資料

8. 関連 URL [URL] :

財務省ホームページ <https://www.mof.go.jp/index.htm>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・ 授業で紹介されたり、興味をもった分野の論文・書籍を読むこと。
- ・ 授業で課されたレポートや宿題は必ず提出すること。
- ・ google classroom を使用予定であり、資料や課題はそこに掲載する。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them b

10. その他 [In addition] :

- ・ この講義を受講するために必要となる知識：知的好奇心の旺盛な方の参加を歓迎する。
- ・ 講義は担当教官の講義スライドを使って行われるが、参考書は内容の理解に有用である。
- ・ オフィスアワーを設定する予定である。詳細は授業初回に連絡する。
- ・ 対面授業であり、基本的にオンライン・オンデマンド配信は行わない。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

企業法 1 / Corporate Law 1

担当教員 [Instructor] : 担当者未定 /

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 月曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW502J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

会社法のうち、「株式」と「機関」についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the shares and the institutions of corporate law.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

会社法のうち、「株式」と「機関」に係る規制について理解できるようになること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 : オリエンテーション / Orientation

授業の目的、進め方、成績評価方法等の説明後、第2回の株式(1)について講義する

第2回 株式 (1) 株式の意義と種類 / Significance and types of shares

引き続き株式の意義と種類について講義する

第3回 株式 (2) 株券、振替株式、株主名簿 / Share certificate, Book-Entry Transfer Share, Shareholder registers

株券、振替株式、株主名簿について講義する

第4・5回 株式(3)株式の譲渡、自己株式の取得 / Transferring shares, Acquisition of own shares

株式の譲渡、自己株式の取得について講義する

第6回 株式(4)子会社による親会社株式の取得、特別支配株主の株式等売渡請求、株式の併合・分割、単元株制度 / Acquisition of shares of the parent company by a subsidiary, Demand for Share Cash-Out of Special Controlling Shareholders, Consolidation of Shares, Share Splits, Share Units

子会社による親会社株式の取得、特別支配株主の株式等売渡請求等について講義する

第7・8回 株主総会 / Shareholders Meeting

株主総会について講義する。

第9～11回 取締役、取締役会、取締役と株式会社との関係、取締役の責任 / Directors, Board of Directors, Relationship between Directors and Stock Companies

取締役、取締役会、取締役と会社との関係、取締役の責任について講義する

第12回 監査役、監査役会 / Company with a Board of Company Auditors, Board of Company Auditors

監査役、監査役会について講義する

第13回 監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社 / Company with an Audit and Supervisory Committee, Company with a Nominating Committee, etc.

監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社について講義する

第14回 会計参与、会計監査人、検査役 / Accounting Advisor(s), Financial Auditor(s), Inspector

会計参与、会計監査人、検査役について講義する

第15回 理解度確認セッション / Examination

ゲーグルクラスルームを通じて理解度確認セッションを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

小テスト (30%)、理解度確認セッション (70%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習 : 講義資料及び主要な条文を読んでおくこと。

復習 : 講義資料と主要な条文を読み返すこと。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 : 特になし

講義資料は概ね毎回配布する (同じ分野については複数回をまとめて配布することがある)。

講義はすべてオンデマンドで行う。質問等はゲーグルクラスルーム、メール等を通じて随時受け付ける。

講義資料配布時に、適宜、過去の公認会計士試験の企業法 (短答) の問題その他を復習問題として出題するので解答すること

(提出は必要ない)。復習問題の解答・解説をアップする。復習問題は成績評価には影響しない。
授業が半分程度過ぎたところで、Google Classroom を通じて小テストを実施する。期限を設けるので、期限までに解答を
Google Classroom に返信すること(資料の閲覧等は自由とする)。
第15回の授業時間内に、Google Classroom を通じて理解度確認セッションを行う(資料の閲覧等は自由とする)。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大
ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

企業法 2 / Corporate Law 2

担当教員 [Instructor] : 徳重 昌宏 / MASAHIRO TOKUSHIGE

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW603J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

会社法のうち、「設立」、「資金調達」、「計算」、「組織再編」、「定款の変更」、「解散と清算」及び「持分会社」についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen students' understanding of corporate law, including, "Incorporation", "Financing", "Reorganization", "Amendment of Articles of incorporation", "Dissolution and Liquidation," and "Equity Companies".

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

会社法のうち、「設立」、「資金調達」、「計算」、「組織再編」、「定款の変更」及び「解散と清算」及び「持分会社」に係る規制について理解できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 : オリエンテーション / Orientation

授業の目的、進め方、成績評価方法の等の説明後、第2回の株式会社の設立について講義する

第2回 株式会社の設立 / Incorporation of a Stock Company

引き続き株式会社の設立について講義する

第3~6回 株式会社の資金調達 / Financing of a Stock Company

株式会社の資金調達について講義する

第7・8回 株式会社の計算 / Accounting of Stock Company(1)

株式会社の計算について講義する

第9回 株式会社の定款変更等 / Amendment of articles of incorporation

定款変更について講義する

第10~13回 組織再編 / Reorganization

合併、会社分割、事業譲渡・譲受け、株式交換、株式移転、株式交付について講義する

第14回 解散、清算 / Dissolution and Liquidation, Membership Company

解散、清算、持分会社について講義する

第15回 理解度確認セッション / Examination

クラスルームを通じて理解度確認セッションを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッション①(中間)(40%)、理解度確認セッション②(60%)で評価する。

講義終了後、復習問題を12回程度出題する。未提出(期限後提出を含む)が3回以上ある場合又は授業の欠席が3回以上ある場合には、理解度確認セッションは受講できないこととし、成績評価は行わない。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:講義資料及び主要な条文を読んでおくことが望ましい。

復習:再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識は特にない。

講義資料は概ね毎回配布する(同じ分野については複数回をまとめて配布することがある)。

講義は基本的に対面授業で行う。短答式試験の直前の1回の講義は、オンデマンド(録画をクラスルームにアップ)とする。

質問等はGoogleクラスルーム、メール等を通じて随時受け付ける。

原則として毎回の講義後に、適宜、過去の短答式試験等の問題を復習問題として出題するので解答すること。復習問題の解答・解説をアップする。復習問題の点数は成績評価には影響しない。

授業が半分程度過ぎたところで、Googleクラスルームを通じて理解度確認セッション①を実施する。期限を設けるので、期限までに解答をクラスルームに返信すること。

第15回の授業時間内にクラスルームを通じて理解度確認セッションを行う。

理解度確認セッションでは、資料の閲覧は自由とする。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

法人税法1 / Corporate Tax Law 1

担当教員 [Instructor] : 原 正子 / MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW503J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

法人税法は、企業会計での利益計算を前提としつつ、適正・公平な課税という目的の下に法人の所得計算ルールとして様々な規制や調整を定めており、会計実務に大きく影響する。

本講義は、法人税法の基礎を理解することを目的として、法人税法の基本構造及び所得計算上の重要項目の趣旨・内容、その計算過程の要点を講義する。

Corporation Tax Law presupposes profit calculation in corporate accounting and sets various rules and adjustments as corporate income calculation rules for the purpose of proper and fair taxation, which greatly affects accounting practice.

This course is designed to learn about the basics of Corporation Tax Law, and I will lecture on the framework of the Law and on the meaning and contents of important items in income calculation and on the key points of the calculation process.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

法人税法の基本構造及び所得計算上の重要項目の趣旨・内容、その計算過程を理解し説明できることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の進め方、法人税法を学ぶ際の基礎的な知識（法人税の位置づけ、法人税関係法令の規定の構成等）について確認する

第2回：法人税の基本構造、課税所得の計算原理 (1) / Basic structure of corporate tax, etc

法人税法の性質、納税義務者及び課税所得の範囲、法人税の税率と税額計算について概説する

第3回：課税所得の計算原理 (2)、益金の額の計算 (1) / Calculation principle of taxable income, etc

資本等取引、確定決算主義、税務調整と損金経理、法人税の申告等について概説する

第4回：益金の額の計算 (2) (収益の認識基準、無償譲渡等) / Calculation of the amount of gross revenue (2)

資産の販売等の収益の額、資産の無償譲渡等による収益の額、資産の無償譲受け等による収益の額等について概説する

第5回：益金の額の計算 (3) (受取配当等の益金不算入等) / Calculation of the amount of gross revenue (3)

受取配当等について概説する

第6回：損金の額の計算 (1) (費用の計上時期、同族会社等) / Calculation of the amount of gross expense (1)

損金の額の計上時期、棚卸資産の売上原価の計算、同族会社について概説する

第7回：損金の額の計算 (2) (役員等の給与、資産の評価損) / Calculation of the amount of gross expense (2)

役員等の給与、資産の評価損について概説する

第8回：損金の額の計算 (3) (寄附金、交際費等) / Calculation of the amount of gross expense (3)

寄附金、交際費等、使途不明金について概説する

第9回：損金の額の計算 (4) (減価償却資産の償却費の計算) / Calculation of the amount of gross expense (4)

減価償却資産の償却費の計算について概説する

第10回：損金の額の計算 (5) (繰延資産の償却費の計算等) / Calculation of the amount of gross expense (5)

繰延資産の償却費の計算、圧縮記帳、税額控除について概説する

第11回：損金の額の計算 (6) (租税公課等) / Calculation of the amount of gross expense (6)

租税公課等について概説する

第12回：損金の額の計算 (7) (引当金、貸倒損失、繰越欠損金等) / Calculation of the amount of gross expense (7)

引当金、貸倒引当金、貸倒損失、繰越欠損金、青色欠損金の繰り戻し還付について概説する

第13回：グループ法人税制、グループ通算制度 / Group corporation tax system, Aggregation group corporation

グループ法人税制の概要、グループ通算制度の概要について概説する

第14回：組織再編税制、法人税申告・納付、租税手続法 / Reorganization tax system, etc

組織再編税制、法人税申告、納付と還付、青色申告の要件と特典等について概説する

第15回：理解度確認セッション / Examination

計算処理問題を中心とする筆答審査を実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッション (50%)、小テスト又は宿題 (30%) 及び講義への貢献等の平常点 (20%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

法人税法 理論と計算 (十九訂版)	成松洋一	税務経理協会	2023	978-4-419-06914-8	参考書
法人税セミナー 六訂版	成松洋一	税務経理協会	2021	978-4-419-06776-2	参考書
スタンダード法人税法 (第3版)	渡辺徹也	弘文堂	2023	978-4-335-35925-5	参考書
税務大学校講本 法人税法 (基礎編)	税務大学校		2023		参考書
租税法 (第2・4版)	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-	参考書

8. 関連 URL [URL] :**9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :**

- ・予習では、GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考書を読み、疑問点等を整理しておくこと。
- ・復習では、講義資料や参考書の再読及び設例等での計算処理の再確認、小テストの復習をして、学習内容の理解を確実にすること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：
学部レベルの簿記、財務会計の知識を有していること

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

法人税法2 / Corporate Tax Law 2

担当教員 [Instructor] : 原 正子 / MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW604J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

経済社会のグローバル化の進展に伴い、国際取引に対する課税の在り方が注目を集め、ビジネス界においても関係諸制度や課税当局の対応への関心が一層高まっている。本講義は、国際課税制度の基本的な考え方と構造を理解することを目的とし、法人税法などの関係国内法及び租税条約等の国際租税法の基礎的な事項を主な対象とする。

With the globalization of the economy and society, taxation on international transactions is attracting attention, and the business community is increasingly interested in related systems and tax authorities. The purpose of this course is to understand the basic concept and structure of the international taxation system, and will mainly focus on Corporation Tax Laws and other related domestic laws and international taxation rules such as tax treaties.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

国際課税制度の基本的な考え方と構造を理解しポイントを説明できる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の進め方、次回以降の予定などについて説明する。

第2回：国際課税の基本構造、基礎概念 / Basic concept and structure of the international taxation system

1. 国際課税制度の基本、2. 課税権確保のための制度、3. インバウンド取引と課税ほか

第3回：インバウンド取引の課税 (1) / Taxation on inbound transaction (1)

1. 国内源泉事業所得課税の原則、2. 恒久的施設 (PE)、3. 非居住者・外国法人に対する課税方法ほか

第4回：インバウンド取引の課税 (2) / Taxation on inbound transaction (2)

1. 国内法に規定するソース・ルールの概要、2. PE に帰属しない国内源泉所得ほか

第5回：アウトバウンド取引の課税 (1) / Taxation on outbound transaction (1)

1. 国際的二重課税排除、2. 外国税額控除制度の概要ほか

第6回：アウトバウンド取引の課税 (2) / Taxation on outbound transaction (2)

1. 外国子会社配当益金不算入制度の概要ほか

第7回：租税条約 (1) / Tax treaties (1)

1. 租税条約の目的、2. 我が国の租税条約の現状、3. 租税条約と国内租税法、4. 日米租税条約 (1)

第8回：租税条約 (2)、移転価格税制 (1) / Tax treaties (2)、Transfer pricing taxation (1)

1. 日米租税条約 (2)、2. 条約漁りとその対応、3. 相互協議、4. 仲裁制度、5. 情報交換

(移転価格税制 (1)) 1. 移転価格税制導入の背景、2. 移転価格税制の制度の仕組み

第9回：移転価格税制 (2) / Transfer pricing taxation (2)

1. 国外関連者の範囲、2. 独立企業間価格の算定方法 (基本三法)、3. 基本三法以外の算定方法

第10回：移転価格税制 (3) / Transfer pricing taxation (3)

1. 差異の調整、2. 無形資産の移転に伴う問題、3. 価格調整措置、4. 文書化制度ほか

第11回：外国子会社合算税制 (1) / Foreign subsidiary combined taxation (1)

1. タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避行為、2. 外国子会社合算税制の仕組みほか

第12回：外国子会社合算税制 (2) / Foreign subsidiary combined taxation (2)

1. 特定外国関係会社、2. 部分合算対象外国関係会社、3. コーポレート・インバージョン対策税制

第13回：過少資本税制、過大支払利子税制等 / Undercapital tax system, Excessive interest tax system

1. 過少資本税制等の導入の背景及び制度の概要、2. 過大支払利子税制導入の意義と制度の概要ほか

第14回：OECD の BEPS プロジェクト等 (1) / Base Erosion and Profit Shifting Project at the OECD, etc. (1)

1. BEPS プロジェクトの経緯、2. 注目を集めた事例・スキーム、3. BEPS プロジェクト最終報告書の概要①

第15回：OECD の BEPS プロジェクト等 (2) / Base Erosion and Profit Shifting Project at the OECD, etc. (2)

1. BEPS プロジェクト最終報告書の概要②、2. 最新の税制改正

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

宿題 (30%)、判例レポート (40%)、講義への貢献度等平常点 (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

国際租税法 (第4版)	増井良啓・宮崎裕子	東京大学出版会	2019	978-4-13-032393-2	参考書
国際課税の基礎知識 (11 訂版)	川田剛	税務経理協会	2021	978-4-419-06789-2	参考書
租税判例百選 (第7版)	中里実ほか	有斐閣	2021	978-4-641-11553-8	参考書
令和5年度版 基礎から身につく国際課税	川田剛	大蔵財務協会	2023	978-4-7547-3105-2	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等を読み、疑問点等を整理しておくこと。

復習:講義資料等を読み直すとともに、学習した項目に関連する法令、条約等の条文を確認して理解を確実にすること。また、宿題及びレポート課題を確実にこなすこと。

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：税法一般、法人税法、所得税法に関する基礎的な知識があることが望ましい。(なくとも受講は可。)
- ・講義資料を原則各回ごとに GoogleClassroom に事前掲示する。
- ・国際租税法の基本構造の理解を最優先とし、主に所得課税（法人税及び所得税）の国際的側面について主要な制度の概要及び法令等の適用関係について講義を行う。また、国際課税問題についての理解をより深めるために、近年話題となった具体事例等についても適宜紹介する。
- ・学習内容の定着を図るため、随時、宿題及びレポートを課す。レポートについては、GoogleClassroom に事前掲示する判例資料を基に、講義の進捗に応じて主要制度に関わる判例について意見をまとめ、提出するとともに、講義内で発表する（一人当たり 2 判例。詳細は講義の中で説明する。）。
- ・判例の割り振りを第 1 回講義において決定するため、受講を考える者は、必ず出席すること。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

消費税法/Consumption Tax 1

担当教員 [Instructor]: 藤田 義明/YOSHIAKI FUJITA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 土曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW605J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、消費税法の基本的な理論や体系を理解し、実務上の重要事項の習得や実際の消費税申告書の作成方法を習得することを目的とする。また、3回目以降の講義では、演習問題を事前に課し、演習問題の解答及び留意点を説明することにより、講義内容の理解が深まるように進める。

In this course, students are expected to understand basic theories and systems of Consumption Tax Act and acquire some practically important items and how to create an actual declaration of consumption tax. Besides, from the third time onwards, students will get some exercise quizzes in advance, and receive an explanation of answers and significant notes about the exercise quizzes during class in order to get deeper understanding of the contents of the lectures.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

公認会計士試験論文式(租税法)の消費税に関する問題と同程度の知識習得や税額計算等ができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本科目の目的、進め方、成績評価方法、学習方法について概説する。

第2回: 総説、間接税の概要、消費税創設の背景/Overview of indirect tax, Background of the establishment of the consumption tax

租税の分類・特徴、消費税創設の背景や課税の対象などについて講義する。

第3回: 課税の対象/Taxable, etc.

消費税の課税の対象について、課税取引・不課税取引・非課税取引・免税取引の概要を講義する。

第4回: 非課税と免税/Tax exemption and tax exemption, etc.

非課税・免税取引・不課税取引について、事例も含めて講義する。

第5回: 納税義務者と納税義務の成立/Taxpayer, Establishment of tax obligation, etc.

納税義務者、小規模事業者の納税義務の免除、納税義務の成立時期について講義する。

第6回: 課税標準と税率/Tax bases and rates, etc.

消費税額の申告に係る課税標準と適用税率について講義する。

第7回: 課税標準額等の計算(1)/Calculation of standard tax amount, etc.

税込経理方式と税抜経理方式、総額表示などについて講義する。

第8回: 課税標準額等の計算(2)/Calculation of standard tax amount, etc.

課税標準額の具体的な計算方法などについて講義する。

第9回: 仕入税額控除の概要/Overview of purchase tax credit, etc.

仕入税額控除の仕組みや適用要件等について講義する。

第10回: 仕入税額控除の計算方法/Calculation of input tax credit, etc.

課税売上割合、個別対応方式・一括比例配分方式、インボイス制度について講義する。

第11回: 簡易課税制度等/Simple tax system, etc.

簡易課税制度の概要・適用要件、事業区分とみなし仕入率について講義する。

第12回: 課税期間、申告・納付、納税地/Tax period, Filing and tax payment, Tax payment place

課税期間(課税期間の特例を含む。)や確定申告(納付)の仕組みについて講義する。

第13回: 消費税及び地方消費税の申告書作成/Creating a consumption tax return

申告書の具体的な作成方法や作成に当たっての留意事項について講義する。

第14回: 消費税法講義のまとめ/go over what we covered

これまで学んできた消費税の課否判定、課税標準、仕入税額控除等について総合的に復習する。

第15回: 理解度確認セッション/Examination

筆答での考査を実施することで講義全体のまとめをする。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

演習問題 (50%) および理解度確認セッション (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

税務大学校構本	国税庁 HP
国税庁リーフレット	国税庁 HP
消費税法 (抜粋)	国税庁 HP
消費税法基本通達 (抜粋)	国税庁 HP

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習:

中盤より演習問題を課す。解答作成を通じて理解を深める。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識： なし

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

所得税法/Individual Income Tax

担当教員 [Instructor] : 笹川 正彦/MASAHIKO SASAKAWA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 火曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW606J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

所得税法の基本的な事項を理解し、所得税の計算方法を習得することを目的とする。

The purpose of this course is to understand the basic matters of the Income Tax Act and to learn how to calculate income tax.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

所得税法の基本的な事項を理解し、公認会計士試験論文式(租税法)の問題と同程度の基本的な所得金額などの計算ができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション/Orientation

講義の進め方、成績評価方法、学習方法、所得税の概要などについて説明する。

第2回: 所得税法総説(1)/Income tax law general rules(1)

所得税法総説、所得税の意義と特色、所得の概念、非課税所得、納税義務者、課税所得などを説明する。

第3回: 所得税法総説(2)/Income tax law general rules(2)

所得税法総説、所得税の意義と特色、所得の概念、非課税所得、納税義務者、課税所得などを説明する。

第4回: 所得の種類(1)/Type of income(1)

所得の種類 所得の種類と意義、各種所得の内容などを説明する。

第5回: 所得の種類(2)/Type of income(2)

所得の種類 所得の種類と意義、各種所得の内容などを説明する。

第6回: 課税標準の計算(1)/Calculation of tax base(1)

各種所得の金額の計算方法を説明する。

第7回: 課税標準の計算(2)/Calculation of tax base(2)

所得税の課税標準、総所得金額の計算方法、所得税の課税の特例などを説明する。

第8回: 課税標準の計算(3)/Calculation of tax base(3)

収入金額などを説明する

第9回: 課税標準の計算(4)/Calculation of tax base(4)

必要経費、収入金額・必要経費に関する特例、損益通算、損失の繰越控除などを説明する。

第10回: 課税標準の計算(5)/Calculation of tax base(5)

必要経費、収入金額・必要経費に関する特例、損益通算、損失の繰越控除などを説明する。

第11回: 課税標準の計算(6)/Calculation of tax base(6)

必要経費、収入金額・必要経費に関する特例、損益通算、損失の繰越控除などを説明する。

第12回: 所得控除(1)/Income deduction(1)

所得控除の種類、所得控除の内容、控除金額、控除の順序などを説明する。

第13回: 所得控除(2)/Income deduction(2)

所得控除の種類、所得控除の内容、控除金額、控除の順序などを説明する。

第14回: 税額の計算/Calculation of tax amount

税額の計算方法、源泉徴収制度、所得税の申告・納付・還付の手続、青色申告制度などを説明する。

第15回: 理解度確認セッション/Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

随時実施するレポート(50%)及び理解度確認セッション(50%)で評価。

レポートは10回を予定しており、指示した期限内に提出されたもののみを成績評価の対象とし、期限内提出が60%以下となった場合にはレポートの成績評価はないこととする。

AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満;不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

税務大学校講本 所得税法 税務大学校HP掲載

令和
6年
度版

教科書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

講義までにテキストの該当する箇所及び該当する所得税法の条文等を読んでくること。また、第1回のオリエンテーションにおいて、第2回以降の講義の概要及び各回の学ぶべき用語などを示すので予習して講義に臨むこと。

復習:

講義の進捗に応じて随時レポートを課すので、レポートの解答作成を行いながら講義内容を確実に理解すること。なお、レポートは指示する期限までに提出すること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

租税に関する基本的な知識並びに簿記及び財務諸表論の基本的な知識

その他:

教科書は税務大学校 HP 掲載の税務大学校講本「所得税法」を使用するので各自がダウンロードすること

<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

企業開示制度と実務／Corporate Disclosure System

担当教員 [Instructor] : 徳重 昌宏/MASAHIRO TOKUSHIGE

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 金曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW607J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

有価証券届出書等の発行開示書類及び有価証券報告書等の継続開示書類に係る規制等についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen students' understanding of regulations and other matters pertaining to securities registration statements and other issuance disclosure documents, as well as securities reports and other continuous disclosure documents.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

有価証券届出書等の発行開示書類及び有価証券報告書等の継続開示書類に係る規制等について理解できるようになること。また、公開買付や大量保有報告等の上記以外の金商法上の開示規制についても理解できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション、企業開示制度の概要/Orientation, regulation on the disclosure of Corporate Affairs

授業の目的及び全体像、進め方、成績評価方法の説明後、企業開示制度の概要について講義する

第2回 有価証券の募集/Public offering of securities

有価証券の募集について講義する

第3回 有価証券の売出し・組織再編成発行手続等/Secondary distribution of securities, etc.

有価証券の売出し、組織再編成発行手続及び組織再編成交付手続について講義する

第4回 発行開示制度(1)/Regulations on the issuance of securities(1)

発行開示制度総論及び私募等の告知義務等について講義する

第5回 発行開示制度(2)/Regulations on the issuance of securities(2)

有価証券届出書に係る規制について講義する

第6回 発行開示制度(3)/Regulations on the issuance of securities(3)

目論見に係る規制について講義する

第7回 発行開示制度(4)/Regulations on the issuance of securities(4)

発行登録制度等について講義する

第8回 理解度確認セッション(1)/Examination(1)

第1～7回までの内容について、グループクラスルームを通じて理解度確認セッションを実施する。

第9回 継続開示制度(1)/Continuous disclosure system(1)

継続開示制度総論及び有価証券報告書に係る規制について講義する

第10回 継続開示制度(2)/Continuous disclosure system(2)

確認書、内部統制報告制度、四半期報告書及び臨時報告書等について講義する

第11回 継続開示制度(3)/Continuous disclosure system(3)

自己株券買付状況報告書、親会社等状況報告書及び英文開示に係る規制等について講義する

第12回 公開買付制度/Tender offer

公開買付に係る規制について講義する

第13回 大量保有報告制度等/Substantial shareholding reporting system

大量保有報告に係る規制等について講義する

第14回 民事責任及び課徴金制度/Compensatory liability and administrative surcharges

開示書類の虚偽記載等に対する民事責任及び課徴金に係る規制について講義する

第15回 理解度確認セッション(2)/Examination(2)

第8～14回までの内容について、グループクラスルームを通じて理解度確認セッションを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッション(1) (中間) (40%)、理解度確認セッション(2) (期末) (60%) で評価する。

講義終了後、適宜復習問題を出题する。未提出 (期限後提出を含む) が3回以上ある場合又は授業の欠席が3回以上ある場合には、理解度確認セッションは受講できないこととし、成績評価は行わない。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習: 講義資料及び主要な条文を読んでおくことが望ましい。

復習: 再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識は特になし

講義資料は概ね毎回配布する(同じ分野については複数回をまとめて配布することがある)。

講義は原則対面授業とする。短答式試験の直前2回の講義はオンデマンド(録画をクラスルームにアップ)で行う。質問等は
グーグルクラスルーム、メール等を通じて随時受け付ける。

適宜、過去の短答式試験の等の問題を復習問題として出題するので解答すること。復習問題の解答・解説をクラスルームにア
ップする。復習問題の点数は成績評価に影響しない。

授業が半分程度過ぎたところで、クラスルームを通じて理解度確認セッション(1)を実施する。期限を設けるので、期限まで
に解答をクラスルームに返信すること。

第15回の授業時間内にクラスルームを通じて理解度確認セッション(2)を行う。

理解度確認セッションでは、資料の閲覧等は自由とする。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大
ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (金融行政) / Case Study (Financial Administration)

担当教員 [Instructor]: 大西 敢二郎 / KANJIRO ONISHI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 金曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW608J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、地域金融の今後のあり方を考察することを目的とする。
 そのために、厳しい経営環境の下にある地域金融機関が、どのようなビジネスモデルを構築することで、健全性を確保し、地域において役割を発揮しようとしているかという観点から、具体的な地域金融機関等の取組みを検証する。

The purpose of this lecture is to examine the future of regional finance.

To this end, we will examine the efforts of specific regional financial institutions and other financial institutions under severe business conditions from the perspective of what kind of business models they are trying to establish to ensure their soundness and play a role in the region.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

- ① 地域金融機関の経営分析について、一定の理解を得ること。
- ② 地域金融機関のビジネスモデルと、経営環境の変化の状況との関係性について、一定の理解を得ること。
- ① To obtain a certain understanding of the business analysis of regional financial institutions.
- ② To gain some understanding of the relationship between the business models of regional financial institutions and the changing conditions of the business environment.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

- 第1回: オリエンテーション / Orientation
 第2回: 日本の銀行業界の現状 / Current status of the Japanese banking industry
 第3回～第14回: 地域金融機関等の取組み / Initiatives of regional financial institutions and the others
 ※対象とする地域金融機関等は未定(受講生に割り当てる予定。受講生は割り当てられた金融機関のビジネス等について発表を行う) / The target regional financial institutions will be determined later. Instructor will assign the target-institutions to the students, and students should make presentations on the assigned banks businesses.

(参考) 過去の講義で取り上げた金融機関の例

- ・福岡 FG
- ・新生銀行
- ・スルガ銀行
- ・楽天銀行
- ・SBI と連携する地域銀行
- ・北國銀行
- ・セブン銀行
- ・ほくほく FG
- ・京都銀行
- ・あおぞら銀行
- ・山口 FG
- ・プロクレア HG

第15回: まとめ (地域金融の今後のあり方) / Review (The future of regional finance)

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

- ・平常点 (発言、事例研究への貢献度) 60%、発表内容 40% で評価する。
- ・AA (90 点以上), A (80 点以上 90 点未満), B (70 点以上 80 点未満), C (60 点以上 70 点未満), D (60 点未満; 不合格)
- 60%: contributions to each session with exchanging views etc, 40%: presentations
- AA: over 90 points, A: between 80-89 points, B: between 70-79 points,

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

- ・銀行の IR 資料その他参考となる資料を読んでおくこと。
- ・事例研究において紹介された文献、参考資料をもとに知見を深めること。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the session.

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：必須要件ではないが、金融行政Ⅱの受講者が望ましい。
- ・対面授業であり、基本的にオンライン・オンデマンド配信は行わない。
- ・google classroom を使用予定であり、資料等はそこに掲載する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (企業法) / Case Study (Corporate Law)

担当教員 [Instructor] : 担当者未定 /

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW609J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

上場会社による不正会計等の事件及び企業買収事案等について、その手口、発生原因、対応策等について学習し、上場会社にとって適切な情報の開示の重要性を認識するとともに、事件等を通じて、会社法、金融商品取引法、公認会計士法の関連制度・規制の理解を深める。

また、受講生は、不正会計等について1事案を取り上げてプレゼンテーションを行う。

The purpose of this course is to learn about accounting irregularities and corporate takeovers by listed companies, including their modus operandi, causes, and countermeasures, to recognize the importance of appropriate information disclosure for listed companies, and to deepen understanding of related systems and regulations such as the Companies Act, Financial Instruments and Exchange Act, and Certified Public Accountants Act through such incidents. The purpose of this course is to deepen students' understanding of the Companies Act, Financial Instruments and Exchange Act, Certified Public Accountants Act and other related systems and regulations.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

不正会計等が発覚してから金融庁による課徴金が課されるまでの制度・規制を理解できるようになること。

会社法、金融商品取引法、公認会計士法における関連制度・規制について理解できるようになること。

プレゼンテーションを通じて、他者にわかりやすく説明する能力を向上させること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション/Orientation

第2・3回：事例分析「日産自動車事件」(金融商品取引法・役員報酬の虚偽) /NISSAN MOTOR Co., Ltd. case

第4回：事例分析「オリンパス事件」(金融商品取引法・不正会計) /OLYMPUS Corporation case

第5回：事例分析「東芝事件」(金融商品取引法・不正会計) /TOSHIBA Corporation case

第6・7回：「循環取引事例」(金融商品取引法・不正会計) /Round-tripping case

第8回：事例分析「ジャパンディスプレイ」(金融商品取引法・不正会計) /Japan Display Inc. case

第9回：事例分析「ディー・エル・イー事件」(金融商品取引法・不正会計) /DLE Inc. case

第10回：受講生による事例分析・発表/Case analysis and presentation by students

第11回：事例分析「ブルドックソース事件」(会社法・金融商品取引法) /BULL-DOG SOURCE Co., Ltd. case

第12回：会社法・金商法・公認会計士法等に係る制度の説明/Supplementary explanation of relevant systems related to the Companies Act, Financial Instruments and Exchange Act, and Certified Public Accountants Act, etc.

第13～15回：受講生による事例分析・発表/Case analysis and presentation by students

なお、事例を取り上げた際に、関連制度等を説明する場合、次回にまたがる場合がある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

レポート6回(計50%)とプレゼンテーションの内容(50%)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

受講生が事案を取り上げることを念頭に置いて各回の授業を受けること。

不正会計等に係る第三者委員会調査報告書等はかなり大部となっている場合がある。すべてを読むことは求めないが、指定した箇所についてはあらかじめ読んでおくこと。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：特になし

講義資料は概ね毎回配布する。

講義は、リアルタイム授業3回、対面授業3回、他はオンデマンドとする。質問等はグーグルクラスルーム、メール等を通じて随時受け付ける。

なお、授業で取り上げる事案については、一部変更する可能性がある。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (法人税法) / Case Study (Corporate Tax Law)

担当教員 [Instructor]: 原 正子/MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW610J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、法人税法の解釈・適用に重要な意義をもつ裁判例の研究を通じ、①法人税法の重要規定に係る具体的な解釈・適用関係について理解する、②他の税法や民法等の法律その他の領域との関わりの中で法人税法を捉え、その解釈や適用のあり方について考察する、③発表や討議を経験し、説明力、思考力を向上させる、ことを目的とする。

This course is based on the study of judicial precedents that have high significance in the interpretation and application of corporation tax law. The purpose is to: ① Understand the specific interpretation and application relationship of the important provisions of the Corporation Tax Law, ② Understand the corporation tax law in relation to other tax laws and other areas such as civil and commercial law, and think about how to interpret and apply it. ③ Experience presentations and discussions, improve explanation and thinking skills.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

法人税法の解釈・適用を巡る重要判決について、関係条文及び判決文を読み、事件の概要、争点、判旨を理解の上、制度や判決の課題を考察できることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

税務争訟制度の概要、判決文の読み方などについて説明し、受講者ごとの発表担当事件を決定する。

第2回: (1) 確定決算主義/Firm settlement principle、(2) 公正処理基準と収益の計上時期/GAAP

①福岡高裁平成19年6月19日判決、②最高裁平成5年11月25日判決 (大竹貿易事件)

第3回: 収益の計上時期/When to record revenue

③最高裁平成4年10月29日判決 (相栄産業事件)

第4回: 無償取引/Gratis transaction

④最高裁平成7年12月19日判決 (南西通商事件)

第5回: 損害賠償請求権の益金計上時期/When to record revenue for claims for damages

⑤東京高裁平成21年2月18日判決 (日本美装事件)

第6回: 原価の見積/Cost estimation

⑥最高裁平成16年10月29日判決 (牛久市売上原価見積事件)

第7回: 減価償却/Depreciation amount of deferred assets

⑦最高裁平成20年9月16日判決 (NTTドコモ事件)

第8回: 脱税経費の損金性/Deductibility of tax evasion expenses

⑧最高裁平成6年9月16日決定 (エス・ブイ・シー事件)

第9回: 役員給与/Salary, etc. of Executive Officers

⑨東京高裁平成25年3月14日判決 (事前確定届出給与)

第10回: 交際費/Social expense

⑩東京高裁平成15年9月9日判決 (萬有製薬事件)

第11回: 貸倒損失/Bad debt losses

⑪最高裁平成16年12月24日判決 (日本興業銀行事件)

第12回: 租税回避/Tax avoidance

⑫最高裁平成18年1月24日判決 (フィルム・リース事件)

第13回: 組織再編税制と行為計算否認/Denial of conduct and calculations in Reorganization tax system

⑬最高裁平成28年2月29日判決 (ヤフー事件)

第14回: 同族会社の行為計算否認/Denial of conduct and calculations of family company

⑭東京高裁令和2年6月24日判決 (ユニバーサルミュージック事件)

第15回: 公益法人等の収益事業課税/Taxation on profit business of public corporations

⑮東京高裁平成16年11月17日判決 (流山事件)

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

事例発表 (40%) 及び講義への貢献度等平常点 (60%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

租税法 (第二十四版)	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
租税判例百選 (第7版)	中里実ほか	有斐閣	2021	978-4-641-11553-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:各回の発表担当者は、その題材に関する発表用レジュメを作成し、GoogleClassroom に投稿する。発表者以外の者は、各回、その題材に関する判決、評釈等の事前掲示資料及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメを読み、自己の意見や疑問点などを整理しておく。

復習:各回の講義で検討した内容をレビューし整理する。

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：税法一般及び法人税法に関する基礎的な知識があれば望ましい。
- ・なお、本講義は、法人税法 1 での学習内容の理解の定着・深化の一助になるため、法人税法 1 受講者には特に推奨する。
- ・本講義では、裁判例を題材に、法人税法上の主要項目について、全員で討議を行う。
- ・その前提として、各題材に関する GoogleClassroom への事前掲示資料等を基に、受講者が発表担当者として事件概要、適用法令、争点、判決要旨及び判決への賛否等についてレジュメを作成し、発表する。(一人当たりの担当回数は受講人数に応じて決めるが、一応の目安は 3 回～4 回。詳細は講義の中で指示する。)
- ・事例の割り振りを第 1 回講義において決定するため、受講を考える者は、必ず出席すること。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

会計職業倫理／Accounting Profession Ethics

担当教員 [Instructor] : 加藤 暢一／NOBUKAZU KATOU

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC512J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

不正の実態、原因を調べ、会計職業倫理の必要性を考え、会計職業倫理の基本的な理論、制度、実務を理解する。会計プロフェッションとして確固たる強い職業倫理をもって、監査、税務、コンサルティング、組織の経理など実務で活躍することをめざす。

We study the actual condition and cause of injustice, and the necessity of Accounting Professional Ethics. And we understand the basic theory, institution, and business about the Accounting Professional Ethics.

We will be the Accounting Professional, we maintain the strong Ethics, and we make the excellent auditors, tax accountants, consultants, accountants.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

不正の実態、原因、不正防止の仕組みと会計職業倫理の必要性を考え、会計職業倫理の基本的な理論、制度、実務を理解する。

We study the actual condition and cause of injustice, and the necessity of Accounting Professional Ethics. And we understand the basic theory, institution, and business about the Accounting Professional Ethics.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

・講義では、多くの写真、イラスト、図表を使い、できる限り分かりやすく実感できるように解説し、理解を深める。さらに、2 回のグループ別ディスカッション、ミニレポート作成、中間レポート、期末レポートの作成をして、総合解説をする。

・目次

第1回：オリエンテーション／Orientation

なぜ会計職業倫理が必要なのか、会計職業倫理とは、講義の進め方、成績評価、学習方法をみる。

第2回 なぜ不正がなくなるのか／Why the Injustices will never cease?

なぜ不正がなくなるのか、まず不正の実態、原因、不正事例などをみる。

第3回 不正を防止する仕組みとは／The Structure of Injustice Prevention

不正を防止する仕組みとして、①内部統制②コンプライアンス③コーポレートガバナンスなどをみる。

第4回 なぜ会計職業倫理が必要か／Why the Accounting Professional Ethics is necessary?

なぜ会計職業倫理が必要なのか、まず倫理学と会計職業倫理の内容（理論、法令、実務）の概要をみる。

第5回 過去の事例にもとづくグループ別ディスカッション、グループ別ミニレポート作成、解説／The discussion and mini report based on the past case study.

いままでの講義をふまえて具体的な事例にもとづくグループ別ディスカッション、ミニレポートを作成し、考える。

第6回 倫理学の基本、倫理とは、倫理学とは（理論1）／The Base of Ethics

アリストテレス、カントなど倫理学、各種の思想、各分野の倫理（医療、法曹、会計職業倫理など）をみる。

第7回 会計職業倫理における主なテーマ（理論2）／The main theme about the Accounting Professional Ethics

会計職業倫理の主なテーマとは、プロフェッション、独立性、正当な注意、品質の保持など11項目をみる。

第8回 中間レポート作成、総合解説／The Interim Report and synthetic explanation.

ここまでの講義にもとづき、事前に中間レポートを作成いただき、総合解説をおこなう。

第9回 法令、規則における会計職業倫理（制度1）／The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations (1)

なぜ法令、規則が必要か、倫理規則の1章. 総則の内容をみる。

第10回 法令、規則における会計職業倫理（制度2）／The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations (2)

問題が生じた時、概念的枠組みアプローチ等による判断についてみる。

第11回 監査法人における会計職業倫理の取組（実務1）／The Accounting Professional Ethics in the accounting firm (1)

監査法人等の中なかでどのような実務の取組をしているのかをみる。

第12回 監査法人における会計職業倫理の取組（実務2）／The Accounting Professional Ethics in the accounting firm (2)

監査法人等の会計職業倫理にかんする実務で、組織風土、品質管理、研修などをみる。

第13回 企業内会計士(PAIB)と会計職業倫理／The Accounting Professional Ethics about Professional Accountants in Business

企業で働く企業内会計士に必要な会計職業倫理とは何か、ロールプレイングもしながら考える。

第14回 過去の事例にもとづくグループ別ディスカッション、グループ別ミニレポート作成、解説／The discussion and mini report based on the past case study.

いままでの講義をふまえて過去の不正事例にたいしグループ別ディスカッション、ミニレポートの作成をする。

第15回 期末レポート作成、総合解説／The final report and synthetic explanation.

いままでの全ての講義をふまえて、事前に期末レポート作成いただき、総合解説をおこなう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義への参加、貢献（発言等）、2 回のグループ別ディスカッションとミニレポート、中間レポート作成（50%）、期末レポート（50%）で評価する。

AA(90 点以上)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満：不合格)。なお、レポートの評価基準は、①理解の正確性、②論点の的確性と網羅性、③論文の的確性とする。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

標準テキスト会計専門職の職業倫理	会計大学院「職業倫理」研究会(著)	同文館出版	2023年
公認会計士倫理読本—国際的な信頼を得るための鍵会計プロフェッションの信頼の礎(平成28年増補版)	八田進二	財経詳報社	2016年
会計プロフェッションの職業倫理—教育・研修の充実を目指して(日本監査研究学会リサーチ・シリーズ)	藤沼亜紀(編著)	同文館出版	2012年

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習：事前にレジメを通読しておくなどすると確実に理解しやすくなるので、できる限り予習を行うことが望ましい。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

会計の基本知識があることが望ましい。

監査業務等の状況により一部オンラインオンデマンド併用になることもある。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

事例研究 (会計職業倫理) / Case Study (Accounting Profession Ethics)

担当教員 [Instructor]: 加藤 暢一 / NOBUKAZU KATOU

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC621J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

会計実務において、なぜ会計職業倫理が必要か、どのような内容か、できるだけ多くの具体例、不正事例もみながら、より深く実感できる会計職業倫理を理解し、確実に身につける。

そして確固たる強い会計職業倫理をもって、監査、税務、コンサルティング、組織の経理など実務で活躍することをめざす。

In the Accounting, we realize the Accounting Professional Ethics with the understanding of case study ,why we need it, and what is the content.

We will be the Accounting Professional ,we maintain the strong Ethics ,we make the excellent auditors, tax accountants, consultants, accountants.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

会計実務において、なぜ会計職業倫理が必要か、どのような内容か、できるだけ多くの具体例、不正事例もみながら、より深く実感できる会計職業倫理を理解し、確実に身につける。

In the Accounting, we realize the Accounting Professional Ethics with the understanding of case study ,why we need it, and what is the content.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

オンラインオンデマンドで全ての授業をおこなう。講義 60 分では分かりやすく解説をして、残り 30 分で毎回 (第 3 回から 5 回、7 回から 14 回) に具体例によるグループ別ディスカッションとミニレポート作成、ロールプレイング、中間と期末でポートの作成提出と総合解説を行う。

進度予定

第 1 回 オリエンテーション / Orientation

なぜ会計職業倫理が必要か、会計職業倫理の事例をみて、講義の進め方、成績評価、学習方法を説明する。

第 2 回 なぜ不正がなくならないのか、事例等 / Why the Injustices will never cease , by the lecture and case study .

なぜ不正がなくならないのか、まず不正の実態、原因の説明、2 つの不正事例について学ぶ。

第 3 回 不正を防止する仕組み、事例等 / The Structure of Injustice Prevention , by the lecture and case study mini report ,discussion.

不正防止の仕組みとして、内部統制、コーポレートガバナンスなどの説明、具体例、事例について学ぶ。

第 4 回 なぜ会計職業倫理が必要か、事例等 / Why the Accounting Professional Ethics is necessary , by the lecture and case study mini report ,discussion.

まず倫理学と会計職業倫理の内容 (理論、法令、実務) の概要の説明、具体例について学ぶ。

第 5 回 過去の不正事例によるグループ別ディスカッションとミニレポート作成 / The past case study mini report ,discussion.

講義をふまえて具体的事例にかんするグループ別ディスカッション、ミニレポートを作成して、考える。

第 6 回 中間におけるレポートの作成、総合解説 / The Interim Report and synthetic explanation.

講義にもとづき、事前に中間レポートを作成いただき、総合解説をおこなう。

第 7 回 倫理学の基本、倫理とは、倫理学とは、事例等 / The Base of Ethics , by the lecture and case study mini report ,discussion.

アリストテレスなど倫理学、各種の思想、各分野の倫理 (医療、法曹、会計職業倫理等)、具体例を学ぶ。

第 8 回 会計職業倫理における主なテーマ、事例等 / The main theme about the Accounting Professional Ethics , by the lecture and case study mini report ,discussion.

主なテーマであるプロフェッション、独立性、正当な注意、品質保持など、具体例、事例を学ぶ。

第 9 回 法令、規則における会計職業倫理 (1)、事例等 / The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations , by the lecture and case study mini report ,discussion. (1)

なぜ法令、規則が必要か、倫理規則の 1 章、総則の内容を説明、具体例、事例を学ぶ。

第 10 回 法令、規則における会計職業倫理 (2)、事例等 / The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations , by the lecture and case study mini report ,discussion. (2)

問題が生じた時、概念的枠組みアプローチ等による判断を説明、具体例、事例を学ぶ。

第 11 回 監査法人の実務における会計職業倫理の取組 (1)、事例等 / The Accounting Professional Ethics in the accounting firm , by the lecture and case study mini report ,discussion. (1)

監査法人等の実務における監査業務、会計職業倫理にかんする取組、具体例、事例を学ぶ。

第 12 回 監査法人の実務における会計職業倫理の取組 (2)、事例等 / The Accounting Professional Ethics in the accounting firm , by the lecture and case study mini report ,discussion. (2)

監査法人等の実務における取組で、特に組織風土、品質管理、研修などの具体例、事例を学ぶ。

第 13 回 企業内会計士の会計職業倫理、事例等 / The Accounting Professional Ethics about Professional Accountants in Business , by the lecture and case study mini report , discussion and role playing.

企業で働く企業内会計士の会計職業倫理は何かを説明、具体例でロールプレイングもしながら学ぶ。

第 14 回 過去の不正事例等によるグループ別ディスカッションとミニレポート作成 / The past case study mini report ,discussion.

講義をふまえて過去の不正事例にたいしグループ別ディスカッション、ミニレポートの作成をする。

第 15 回 期末におけるレポートの作成、総合解説 / The final report and synthetic explanation.

これまでの全ての講義をふまえて、事前に期末レポート作成いただき、総合解説をおこなう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義への参加、貢献（発言等）とグループ別ディスカッション、ミニレポート作成提出（50%）、中間・期末レポートの作成提出（50%）で評価する。

AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満：不合格)

なお、レポートの評価基準は、①理解の正確性、②論点の的確性と網羅性、③論文の的確性とする。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

標準テキスト会計専門職の職業倫理	会計大学院「職業倫理」研究会（著）	同文館出版	2023年
『公認会計士倫理読本—国際的な信認を得るための鍵会計プロフェッションの信頼の礎（平成28年増補版）』	八田進二	財経詳報社	2016年
『会計プロフェッションの職業倫理—教育・研修の充実を目指して（日本監査研究学会リサーチ・シリーズ）』	藤沼亜紀（編著）	同文館出版	2012年

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習：事前にレジュメを通読し、ある程度の問題意識を感じ取るなどできるだけ予習を行うことが望ましい。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：会計に関する基本知識があることが望ましい。原則として、全ての授業をオンラインオンデマンドで行う。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

ビジネス・コミュニケーション1 / Business Communication 1

担当教員 [Instructor] : ROMAN RAYMOND SC / ROMAN RAYMOND SCOTT

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM630E, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

The purpose of this course is to increase your business communication knowledge and abilities. We will discuss a variety of business communication topics, with a focus on improving practical communication skills.

We will use Google Classroom (x27scsd) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

At the end of this course you will have a better understanding of international business communication. You will be able to perform more effectively in a wide range of business situations as both an individual and team member.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

Contents and progress schedule of the class:

To prepare for each class you will have a reading assignment and sometimes a written homework assignment. Often you will work with other students in small groups, discussing the homework assignment or doing other activities. We will have many opportunities to practice discussion and presentation skills during class time.

- 1: Introduction
- 2: Business Writing (homework = 5 points)
- 3: Team Communication Effectiveness (homework = 5 points)
- 4: Leadership Communication (homework = 5 points)
- 5: Rhetoric and Public Speaking (homework = 5 points)
- 6: Presentation Preparation (homework = 5 points)
- 7: Confirmation of understanding
- 8: Presentation Performance (homework = 10 points)
- 9: Student Presentations-a (practice) and/or video on presentation skills
- 10: Student Presentations-b (practice)
- 11: Student Presentations-a (evaluated)
- 12: Student Presentations-b (evaluated)
- 13: Student Presentations (continued)
- 14: Student Presentations (continued)
- 15: Review of student presentations, Summary of Course and Q&A

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

Evaluation Method:

Homework 35% Comprehension-level Check 25%* Presentation 30% Participation 10%

*The confirmation of understanding will be in class.

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

Students should

- ・ Be prepared for each class
- ・ Complete all assignments completely and on time
- ・ Participate effectively and energetically in class exercises
- ・ Give best effort in all activities

10. その他 [In addition] :

There is no textbook. Materials will be distributed by Google Classroom / email.

Office hours: Thursday 13:30-14:30 or by appointment (Please send email beforehand.)
Email: ray.roman.b6[at]. . .

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)
https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

ビジネス・プレゼンテーション1 / Business Presentation 1

担当教員 [Instructor] : ROMAN RAYMOND SC / ROMAN RAYMOND SCOTT

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM631E, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

The purpose of this course is to increase your business presentation knowledge and abilities. We will discuss a variety of business presentation topics, with a focus on improving practical presentation skills. We will study and practice the two most basic kinds of business presentations: the informative presentation and the persuasive presentation. We will use Google Classroom (3chk2dh) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

At the end of this course you will have a greater ability to present information and persuade listeners. Through practicing English-language presentations for international audiences, you will acquire skills and gain confidence that can help you in any business or academic setting.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

Contents and progress schedule of the class:

Class 1:	Introduction
Class 2:	Presentation Preparation
Class 3:	Presentation Performance
Class 4:	Presentation 1 planning meetings
Class 5:	Student Presentations 1-a Practice
Class 6:	Student Presentations 1-b Practice
Class 7:	Student Presentations 1-a Evaluated
Class 8:	Student Presentations 1-b Evaluated
Class 9:	Presentation 2 planning meetings
Class 10:	Student Presentations 2-a Practice
Class 11:	Student Presentations 2-b Practice
Class 12:	Student Presentations 2-a Evaluated
Class 13:	Student Presentations 2-b Evaluated
Class 14:	Review: applying new skills to new speeches
Class 15:	Summary of learnings and suggestions for future study

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

Homework: (2)	20%
Presentation 1:	30%
Presentation 2:	40%
Participation:	10%

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- Students should
- Be prepared for each class
 - Complete all assignments completely and on time
 - Participate effectively and energetically in class exercises
 - Give best effort in all activities

10. その他 [In addition] :

There is no textbook. Materials will be distributed by Google Classroom / email.

Office hours: Thursday 13:30-14:30 or by appointment (Please send email beforehand.)

Email: ray.roman.b6[at]. . .

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

ビジネス・コミュニケーション2 / Business Communication 2

担当教員 [Instructor] : ROMAN RAYMOND SC / ROMAN RAYMOND SCOTT

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM632E, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

The purpose of this course is to increase your business communication and English knowledge and abilities relating to business. We will discuss and practice assertiveness, negotiation and discussion skills, with a focus on improving practical English communication vocabulary and skills. We will use Google Classroom (xvpp53i) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

At the end of this course you will have a better understanding of international business communication. You will be able to perform more effectively in a wide range of business situations as both an individual and team member.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

The method of instruction will be in-person or hybrid, TBA. Tentative schedule:

1. Introduction: Course explanation and Q/A
2. Introduction to Assertiveness
3. Practice Scenario 1
4. What is Effective Negotiation? Two Key Ideas
5. Practice Scenario 2 & Two More Key Negotiation Ideas
6. Practice Scenario 3 & Review and Q/A
7. Confirmation of Understanding
8. Additional Reading 1
9. Additional Reading 2
10. Practice Scenario 4 & Introduction to Group Presentation
11. Paper Check-In 1: Your Main Idea and Outline
12. Presentation Check-in: Role allocations and draft slideshows
13. Paper Check-In 2: Your Draft; Presentation Q/A
14. Presentations by Groups: Key Points of Paper
15. Group presentations, continued; Paper due; What did we learn? Comments; Q&A

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

Paper: 25% Comprehension-level Check: 30%* Presentation: 35% Participation 10% * There will be a 90-minute, during-class confirmation of your understanding.

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Getting To Yes: Negotiating An Agreement Without Giving In	Fisher	Ury and Patton	2012 Ed	9781847940933
--	--------	----------------	------------	---------------

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- Students should
- ・ Be prepared for each class
 - ・ Complete all assignments completely and on time
 - ・ Participate effectively and energetically in class exercises
 - ・ Give best effort in all activities

10. その他 [In addition] :

Other materials will be provided as needed.

Office hours: Thursday 13:30-14:30 or by appointment (Please send email beforehand.)

A minimum number of four students required to hold the class. However, meeting time and day may be flexible, so

if you are interested but have a schedule problem, contact the instructor in advance.

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

ビジネス・プレゼンテーション2 / Business Presentation 2

担当教員 [Instructor] : ROMAN RAYMOND SC / ROMAN RAYMOND SCOTT

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM633E, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

The purpose of this course is to improve your business presentation skills beyond the basics. We will discuss a variety of business presentation topics, with a focus on improving practical presentation skills. Our focus will be on advanced presentations useful in business and academia. Depending on the number of students enrolled, projects may include persuasive speeches, factual reports with Q&A, team presentations, business proposals and reports on technical developments or research papers. We will use Google Classroom (gu6hg4d) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

At the end of this course you will have a greater ability to present information and persuade listeners. Through practicing English-language presentations for international audiences, you will acquire skills and gain confidence that can help you in any business or academic setting.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

Contents and tentative schedule of the class:

Class 1 : Introduction & Review of Speaking Preparation and Performance

Class 2 : Persuasive Presentation Preparation

Class 3 : Presentation Meetings 1

Class 4 : Presentation 1: Practice and Review

Class 5 : Presentation 1: Evaluated

Class 6 : Factual Report with Q&A Preparation

Class 7 : Presentation Meetings 2

Class 8 : Presentation 2: Practice and Review

Class 9 : Presentation 2: Evaluated

Class 10 : Proposal or Group Presentation Preparation

Class 11 : Presentation 3: Practice and Review

Class 12 : Presentation 3: Evaluated

Class 13 : Technical Update or Technical Paper Preparation

Class 14 : Presentation 4: Practice and Review

Class 15 : Presentation 4: Evaluated; summary of learnings and suggestions for future study

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

Homework: 10%
Presentations: 80%
Participation: 10%

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

Students should

- ・ Be prepared for each class
- ・ Complete all assignments completely and on time
- ・ Participate effectively and energetically in class exercises
- ・ Give best effort in all activities

10. その他 [In addition] :

NOTES:

1. Students should (a) take Business Presentation 1 or Business Communication 1 before taking this class or (b) seek the instructor's permission before registering for this class.

2. Number and types of speech projects may change depending on the number of students enrolled and their study interests.
3. A minimum number of four students required to hold the class. However, meeting time and day may be flexible, so if you are interested but have a schedule problem, contact the instructor in advance.
4. There is no textbook. Materials will be distributed by Google Classroom / email.

Office hours: Thursday 13:30-14:30 or by appointment (Please send email beforehand.)

Email: ray.roman.b6[at]. . .

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

英文外書講読 b/Academic Reading b

担当教員 [Instructor]: 大西 敢二郎/KANJIRO ONISHI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 火曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN604J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義の目的は、国際機関や欧米の政府機関が公表している経済・金融関係についての報告書等（原文）を読み、それらの報告書等が提起する近年の世界経済、金融に関する問題などを理解することである。なお、本講義は「英語」自体を学習するものではないので、その点については十分に注意すること。

The aim of this lecture is to read the publications/reports on the recent economic and financial issues published by the international organizations and US/EU administrations. And students will understand these issues and insights. Please note that this lecture does not teach "English" itself.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

国際機関や欧米の政府機関が公表している経済・金融関係についての報告書等（原文）の読解に必要な基礎知識を修得する。近年の世界経済情勢を理解する。

Students acquire basic knowledge about the publications/reports on the recent economic and financial issues published by the international organizations and US or EU administrations, and also understand the recent economic topics.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、参考資料として使用する各報告書等、成績評価等について説明する。

第2回 日本銀行・展望レポート（英訳版）等の理解。発表の仕方の説明/Reading Outlook for Economic

Activity and Prices(English version), Bank of Japan, and explain how each student will make a presentation.

第2回までに、教員が第3～15回の発表用として、各受講者に担当する各報告書を割当てる。受講者は、各回の講義で担当する報告書（全文ではない。授業で扱う範囲は教員より指定する）の概要や自身の考えについて発表用の資料を作成の上、発表を行う。また、発表する資料の範囲以外においても、受講者に資料の音読と英文和訳してもらいながら、資料の内容について理解する形式で進める。

Instructor will assign the target-publications to the students, and students should make presentations on the assigned publication in each session (from session 3 to session 15). All students should participate in reading and translation parts in each session, and understand its contents.

授業内容および進め方は受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

第3回から15回まで予定している各報告書（英語原文、なお、最新のものではなく教員が指定する年月日に発行したものを使用する予定）は以下の通り。なお、講義の進捗状況によって、変更はあり得る。

Depending on the actual numbers of students, way of progressing and etc, instructor may change the above mentioned format, if necessary.

第3回 IMF: 世界経済見通し WEO

第4回 IMF: 国際金融安定性報告書 GFSR

第5回 IMF: 4条協議文書（対日本）ARTICLE IV consultaion(Japan), IMF

第6回 世界銀行: 世界経済見通し WB, Global Economic Prospects

第7回 世界銀行: WB, Investigation of Data Irregularities in Doing Business 2018 and Doing Business 2020 など

第8回 ADB: アジア開発見通し Asian Development Outlook

第9回 AMRO: ASEAN+3 地域経済見通し ASEAN+3 Regional Economic Outlook (AREO)

第10回 米国: 一般教書演説 US, The State of the Union Address

第11回 米国: 予算教書 US, Budget of the U.S. Government FY2024

第12回 米国: 議会予算局 長期財政推計 US, The Long-term Budget Outlook

第13回 米国・FRB: FOMC Statement、Beige Book

第14回 EU: 欧州理事会 結論文書 など European Council meeting Conclusions, etc

第15回 G20 首脳会合、G20 財務大臣会合、まとめ G20 Declaration, etc

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

・平常点（各回の課題、発言、他の受講生の発表への貢献度）60%、発表内容40%で評価する。

・AA (90点以上), A (80点以上90点未満), B (70点以上80点未満), C (60点以上70点未満), D (60点未満; 不合格)
60%: assignments and contributions to each session with exchanging views etc, 40%: presentations

AA:over 90 points, A:between 80-89 points,

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL] :

全ての資料は各国際機関、政府機関のホームページ上に無料で公表・掲載されている。ただし、授業でしよう予定の資料は、最新のものではなく、教員の準備の必要から特定の年月に発行したものである。事前に Google Classroom に掲載する。そのため、それらを事前に目を通しておくこと。また各ホームページ上で最新の報告書を読み、知識を深めることも推奨する。

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・ウェブサイト上の各国際機関等の資料その他参考となる資料を読んでおくこと。
- ・資料を読み、和訳を行うこと。これは発表資料の作成以外においても行うこと。
- ・資料を読み直し、内容の理解を深めること。
- ・google classroom を使用予定であり、資料等はそこに掲載する。

10. その他 [In addition] :

- ・受講者には、担当資料の発表の準備や、担当以外の回においても音読と和訳を実施してもらう。そのため、予習に相当程度の時間が必要となることを理解すること。
- ・経済・金融分野の英語資料を普段読んでいない場合はかなりの時間を費やす必要があることに留意すること。
- ・英語から日本語への対応を目指す科目のため、留学生は、本科目を履修することの必要性について慎重に判断すること。
- ・受講者数によっては、受講数を制限する可能性がある。
- ・対面授業であり、オンライン・オンデマンド配信は行わない。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

ワークショップ a / Workshop a

担当教員 [Instructor] : 荻原 啓佑 / KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM640J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、受講生が研究や仕事で質問紙を作成するにあたって、必要な知識を提供することを目的とする。講義では、受講生は、質問紙法の調査デザインと質問紙デザインの技法を学び、関心のあるテーマで質問紙を作成する。

The purpose of this lecture is to provide students with the knowledge necessary to develop questionnaires for their research and work. In the lecture, students will learn research design and questionnaire design techniques, and design a questionnaire on a topic of interest.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

質問紙法におけるリサーチ・リテラシーの基礎を習得し、質問紙を自身で作れるようになること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

本講義の目的、受講方法、成績評価方法を説明する。さらに、質問紙とは何かについて概説する。

第2～5回：質問紙法を用いた調査のデザイン / Research design using questionnaire

質問紙法の基礎、調査プロセス、データ収集とサンプリングの技法について講義する。

第6～7回：調査案の発表 / Presentation of research plan

調査案について発表してもらいます。

第8回：調査に向けた準備 / Research preparation

質問紙法による調査を成功させるために必要な準備と倫理的配慮について講義する。

第9～14回：質問紙のデザイン / Questionnaire design

質問紙デザインの基礎、質問紙の構成と体裁、質問の種類と作成の際の注意点について講義する。

第15回：質問紙の発表 / Presentation of questionnaire

作成した質問紙を発表してもらいます。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

報告による平常点 (40%) と最終課題 (60%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

質問紙デザインの技法 [第2版]	鈴木淳子	ナカニシヤ出版	2016	978-4779510755	教科書
会計学の研究方法	マルコム・スミス (著)	中央経済社	2015	978-4502134616	参考書
会計学の手法 (第2版)	田村威文・中條祐介・浅野信博	中央経済社	2021	978-4502379314	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

教科書の指定した箇所を講義前に読んでおくこと。また、必要に応じて文献レビューなどの事前準備も行なってもらう。回によっては報告準備も行う必要もある。

10. その他 [In addition] :

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

ワークショップ b / Workshop b

担当教員 [Instructor] : 木村 史彦 / FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 月曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM641J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、財務会計・監査等に関連する実際のデータを分析することを通じて、主に財務データ処理能力および(統計的な)分析能力を高めることを目的とします。また、こうした分析に必要な統計、計量経済学に係る最低限の知識の習得も目指します。

The purpose of this course is to improve the ability to process and analyze financial data mainly by analyzing actual data related to financial accounting and auditing. We also aim to acquire the minimum knowledge of statistics and econometrics necessary for such analysis.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

データベース・公表データを活用して、みずから財務データを分析できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 オリエンテーション / Orientation

講義の概要について説明するとともに、財務データベースの現状について説明する。

第2回 本講義で分析を進めるテーマの概観(利益マネジメントと粉飾) / Overview of the theme

利益マネジメントと粉飾に係る研究を概観する。

第3回 本講義で分析を進めるテーマの概観(会計情報の時系列特性) / Overview of the theme

会計情報の時系列特性に係る研究を概観する。

第4回 本講義で分析を進めるテーマの概観(会計情報の価値関連性) / Overview of the theme

会計情報の価値関連性に係る研究を概観する。

第5回 実証分析の基礎 ① 財務データの収集 / Collecting financial data

財務データの収集・整理の方法を学習する。

第6回 実証分析の基礎 ② 財務データの分析 / Analyzing financial data

財務データの基本的な集計手法について学習する。

第7回 実証分析の基礎 ③ 平均値の差の検定・分散分析 / t-test and analysis of variance

平均値の差の検定および分散分析の手法について学習する

第8回 実証分析の基礎 ④ 単回帰分析 / Simple regression

単回帰分析の手法について学習する

第9回 実証分析の基礎 ⑤ 重回帰分析 / Multiple regression

重回帰分析の手法について学習する

第10回 実証分析の実践 ① / Practice (1)

実習課題に取り組む

第11回 実証分析の実践 ② / Practice (2)

実習課題に取り組む

第12回 実証分析の実践 ③ / Practice (3)

実習課題に取り組む

第13回 成果報告とディスカッション ① / Discussion (1)

実習課題の成果を報告し、討論する。

第14回 成果報告とディスカッション ② / Discussion (2)

実習課題の成果を報告し、討論する。

第15回 成果報告とディスカッション ③ / Discussion (3)

実習課題の成果を報告し、討論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

報告 (50%), レポート (50%) により評価する

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

会計学の手法<第2版>

田村威文等

中央経済社

2021

978-4-502-37931-4

参考書

8. 関連 URL [URL] :

Classroom

<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgzMDY5MjU2?cjc=ifscu6>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習 :

講義回によっては事前にアサインメントを提示する

復習 :

宿題 (課題) を提示するので、それに取り組む

10. その他 [In addition] :

- ・本科目はビジネスアカウンティングコースの方を対象として開講されますが、受講者上限の範囲内である場合には、他コースの方の受講も認めます。
- ・実習を伴うため、受講者数に制限をかける可能性があります。
- ・講義内容および進め方は受講生の理解度や人数に応じて変更します。また、具体的に扱うテーマは、第1回講義時に学生と協議して決定する。
- ・ファイルのやりとりや連絡はClassroomを通じて実施します (関連 URL 参照)。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (財務諸表) a / Project Research (Financial Statements) a

担当教員 [Instructor] : 尾関 規正 / NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC640J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、財務会計や監査に関する実証研究を主な対象として、先行研究で明らかになっている知見や将来に向けた課題を調査するとともに、適切な研究手法を学習することを目的とします。

/ The purpose of this course is to review the previous studies and to understand the findings and issues for the future, focusing primarily on empirical research in financial accounting and auditing, and to learn the research methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

目標は、学生の関心のあるテーマに関する先行研究で明らかになっている知見やまだわかっていない課題を明らかにするとともに、適切な研究手法を学習することである。

/ The goal is to clarify findings from previous literature on topics of interest to the students, to identify his/her research questions, and to learn research methods for that.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

授業は対面により行います。なお、詳細は Google Classroom でお知らせします。

各回の授業では、事前に設定された課題に対して、受講者が調査した内容を報告し、担当教員や他の受講者と報告内容について議論します。必要に応じて、担当教員が内容を補足します。

受講者は各回の授業で報告をするための報告資料を作成します。授業での報告を終えた後、得られたコメントを踏まえて報告資料を改訂するとともに、次の回の課題の調査に取り組みます。

教科書は使用しません。参考となる文献については受講者の関心に応じて講義の中で指示します。

なお、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各受講者の理解度に応じて進めます。

授業は概ね以下に沿って行います。なお、進度については受講者と相談して決定します。

- ・受講者が自身の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関する先行研究を調査し、研究動向や研究手法を理解します。

- ・また、先行研究を通じて既知の内容と残された課題を体系的に整理し、自身の問題意識や仮説を明確にしながら、自身の問題意識や仮説に対する分析に必要な研究手法を学習します。

- ・学期の終わりに、本講義を通じて報告した内容をまとめた課題レポートを提出します。

/ Classes will be face-to-face. Details will be announced via Google Classroom.

In each class, students will report on their research on their own topics and discuss their reports with other students. If necessary, I will provide supplementary explanations for the report.

Students will prepare materials for their reports before each class. After reporting in class, students will revise and resubmit their report materials based on the comments received.

I will not use textbooks for this course. Reference materials will be shown in class based on student interest. The class will be conducted according to each student's level of understanding.

Classes will be conducted according to the following. The progression of the course will be decided in consultation with the students.

- ・Students will choose a research topic of their own interest and review previous literature on the topic to understand research trends and methods.

- ・Students will systematically review previous literature for what is known from previous research and for remaining open questions, identify their own research question and hypotheses, and learn the research methods to analyze their own research question and hypotheses.

- ・At the end of the semester, students will submit an assignment report summarizing what they have reported in this course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

報告、報告資料、他の報告に対するコメント、期末レポートにもとづいて評価します。

AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満 ; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

本講義のクラスルームのクラスコードは「pqvicgj」です。
<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgyNzYxNjI0>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

授業時間前までに、授業において調査内容を報告する準備を行い、報告資料を作成します。また、他の履修者の報告にコメントする事前準備を行います。

授業時間の後は、授業内で受けたコメントを踏まえて報告資料を改訂して提出します。

10. その他 [In addition] :

この講義では財務会計や監査に関する基礎知識を前提とします。また、実証研究の理解に必要な統計学や計量経済学の基礎的な知識や、ある程度の英文読解力があると、文献調査を進める際に役立ちます。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (財務諸表) b / Project Research (Financial Statements) b

担当教員 [Instructor] : 尾関 規正 / NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC641J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、財務会計や監査に関する実証研究を主な対象として、先行研究で明らかになっている知見や将来に向けた課題を調査するとともに、適切な研究手法を学習することを目的とします。

/ The purpose of this course is to review the previous studies and to understand the findings and issues for the future, focusing primarily on empirical research in financial accounting and auditing, and to learn the research methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

目標は、学生の関心のあるテーマに関する先行研究で明らかになっている知見やまだわかっていない課題を明らかにするとともに、適切な研究手法を学習することである。

/ The goal is to clarify findings from previous literature on topics of interest to the students, to identify his/her research questions, and to learn research methods for that.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

授業は対面により行います。なお、詳細は Google Classroom でお知らせします。

各回の授業では、事前に設定された課題に対して、受講者が調査した内容を報告し、担当教員や他の受講者と報告内容について議論します。必要に応じて、担当教員が内容を補足します。

受講者は各回の授業で報告をするための報告資料を作成します。授業での報告を終えた後、得られたコメントを踏まえて報告資料を改訂するとともに、次の回の課題の調査に取り組みます。

教科書は使用しません。参考となる文献については受講者の関心に応じて講義の中で指示します。

なお、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各受講者の理解度に応じて進めます。

授業は概ね以下に沿って行います。なお、進度については受講者と相談して決定します。

- ・受講者が自身の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関する先行研究を調査し、研究動向や研究手法を理解します。

- ・また、先行研究を通じて既知の内容と残された課題を体系的に整理し、自身の問題意識や仮説を明確にしながら、自身の問題意識や仮説に対する分析に必要な研究手法を学習します。

- ・学期の終わりに、本講義を通じて報告した内容をまとめた課題レポートを提出します。

/ Classes will be face-to-face. Details will be announced via Google Classroom.

In each class, students will report on their research on their own topics and discuss their reports with other students. If necessary, I will provide supplementary explanations for the report.

Students will prepare materials for their reports before each class. After reporting in class, students will revise and resubmit their report materials based on the comments received.

I will not use textbooks for this course. Reference materials will be shown in class based on student interest. The class will be conducted according to each student's level of understanding.

Classes will be conducted according to the following. The progression of the course will be decided in consultation with the students.

- ・Students will choose a research topic of their own interest and review previous literature on the topic to understand research trends and methods.

- ・Students will systematically review previous literature for what is known from previous research and for remaining open questions, identify their own research question and hypotheses, and learn the research methods to analyze their own research question and hypotheses.

- ・At the end of the semester, students will submit an assignment report summarizing what they have reported in this course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

報告、報告資料、他の報告に対するコメント、期末レポートにもとづいて評価します。

AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満 ; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

本講義のクラスルームのクラスコードは「kz3iqgb」です。
<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgyMzk4NDQz>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

授業前は、授業において調査内容を報告する準備を行い、報告資料を作成します。また、他の履修者の報告にコメントする事前準備を行います。

授業後は、授業内で受けたコメントを踏まえて報告資料を改訂して提出します。

10. その他 [In addition] :

この講義では財務会計や監査に関する基礎知識を前提とします。また、実証研究の理解に必要な統計学や計量経済学の基礎的な知識や、ある程度の英文読解力があると、文献調査を進める際に役立ちます。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (財務諸表) a/Project Study (Financial Statements)a

担当教員 [Instructor]: 尾関 規正/NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC642J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、財務会計や監査を主な対象領域とした研究テーマに基づいて、受講者がリサーチ・ペーパーを執筆することを目的とします。

/ The objective of this course is for students to write a research paper based on a research topic with a focus on financial accounting and auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

目標は、受講者が自身の研究テーマに基づいて、リサーチ・ペーパーを執筆することである。

/ The goal is for students to write a research paper based on their own research topic.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業は対面により行います。なお、詳細は Google Classroom でお知らせします。

受講者が自身の研究テーマに沿ってリサーチ・ペーパーを執筆し、各回においてその進捗を報告します。リサーチ・ペーパーの内容について担当教員との議論を通じて疑問を解消し、改訂すべきポイントを特定します。

受講者は各回の授業での報告を通じてリサーチ・ペーパーの内容に必要な先行研究のレビュー、仮設の設定、分析、結果の検討を段階的に行ったうえで、原稿を執筆します。

なお、教科書は指定しません。授業において受講者の関心に応じた参考文献を指示します。また、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各自の理解度に応じて進めます。

/ Classes will be face-to-face. Note that I will post details in Google Classroom.

Students will write a research paper on their own research topic and report on their progress in each class session. Students will also discuss their research papers in order to resolve any questions and identify revisions.

Students will review previous literature, develop hypotheses, analyze, and discuss the results of the research paper step by step through the reports in each class session, and then write the paper.

I do not use textbooks in this course. References will be provided based on student interest. The course will be conducted in consultation with the students and the instructor, according to each student's level of understanding of research skills.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチ・ペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

本講義のクラスルームのクラスコードは「gwawmw3」です。

<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgyNzA3MjU3>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業では受講者が事前に準備したリサーチ・ペーパーの原稿に沿って報告を進めます。このため授業の前はリサーチ・ペーパーの原稿を事前に準備する必要があります。授業後は、授業中の報告に対して受けたコメントを踏まえて原稿の内容を再検討し、改訂します。

10. その他 [In addition]:

財務会計や監査に関する基礎知識を前提として授業を進めます。また、実証研究を進めるための統計学や計量経済学の基礎知識、先行研究を調査するための英文読解力と、論文やレポートを執筆するためのライティングスキルを前提とします。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）
https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (財務諸表) b/Project Study (Financial Statements)b

担当教員 [Instructor]: 尾関 規正/NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC643J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、財務会計や監査を主な対象領域とした研究テーマに基づいて、受講者がリサーチ・ペーパーを執筆することを目的とします。

/ The objective of this course is for students to write a research paper based on a research topic with a focus on financial accounting and auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

目標は、受講者が自身の研究テーマに基づいて、リサーチ・ペーパーを執筆することである。

/ The goal is for students to write a research paper based on their own research topic.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業は対面により行います。なお、詳細は Google Classroom でお知らせします。

受講者が自身の研究テーマに沿ってリサーチ・ペーパーを執筆し、各回においてその進捗を報告します。リサーチ・ペーパーの内容について担当教員との議論を通じて疑問を解消し、改訂すべきポイントを特定します。

受講者は各回の授業での報告を通じてリサーチ・ペーパーの内容に必要な先行研究のレビュー、仮設の設定、分析、結果の検討を段階的に行ったうえで、原稿を執筆します。

なお、教科書は指定しません。授業において受講者の関心に応じた参考文献を指示します。また、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各自の理解度に応じて進めます。

/ Classes will be face-to-face. Note that I will post details in Google Classroom.

Students will write a research paper on their own research topic and report on their progress in each class session. Students will also discuss their research papers in order to resolve any questions and identify revisions.

Students will review previous literature, develop hypotheses, analyze, and discuss the results of the research paper step by step through the reports in each class session, and then write the paper.

I do not use textbooks in this course. References will be provided based on student interest. The course will be conducted in consultation with the students and the instructor, according to each student's level of understanding of research skills.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチ・ペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

本講義のクラスルームのクラスコードは「vkd7rgu」です。

<https://classroom.google.com/c/NjQ4MTkyNzY2Mzkw>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業では受講者が事前に準備したリサーチ・ペーパーの原稿に沿って報告を進めます。このため授業の前はリサーチ・ペーパーの原稿を事前に準備する必要があります。授業後は、授業中の報告に対して受けたコメントを踏まえて原稿の内容を再検討し、改訂します。

10. その他 [In addition]:

財務会計や監査に関する基礎知識を前提として授業を勧めます。また、実証研究を進めるための統計学や計量経済学の基礎知識、先行研究を調査するための英文読解力と、論文やレポートを執筆するためのライティングスキルを前提とします。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）
https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (財務会計) a/Project Research (Financial Accounting)a

担当教員 [Instructor] : 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC644J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーを作成する準備を行うことです。

The purpose of this seminar is to prepare for your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (議論への参加、報告、報告資料によって評価) (100%)

自身の研究に関する進捗報告、議論、リサーチ・ペーパー等の出来栄を、強く成績評価に反映させる予定です。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition] :

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で (できれば、自身の指導教員とも相談した上で)、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識 :

- ・ きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・ リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・ 手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・ レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (財務会計) b/Project Research (Financial Accounting)b

担当教員 [Instructor] : 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC645J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーを作成する準備を行うことです。

The purpose of this seminar is to prepare for your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (議論への参加、報告、報告資料によって評価) (100%)

自身の研究に関する進捗報告、議論、リサーチ・ペーパー等の出来栄を、強く成績評価に反映させる予定です。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition] :

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で (できれば、自身の指導教員とも相談した上で)、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識 :

- ・ きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・ リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・ 手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・ レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (財務会計) a/Project Study (Financial Accounting)a

担当教員 [Instructor]: 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC646J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーをまとめ上げることです。

The purpose of this seminar is to complete your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパーを完成させる、あるいはリサーチペーパーを完成させられる見込みの高い状態とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition]:

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で (できれば、自身の指導教員とも相談した上で)、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・ きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・ リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・ 手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・ レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (財務会計) b/Project Study (Financial Accounting)b

担当教員 [Instructor] : 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC647J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーをまとめ上げることです。

The purpose of this seminar is to complete your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチペーパーを完成させる、あるいはリサーチペーパーを完成させられる見込みの高い状態とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はプロジェクト研究 a、10月入学者はプロジェクト研究 b) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価される。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はプロジェクト研究 b、10月入学者はプロジェクト研究 a) の単位修得が認められるためには、リサーチ・ペーパーを提出し、会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価される。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition] :

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で (できれば、自身の指導教員とも相談した上で)、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・ きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・ リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・ 手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・ レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (財務諸表分析) a/Project Research (Financial Statements Analysis)a

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC648J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、近年の財務会計研究（主に実証研究）をレビューして、研究テーマの設定、財務・市場データの収集方法、基礎的な分析手法について検討する。

ただし、受講者の状況に応じた対応をするので、受講前に相談していただきたい。

In this course, we review recent research on financial accounting research, and discuss the setting of research themes, methods for collecting financial and market data, and basic analytical methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第6回 主要な実証研究のレビュー/Review of Key Studies

第7回～第9回 財務データの収集方法の理解/Understanding how to collect financial data

第10回～第11回 市場データの収集方法の理解/Understanding how to collect market data and other data

第12回～第15回 データの集計、分析方法の理解/Understanding data aggregation and analysis methods

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

講義内での報告(100%)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

会計学的手法〈第2版〉	田村威文・中條祐介・ 浅野信博	中央経済社	2021	4-502- 37931-4	参考書
-------------	--------------------	-------	------	-------------------	-----

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業の報告のための準備を実施していただきます。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

本科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。ただし、公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生で最先端の財務会計研究に関心を寄せる者の受講を受け入れる場合もある（ただし、会計リサーチコースの学生の受入を優先するため、受け入れができない場合もある）。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。

なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定する。なお、英語論文の解題は必須となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (財務諸表分析) b/Project Research (Financial Statements Analysis)b

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC649J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、近年の財務会計研究（主に実証研究）をレビューして、研究テーマの設定、財務・市場データの収集方法、基礎的な分析手法について検討する。

ただし、受講者の状況に応じた対応をするので、受講前に相談していただきたい。

In this course, we review recent research on financial accounting research, and discuss the setting of research themes, methods for collecting financial and market data, and basic analytical methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第6回 主要な実証研究のレビュー/Review of Key Studies

第7回～第9回 財務データの収集方法の理解/Understanding how to collect financial data

第10回～第11回 市場データの収集方法の理解/Understanding how to collect market data and other data

第12回～第15回 データの集計、分析方法の理解/Understanding data aggregation and analysis methods

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

講義内での報告(100%)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

会計学的手法〈第2版〉	田村威文・中條祐介・ 浅野信博	中央経済社	2021	4-502- 37931-4	参考書
-------------	--------------------	-------	------	-------------------	-----

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業の報告のための準備を実施していただきます。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

本科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。ただし、公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生で最先端の財務会計研究に関心を寄せる者の受講を受け入れる場合もある（ただし、会計リサーチコースの学生の受入を優先するため、受け入れができない場合もある）。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。

なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定する。なお、英語論文の解題は必須となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (財務諸表分析) a / Project Study (Financial Statements Analysis) a

担当教員 [Instructor] : 木村 史彦 / FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC650J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、財務会計に関連するリサーチ・ペーパーの作成指導する。テーマについては履修者と相談して決定し、先行研究のレビューやデータの分析方法、執筆方法を詳細に指導する。

In this lecture, I will teach the preparation of research papers related to financial accounting. The theme will be decided in consultation with the students. I will provide detailed guidance on how to review previous studies, analyze data, and write.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第4回 テーマの設定および関連研究のサーベイ/Theme setting and Survey of related research

第5回～第8回 分析モデルの設定/ Test model settings

第9回～第11回 実証分析の実施/ Empirical analysis

第12回～第15回 リサーチ・ペーパーの報告/Reporting of the research paper

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

各回での講義で相当程度の準備が必要となる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

プロジェクト調査 (財務諸表分析) を受講済みであること。

その他 :

本科目の受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (財務諸表分析) b/Project Study (Financial Statements Analysis)b

担当教員 [Instructor] : 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC651J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、財務会計に関連するリサーチ・ペーパーの作成指導する。テーマについては履修者と相談して決定し、先行研究のレビューやデータの分析方法、執筆方法を詳細に指導する。

In this lecture, I will teach the preparation of research papers related to financial accounting. The theme will be decided in consultation with the students. I will provide detailed guidance on how to review previous studies, analyze data, and write.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

修了を予定するsemesterで受講する履修者についてはリサーチペーパーを完成させることが目標となる。修了を予定するsemesterの直前のsemesterで受講する履修者については、リサーチペーパーのテーマを確定させる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第4回 テーマの設定および関連研究のサーベイ/Theme setting and Survey of related research

第5回～第8回 分析モデルの設定/ Test model settings

第9回～第11回 実証分析の実施/ Empirical analysis

第12回～第15回 リサーチ・ペーパーの報告/Reporting of the research paper

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

各回での講義で相当程度の準備が必要となる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

プロジェクト調査 (財務諸表分析) を受講済みであること。

その他 :

本科目の受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (管理会計) a / Project Research (Management Accounting) a

担当教員 [Instructor] : 荻原 啓佑 / KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC652J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年の管理会計研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on management accounting and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、関心のあるテーマに関連する先行研究を整理することが目標である。また、可能な限り、先行研究で用いられている分析方法も修得する。最終的には、リサーチペーパーの目的を設定する。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 : オリエンテーション / Orientation

本科目の目的, 受講方法, 成績評価方法を説明する。

第2～第5回 : 先行研究の全体的なレビュー / Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する。

第6回～第10回 : 先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討 / Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ、詳細に検討をおこなう。

第11回～第15回 : リサーチペーパーの具体的な目標設定 / Setting the objective of research paper

進捗によるが、可能であればリサーチペーパーの目的を設定する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

報告による平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

実務に活かす管理会計のエビデ ンス	加登豊・吉田栄介・新 井康平 (編著)	中央経済社	2022	978- 4502420016	参考書
----------------------	------------------------	-------	------	--------------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

受講者は、指定された文献及び自ら選定した文献を読み、講義中の議論・検討に備えること。

参考書以外の文献はその都度指定する。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

- ・管理会計や原価計算に関する知識を持っていることが必須である。
- ・統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい。

その他講義を受講する際注意すべき点 :

- ・受講を検討している方は事前に担当教員まで相談すること
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (管理会計) b/Project Research (Management Accounting)b

担当教員 [Instructor]: 荻原 啓佑/KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC653J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年の管理会計研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on management accounting and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、関心のあるテーマに関連する先行研究を整理することが目標である。また、可能な限り、先行研究で用いられている分析方法も修得する。最終的には、リサーチペーパーの目的を設定する。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本科目の目的, 受講方法, 成績評価方法を説明する。

第2~第5回: 先行研究の全体的なレビュー/Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する。

第6回~第10回: 先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討/Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ、詳細に検討をおこなう。

第11回~第15回: リサーチペーパーの具体的な目標設定/Setting the objective of research paper

進捗によるが、可能であればリサーチペーパーの目的を設定する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

報告による平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

実務に活かす管理会計のエビデ ンス	加登豊・吉田栄介・新 井康平 (編著)	中央経済社	2022	978- 4502420016	参考書
----------------------	------------------------	-------	------	--------------------	-----

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

受講者は、指定された文献及び自ら選定した文献を読み、講義中の議論・検討に備えること。
参考書以外の文献はその都度指定する。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・管理会計や原価計算に関する知識を持っていることが必須である。
- ・統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい。

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・受講を検討している方は事前に担当教員まで相談すること
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (コストマネジメント) a/Project Research (Cost Management)a

担当教員 [Instructor]: 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC656J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年のコストマネジメントに関する研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on cost management and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、研究対象とする分野・研究対象に関連する先行研究を整理することが目標である。また、研究対象ごとにどのような分析方法が適切なのか整理し、可能な限り分析方法尾を修得する。そして可能であれば、リサーチペーパーのテーマを設定する。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

講義の前半では先行研究を読み、コストマネジメントに関連する諸問題がどのように分析されているかを学習する。後半では、プロジェクト研究 (コストマネジメント) で作成するリサーチペーパーのテーマを設定する。

第1回～第5回

先行研究の全体的なレビュー/Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する

第6回～第10回

先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討/Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ、詳細に検討をおこなう

第11回～第15回

リサーチペーパーの具体的な目標設定/Setting the objective of research paper

進捗によるが、可能であればリサーチペーパーの目的を設定する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

受講者は指定された文献及び自ら選定した文献を読み、講義中の議論・検討に備えること。文献はその都度指定される。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識を持っていることが必須である
- ・経済学と統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・原則として、リサーチペーパーを書くことを目的に、その基礎を学習することを目的としている
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している
- ・扱う内容等については可能限り早い段階から相談する

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺に掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (コストマネジメント) b/Project Research (Cost Management)b

担当教員 [Instructor] : 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC657J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年のコストマネジメントに関する研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on cost management and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、研究対象とする分野・研究対象に関連する先行研究を整理することが目標である。また、研究対象ごとにどのような分析方法が適切なのか整理し、可能な限り分析方法尾を修得する。そして可能であれば、リサーチペーパーのテーマを設定する。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義の前半では先行研究を読み、コストマネジメントに関連する諸問題がどのように分析されているかを学習する。後半では、プロジェクト研究 (コストマネジメント) で作成するリサーチペーパーのテーマを設定する。

第1回～第5回

先行研究の全体的なレビュー/Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する

第6回～第10回

先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討/Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ、詳細に検討をおこなう

第11回～第15回

リサーチペーパーの具体的な目標設定/Setting the objective of research paper

進捗によるが、可能であればリサーチペーパーの目的を設定する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

受講者は指定された文献及び自ら選定した文献を読み、講義中の議論・検討に備えること。文献はその都度指定される。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識を持っていることが必須である
- ・経済学と統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点 :

- ・原則として、リサーチペーパーを書くことを目的に、その基礎を学習することを目的としている
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している
- ・扱う内容等については可能限り早い段階から相談する

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺に掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (コストマネジメント) a/Project Study (Cost Management)a

担当教員 [Instructor]: 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC658J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

この講義では、プロジェクト調査 (コストマネジメント) で修得した知識と分析方法に基づき、リサーチペーパーを作成する。Students will complete research paper based on research methods they have learned before this course. Students are required to set research agenda and proceed research in this course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

この講義では、プロジェクト調査等で執筆してきた研究の主要な調査や分析及びその結果の考察をおこない、リサーチペーパーの質を改善する。

この講義の最終的な目標は、リサーチペーパーを完成させることである。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第8回

調査・分析の実施/Implementation of investigation and/or research

リサーチペーパーの主たる調査・分析をおこなう

第9回～第12回

調査・分析の結果の考察/Detailed discussion of the result

調査・分析の結果を様々な方向から検討・考察をおこない、リサーチペーパーを完成させる

第13回～第15回

リサーチペーパー発表に向けた準備/Presentation of the result of research paper

最後に発表をおこなう。発表資料を作成すべく、研究結果について議論する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は a、10月入学者は b) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は b、10月入学者は a) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員 2 名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

リサーチペーパーの執筆に向けて必要な分析や先行研究の整理を適宜おこなう。

また、リサーチペーパーの完成を目指して執筆し、可能な限り質の高い研究とすることを目指す。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・プロジェクト調査 (コストマネジメント) を履修済みであることが必須である
- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識が必須である
- ・経済学についての基礎的な知識があることが望ましい
- ・統計学についての基礎的な知識があることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・原則として、プロジェクト調査 (コストマネジメント) を履修していることが必要である。
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (コストマネジメント) b/Project Study (Cost Management)b

担当教員 [Instructor]: 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC659J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

この講義では、プロジェクト調査 (コストマネジメント) で修得した知識と分析方法に基づき、リサーチペーパーを作成する。Students will complete research paper based on research methods they have learned before this course. Students are required to set research agenda and proceed research in this course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

この講義では、プロジェクト調査等で執筆してきた研究の主要な調査や分析及びその結果の考察をおこない、リサーチペーパーの質を改善する。

この講義の最終的な目標は、リサーチペーパーを完成させることである。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第8回

調査・分析の実施/Implementation of investigation and/or research

リサーチペーパーの主たる調査・分析をおこなう

第9回～第12回

調査・分析の結果の考察/Detailed discussion of the result

調査・分析の結果を様々な方向から検討・考察をおこない、リサーチペーパーを完成させる

第13回～第15回

リサーチペーパー発表に向けた準備/Presentation of the result of research paper

最後に発表をおこなう。発表資料を作成すべく、研究結果について議論する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は a、10月入学者は b) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は b、10月入学者は a) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

リサーチペーパーの執筆に向けて必要な分析や先行研究の整理を適宜おこなう。

また、リサーチペーパーの完成を目指して執筆し、可能な限り質の高い研究とすることを旨とする。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・プロジェクト調査 (コストマネジメント) を履修済みであることが必須である
- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識が必須である
- ・経済学についての基礎的な知識があることが望ましい
- ・統計学についての基礎的な知識があることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・原則として、プロジェクト調査 (コストマネジメント) を履修していることが必要である。
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (コーポレートファイナンス) a/Project Research (Corporate Finance) a

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN604J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、受講生にコーポレートファイナンスの研究に関する文献を読んでもらいながら、コーポレートファイナンスの研究を行うために必要な知識と研究手法を学習してもらう。また、「プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス)」で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理し、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を提示してもらう。

In this class, students learn about knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance by reading the literature on corporate finance studies. They are also required to survey previous studies and outline their research areas, purposes, and methods in order to write their research papers in the proceeding course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

コーポレートファイナンスの研究に関するリサーチ・ペーパーの作成に必要な知識と研究手法を修得する。

Students acquire knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業の計画/Class Plan:

第1回 オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回-第9回 研究論文の精読と理解/Reading and Understanding research articles

コーポレートファイナンスの研究分野に関する論文を読んでもらい、その内容を報告してもらいながら、研究を行うために必要な基礎知識と研究手法を学習してもらう。

どのような論文を読んでもらうかは受講生と相談して決める。

第10回-第15回 研究主題、目的、方法の設定/Establishing Research Subject, Purpose, and Method

プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理の作業を行いながら、研究分野に関する理解を深めてもらう。定期的に作業の進捗状況と収集した先行研究の内容をまとめて報告してもらう。「プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス)」で作成するリサーチ・ペーパーの研究主題、目的、方法について考える。先行研究をまとめるとともに、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポートを提出してもらう。

注意: 授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

成績評価法: レポート (50%) と平常点 (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Handbook of Corporate Finance	B. Espen Eckbo	North Holland	2007	9780444508980	参考書
The Theory of Corporate Finance	Jean Tirole	Princeton University Press	2005	0691125562	参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習・復習について:

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、文献を読むことと報告の準備に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition]:

受講のために必要となる知識:

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際に注意すべき点：

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。
受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (コーポレートファイナンス) b/Project Research (Corporate Finance)b

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN605J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、受講生にコーポレートファイナンスの研究に関する文献を読んでもらいながら、コーポレートファイナンスの研究を行うために必要な知識と研究手法を学習してもらう。また、「プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス)」で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理し、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を提示してもらう。

In this class, students learn about knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance by reading the literature on corporate finance studies. They are also required to survey previous studies and outline their research areas, purposes, and methods in order to write their research papers in the proceeding course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

コーポレートファイナンスの研究に関するリサーチ・ペーパーの作成に必要な知識と研究手法を修得する。

Students acquire knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業の計画/Class Plan:

第1回 オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回-第9回 研究論文の精読と理解/Reading and Understanding research articles

コーポレートファイナンスの研究分野に関する論文を読んでもらい、その内容を報告してもらいながら、研究を行うために必要な基礎知識と研究手法を学習してもらう。

どのような論文を読んでもらうかは受講生と相談して決める。

第10回-第15回 研究主題、目的、方法の設定/Establishing Research Subject, Purpose, and Method

プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理の作業を行いながら、研究分野に関する理解を深めてもらう。定期的に作業の進捗状況と収集した先行研究の内容をまとめて報告してもらう。「プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス)」で作成するリサーチ・ペーパーの研究主題、目的、方法について考える。先行研究をまとめるとともに、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポートを提出してもらう。

注意: 授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

成績評価法: レポート (50%) と平常点 (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Handbook of Corporate Finance	B. Espen Eckbo	North Holland	2007	9780444508980	参考書
The Theory of Corporate Finance	Jean Tirole	Princeton University Press	2005	9780691125562	参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習・復習について:

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、文献を読むことと報告の準備に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition]:

受講のために必要となる知識:

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際に注意すべき点：

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。
受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) a/Project Study (Corporate Finance)a

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN606J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、プロジェクト調査 a・b (コーポレートファイナンス) において作成した研究概要をもとに、リサーチ・ペーパーを作成してもらう。

In this class, students write a research paper on the basis of their research outline presented in the previous course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチ・ペーパーを完成させる。

Students complete their research paper.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業の計画/Class Plan:

第1回～第10回 リサーチペーパーの作成/Writing research papers

リサーチ・ペーパーの作成に関する指導と実際の作成作業を行う。

第11回～第15回 リサーチペーパーの発表/Presentation of research papers

作成中のリサーチ・ペーパーについて発表してもらい、その内容について議論と考察を行う。

注意: 授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は a、10月入学者は b) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は b、10月入学者は a) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills Swarles, J. M., and Feak, C. B. University of Michigan Press 2022 0472088564 参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習・復習について:

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、リサーチ・ペーパーの作成や報告の準備等に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition]:

受講のために必要となる知識:

プロジェクト調査 a・b (コーポレートファイナンス) を履修して、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポート作成していること。

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際注意すべき点:

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。

プロジェクト調査 a・b (コーポレートファイナンス) を履修していること。

受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）
https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) b/Project Study (Corporate Finance)b

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN607J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、プロジェクト調査 a・b (コーポレートファイナンス) において作成した研究概要をもとに、リサーチ・ペーパーを作成する。

In this class, students write a research paper on the basis of their research outline presented in the previous course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチ・ペーパーを完成させる。

Students complete their research paper.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業の計画/Class Plan:

第1回-第10回 リサーチペーパーの作成/Writing research papers

リサーチ・ペーパーの作成に関する指導と実際の作成作業を行う。

第11回-第15回 リサーチペーパーの発表/Presentation of research papers

作成中のリサーチ・ペーパーについて発表してもらい、その内容について議論と考察を行う。

注意: 授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は a、10月入学者は b) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は b、10月入学者は a) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills Swarles, J. M., and Feak, C. B. University of Michigan Press 2022 0472088564 参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習・復習について:

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、リサーチ・ペーパーの作成や報告の準備等に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition]:

受講のために必要となる知識:

プロジェクト調査 a・b (コーポレートファイナンス) を履修して、リサーチ・ペーパーの

研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポート作成していること。

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際注意すべき点:

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。

プロジェクト調査 a・b (コーポレートファイナンス) を履修していること。

受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する（要 東北大 ID）
https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (監査) a/Project Research (Audit)a

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKO KAMBOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC660J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、受講生が関心をもつ特定のトピックについて、当該トピックに関する知識を身につけ、関連するや監査文献をレビューすることによって、当該トピックに対する深度ある理解を得ることを目的とする。その過程で会計・監査に関する問題意識を育み、必要な文献を収集・精読し、他者にわかりやすく説明し、議論するスキルを身につける。

The purpose of the course is to gain a deeper understanding of a specific accounting and auditing topic. Students can choose any topic that they have an interest in. For the topic, students review both practical and academic literature, present it in each class and discuss it with other students.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

本講義の自由度は高く、選択するトピックは関心を持っているものだけでなく、試験勉強等で苦手と感じているものでもよいです。関心に応じて、論文等を紹介することもできます。受講生が各自のトピックについて理解を深め、それを受講生同士でわかりやすく共有することによって、自他ともに役立ちます。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

講義の進め方、興味あるトピックなどについて説明、受講生同士で相談します

第2回 文献選定/Selection of relevant books or articles

関心のあるトピックに関連する書籍または論文を選定し、輪読スケジュールを決めます

第3~8回 文献輪読/Reading relevant books or articles

文献の担当箇所を読みまとめものを発表してもらい、受講者同士で質疑応答や議論をします

第9回 理解度確認/Comprehension check

第3~8回で学んだことを資料なしで口頭 (+板書) で説明してもらうことにより、理解の定着を確認します

第10~14回 文献輪読/Reading relevant books or articles

文献の担当箇所を読みまとめものを発表してもらい、受講者同士で質疑応答や議論をします

第15回 理解度確認とまとめ/Comprehension check and wrap up

第10~14回で学んだことを資料なしで口頭 (+板書) で説明してもらうことにより、理解の定着を確認します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点(100%)によって評価する

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

各講義、必要に応じて事前準備と必要資料を用意してきてください。

10. その他 [In addition]:

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (監査) b/Project Research (Audit)b

担当教員 [Instructor] : 亀岡 恵理子/ERIKO KAMBOKA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC660J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、受講生が関心をもつ特定のトピックについて、当該トピックに関する知識を身につけ、関連するや監査文献をレビューすることによって、当該トピックに対する深度ある理解を得ることを目的とする。その過程で会計・監査に関する問題意識を育み、必要な文献を収集・精読し、他者にわかりやすく説明し、議論するスキルを身につける。

The purpose of the course is to gain a deeper understanding of a specific accounting and auditing topic. Students can choose any topic that they have an interest in. For the topic, students review both practical and academic literature, present it in each class and discuss it with other students.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

本講義の自由度は高く、選択するトピックは関心を持っているものだけでなく、試験勉強等で苦手と感じているものでもよいです。関心に応じて、論文等を紹介することもできます。受講生が各自のトピックについて理解を深め、それを受講生同士でわかりやすく共有することによって、自他ともに役立ちます。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 オリエンテーション/Orientation

講義の進め方、興味あるトピックなどについて説明、受講生同士で相談します

第2回 文献選定/Selection of relevant books or articles

関心のあるトピックに関連する書籍または論文を選定し、輪読スケジュールを決めます

第3~8回 文献輪読/Reading relevant books or articles

文献の担当箇所を読みまとめものを発表してもらい、受講者同士で質疑応答や議論をします

第9回 理解度確認/Comprehension check

第3~8回で学んだことを資料なしで口頭 (+板書) で説明してもらうことにより、理解の定着を確認します

第10~14回 文献輪読/Reading relevant books or articles

文献の担当箇所を読みまとめものを発表してもらい、受講者同士で質疑応答や議論をします

第15回 理解度確認とまとめ/Comprehension check and wrap up

第10~14回で学んだことを資料なしで口頭 (+板書) で説明してもらうことにより、理解の定着を確認します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点(100%)によって評価する

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

各講義、必要に応じて事前準備と必要資料を用意してください。

10. その他 [In addition] :

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (監査) a/Project Study (Audit)a

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKO KAMBOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC661J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、監査に関連するリサーチ・ペーパーの作成を指導する。

In this course, students prepare their own research papers related to auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

- 研究テーマや進捗などについて説明してもらい、授業の進め方を相談します

第2回 研究計画書/Research proposal

- 研究計画書を提出してもらい、研究の全体像の把握、今後必要となる文献や作業の洗い出しをします

第3回 研究動機と研究の重要性の明確化/Clarifying research motivations and importance

- なぜこの研究を行うのか、動機と意義を明確にします

第4回 研究手法/Research methodology

- リサーチペーパーで使用する研究手法について学びます

第5-8回 関連研究のサーベイ/Literature review

- 関連する先行研究の文献リストを作成し、先行研究レビューを踏まえて仮説を導出します (仮説検証型の論文の場合)

第9回 リサーチ・デザイン/Research design

- 研究計画時に作成していたリサーチ・デザインを第4-8回に基づき見直し、アップデートします

第10-14回 データ収集と分析、論文の執筆/Data collection, analysis, writing

- データ収集と分析を行い、結果を論文にまとめていきます

第15回 プレゼンテーション/Presentation

- 完成したリサーチペーパーを発表し、質疑応答します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

各講義、必要に応じて事前準備と必要資料を用意してください。

10. その他 [In addition]:

リサーチペーパーの進捗や内容によっては、上記の進度予定とは異なる進め方になるかもしれませんが、その場合には受講生と相談して到達目標を達成する最良の進め方を決めます。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (監査) b/Project Study (Audit)b

担当教員 [Instructor] : 亀岡 恵理子/ERIKO KAMBOKA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC663J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、監査に関連するリサーチ・ペーパーの作成を指導する。

In this course, students prepare their own research papers related to auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 オリエンテーション/Orientation

- 研究テーマや進捗などについて説明してもらい、授業の進め方を相談します

第2回 研究計画書/Research proposal

- 研究計画書を提出してもらい、研究の全体像の把握、今後必要となる文献や作業の洗い出しをします

第3回 研究動機と研究の重要性の明確化/Clarifying research motivations and importance

- なぜこの研究を行うのか、動機と意義を明確にします

第4回 研究手法/Research methodology

- リサーチペーパーで使用する研究手法について学びます

第5-8回 関連研究のサーベイ/Literature review

- 関連する先行研究の文献リストを作成し、先行研究レビューを踏まえて仮説を導出します (仮説検証型の論文の場合)

第9回 リサーチ・デザイン/Research design

- 研究計画時に作成していたリサーチ・デザインを第4-8回に基づき見直し、アップデートします

第10-14回 データ収集と分析、論文の執筆/Data collection, analysis, writing

- データ収集と分析を行い、結果を論文にまとめていきます

第15回 プレゼンテーション/Presentation

- 完成したリサーチペーパーを発表し、質疑応答します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

各講義、必要に応じて事前準備と必要資料を用意してください。

10. その他 [In addition] :

リサーチペーパーの進捗や内容によっては、上記の進度予定とは異なる進め方になるかもしれませんが、その場合には受講生と相談して到達目標を達成する最良の進め方を決めます。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (法人税法) a / Project Research (Corporate Tax Law) a

担当教員 [Instructor] : 原 正子 / MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW641J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、法人税法に関するリサーチ・ペーパー作成に向け、各種の研究文献等の資料の収集・整理・検討及びそれに基づくレポート・討議を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

In this course, in order to prepare a research paper on corporation tax law, each student will set research themes and draft a framework for the research paper through collection, arrangement, and amination of various research documents and other materials, and reports and discussions based on the collection.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチ・ペーパー執筆の前提となる税法知識、情報収集の仕方、論文作成方法等を習得の上、判例研究や先行研究のレビューを行い、研究テーマを設定することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第5回 各種の研究文献等の収集方法の理解/Understanding how to collect various reserch documents and other materils

各種の研究文献等の収集方法について概説する

第6回～第10回 判例研究/Judicial precedents study

判例研究を実施する

第11回～第15回 先行研究のレビュー/Review of Key studies

先行研究のレビューを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (50%)、レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に検討を行い、成果をレポートとしてまとめる。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要とする知識 :

租税法一般及び法人税法の基礎的理論に関する知識を有していること。

なお、この科目は、原則として「会計リサーチコース」の履修者を対象とし、受講者の知識、理解度及び研究テーマ案などに応じて、受講者と相談しながら進めていく。

受講生は、自らの研究テーマ案に関する文献等を収集・整理・検討し、レポートを作成する(最低3回)。講義では、受講者が自らのレポートについて説明を行い、それを基に受講生全員及び教員で討議する。この一連の過程を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト調査 (法人税法) b/Project Research (Corporate Tax Law)b

担当教員 [Instructor]: 原 正子/MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW642J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、法人税法に関するリサーチ・ペーパー作成に向け、各種の研究文献等の資料の収集・整理・検討及びそれに基づくレポート・討議を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

In this course, in order to prepare a research paper on corporation tax law, each student will set research themes and draft a framework for the research paper through collection, arrangement, and amination of various research documents and other materials, and reports and discussions based on the collection.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチ・ペーパー執筆の前提となる税法知識、情報収集の仕方、論文作成方法等を習得の上、判例研究や先行研究のレビューを行い、研究テーマを設定することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第5回 各種の研究文献等の収集方法の理解/Understanding how to collect various reserch documents and other materils

各種の研究文献等の収集方法について概説する

第6回～第10回 判例研究/Judicial precedents study

判例研究を実施する

第11回～第15回 先行研究のレビュー/Review of Key studies

先行研究のレビューを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (50%)、レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に検討を行い、成果をレポートとしてまとめる。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要とする知識:

租税法一般及び法人税法の基礎的理論に関する知識を有していること。

なお、この科目は、原則として「会計リサーチコース」の履修者を対象とし、受講者の知識、理解度及び研究テーマ案などに応じて、受講者と相談しながら進めていく。

受講生は、自らの研究テーマ案に関する文献等を収集・整理・検討し、レポートを作成する(最低3回)。講義では、受講者が自らのレポートについて説明を行い、それを基に受講生全員及び教員で討議する。この一連の過程を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する(要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (法人税法) a / Project Study (Corporate Tax Law) a

担当教員 [Instructor] : 原 正子 / MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW643J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、各自が前期までに行ってきた準備を基にして、法人税法に関するリサーチ・ペーパーを作成し、完成させる。

In this course, each student will create and complete a research paper on corporation tax law based on the preparations they have made up to the previous term.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期の履修者 (主に4月入学生) は先行研究のレビュー、判例分析等による考察に基づきリサーチ・ペーパーの執筆を進める。

リサーチ・ペーパーを提出する学期の履修者 (主に10月入学生) は研究をとりまとめリサーチ・ペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第15回

講義は、リサーチ・ペーパーの進捗状況に応じて、受講者と相談しながら進めていく。

Lectures will be held in consultation with the student, depending on the progress of the research paper.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期 (標準的履修の場合、4月入学生はa、10月入学生はb) のプロジェクト研究については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期 (標準的履修の場合、4月入学生はb、10月入学生はa) のプロジェクト研究は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に考察し、リサーチペーパーの執筆を進める。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識等 :

・原則として「会計リサーチコース」に所属しており、「プロジェクト調査 (法人税法) a・b」を受講済であること。

・講義は、受講生がその時点でのリサーチ・ペーパーの進捗状況・内容を報告し、教員がコメント、アドバイスをを行うという形で進める。各受講者の具体的な報告日程については、随時相談の上で決定する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

プロジェクト研究 (法人税法) b / Project Study (Corporate Tax Law) b

担当教員 [Instructor] : 原 正子 / MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW644J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、各自が前期までに行ってきた準備を基にして、法人税法に関するリサーチ・ペーパーを作成し、完成させる。
In this course, each student will create and complete a research paper on corporation tax law based on the preparations they have made up to the previous term.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期の履修生 (主に10月入学生) は先行研究のレビュー、判例分析等による考察に基づきリサーチ・ペーパーの執筆を進める。
リサーチ・ペーパーを提出する学期の履修生 (主に4月入学生) は研究をとりまとめリサーチ・ペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第15回

講義は、リサーチ・ペーパーの進捗状況に応じて、受講者と相談しながら進めていく。

Lectures will be held in consultation with the student, depending on the progress of the research paper.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) のプロジェクト研究については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) のプロジェクト研究は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に考察し、リサーチペーパーの執筆を進める。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識等 :

・本講義は会計リサーチコースに所属しており、「プロジェクト調査 (法人税法) a・b」を受講済であることが履修の状況となる

・講義は、受講生がその時点でのリサーチ・ペーパーの進捗状況・内容を報告し、教員がコメント、アドバイスをを行うという形で進める。各受講者の具体的な報告日程については、随時相談の上で決定する。

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

会計・監査実務 / Accounting and auditing practice

担当教員 [Instructor] : 木村 史彦 / FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 木曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC513J, 単位数 [Credit(s)] : 1

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

公認会計士として必要とされる財務会計・管理会計・監査に関する基礎的な知識を学ぶ。

The purpose of this class is to learn the basic knowledge of financial accounting, management accounting, and auditing necessary to CPA.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

公認会計士として必要とされる財務会計・管理会計・監査に関する基礎的な知識を獲得する。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

- 第1回：連結会計（第1回） / Consolidated Accounting 01
連結会計がなぜ世界に先駆けて米国において生成・発展したのかについて講義する。
- 第2回：連結会計（第2回） / Consolidated Accounting 02
連結基礎概念に基づく会計処理について、それぞれの考え方の基礎にある考え方について講義する。
- 第3回：連結会計（第3回） / Consolidated Accounting 02
国際会計基準と日本の連結会計基準との相違について講義する。
- 第4回：財務報告の概念フレームワーク（第1回） / Conceptual Framework of Financial Report 01
アメリカにおける FASB の活動などを題材として、基準設定における概念フレームワークの発展過程を考察する
- 第5回：財務報告の概念フレームワーク（第2回） / Conceptual Framework of Financial Report 02
IFRS における概念フレームワークについて考察する
- 第6回：財務報告の概念フレームワーク（第3回） / Conceptual Framework of Financial Report 03
ASBJ が 2006 年に公表した「討議資料 財務会計の概念フレームワーク」の内容及び特徴点を検討する。
- 第7回：管理会計総論（第1回） / General Remarks of Management Accounting 01
管理会計とは何か、その領域と体系、財務会計との相違点などについて講義を行う。
- 第8回：管理会計総論（第2回） / General Remarks of Management Accounting 02
ERP の原価計算の内容について説明する。
- 第9回：管理会計総論（第3回） / General Remarks of Management Accounting 03
年次の利益計画と予算管理について講義を行う
- 第10回：監査規範（第1回） / Norms of Audit 01
わが国における証券取引法監査導入前の流れについて検討する
- 第11回：監査規範（第2回） / Norms of Audit 02
わが国における証券取引法監査導入後の流れについて検討する。
- 第12回：監査規範（第3回） / Norms of Audit 03
リスク・アプローチの導入と拡充について学習する
- 第13回：会計倫理（第1回） / Accounting Ethics 01
会計倫理の基本的枠組みについて学習する
- 第14回：会計倫理（第2回） / Accounting Ethics 02
会計倫理に関する制度的な枠組みとして、わが国の公認会計士協会の「倫理規則」を中心に概説する
- 第15回：会計倫理（第3回） / Accounting Ethics 03
違法行為と品質管理にかかる規則等の適用について学習する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

オンライン動画視聴（出席）を単位認定の【前提】とし、そのうえでアサインメント（100%）で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

クラスルームを通じて動画配信を実施します。

<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgONTg0NzQw?cjc=sakxyea>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

10. その他 [In addition] :

- ・会計大学院協会と会計教育研究機構が共同で作成した「教材」をオンラインで学習する。
(担当はすべて本学以外の教員によるオンデマンド動画である)
- ・本科目は【1 単位科目】であり、また【関連科目となる】ので注意してほしい。
- ・この講義を受講すると公認会計士試験合格後の実務補修が一部免除される。ただし、1 コマでも受講しない場合には、実務補修の一部免除が受けられなくなる。
- ・教材が会計大学院協会と会計教育研究機構から提供されるためシラバスの内容が変更される可能性がある。変更が行われる場合には随時説明をしていく。
- ・連携機関と共同で実施する講義であることから、受講方法等について変更となる可能性もある

各回の授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom のコードなどの補足情報は、下記シラバス補遺で掲載する (要 東北大 ID)

https://docs.google.com/spreadsheets/d/10RZeernrdwaToua7siY_H8kzQUFkRrFwPEqds5jt0dk

